

令和6年度

盛岡市教育振興運動の歩み

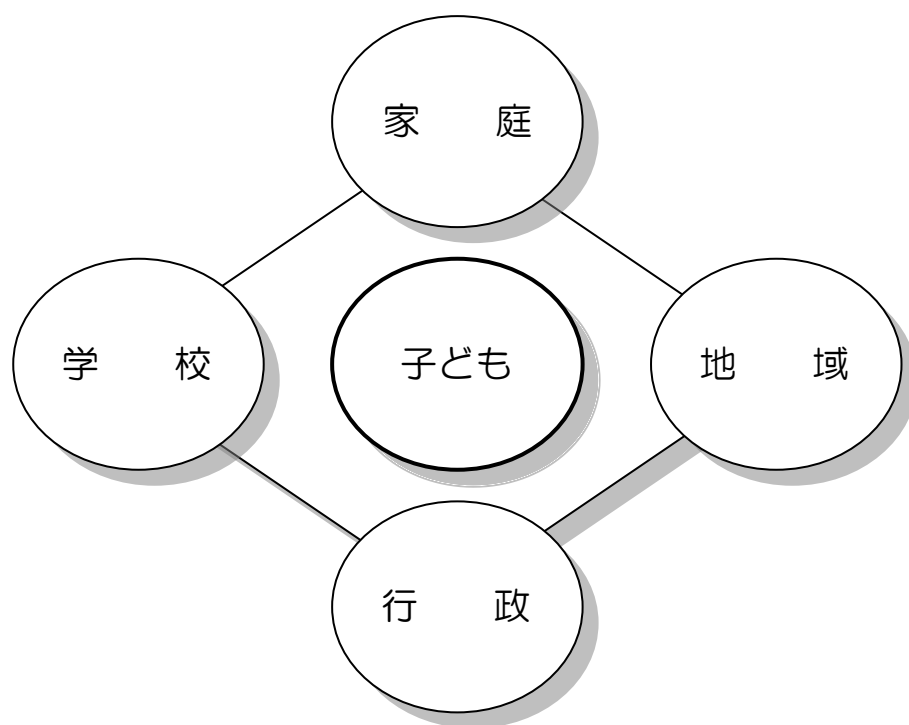
実践事例集 No.58

第12次5か年計画（令和3年度～7年度）

「運動の目標」

地域総ぐるみで

「たくましく生きる盛岡の子」を育もう



盛岡市教育振興推進委員会

盛岡市教育委員会

教育振興運動の充実と発展

盛岡市教育振興推進委員会

会長 千葉 仁一



昭和41年に発足した盛岡市の教育振興運動は、今年度59年目を迎えております。

令和4年度に3年ぶりに地区別集会や実践発表大会を開催しましたが、その後も様々な工夫をしながら開催し、徐々にコロナ前の取組にもどってきております。

令和3年度にスタートした第12次5か年計画は、今年度4年目を迎えております。今年度も6地区で実践発表が行われましたが、どの地区も運動の重点を踏まえた質の高い実践が行われており、コミュニティスクールについても、教育振興運動を土台として広がってきています。感心したことがたくさんありましたが、字数の関係で一部だけを紹介します。

一つ目は、実践の内容が、よく考えられ、深められ、工夫されていることです。

高松小学校区では、「ふれあいと交流を深める実践活動」と位置付けて、中高校生・学校・家庭・地域が連携して開催した多彩な内容の「あすなろまつり」や、清掃活動やお祭り等の町内活動、登山遠足やスキー教室等の学校行事ボランティアに取り組んでいます。

見前南中学校区では、中学生が積極的に地域活動に参加しており、各地区の活動として資源回収や草取り、地域清掃活動を行ったり、学区内の公民館や児童センターと連携して、敬老会で吹奏楽部が演奏したり、センターまつりでボランティア活動を行ったりしています。小中連携の取組として、毎月小学校を訪問して挨拶運動をしたり、年1回小学校を訪問して合唱交流を行ったりしていることは、特筆すべき取組です。

図書ボランティアの皆さんの実践にも感心させられました。山岸小学校区では、ハロウィンお話を英語で行ったり、ベトナム語や英語など数か国の言語を登場させたりするなど、多言語でのお話会に取り組んでいます。小学校の授業にも取り入れたいと思うような工夫がされていました。土淵小中学校区では、小道具を用意して劇のようにお話会を行っており、当日は、亀の親子の話を実演していただきましたが、子どもだけでなく大人も惹きつけられるものでした。

大宮中学校区では、「さまざまなスポーツを通じ、学校・家庭・地域の交流を図りながら、お互いの親睦を深め、生徒の健全育成に努める」という目標を掲げて「地域一斉スポレクの日」を設け、スポーツに取り組んでいます。令和6年度は、グラウンドゴルフ、ノルディックウォーキング、ゲートボールなど6種目に取り組み、参加者の交流を図り、親睦を深めています。

二つ目は、子どもたちの地域の一員としての意識が高まっているということです。

河南中学校区では、実践主題に「地域・家庭・学校の連携により地域社会の一員として誇りをもち地域の発展を担うひとづくり」を掲げ、様々な活動に中学生が積極的に取り組んでいます。地域行事の「夏祭り」では、地域の方から「3年生を中心にしっかりと働いてくれました。役割分担も自分たちで決め、お祭りを大成功に導いてくれました」との声をいただいております。当日の実践発表で、中学生が「改めて、私たちは、地域の方に支えられているいろいろな活動ができるということを確認しました」と、地域の方に感謝の気持ちを述べています。

このように、各地区とも、地域総ぐるみで「たくましく生きる盛岡の子」を育もうと着実に実践を積み上げており、盛岡市の教育振興運動の充実と発展を実感しております。

結びに、各地区で、様々な工夫をしながら教育振興運動の推進にご尽力いただいておりますことに心から感謝申し上げますとともに、子どもたちのよりよい成長を祈念しまして挨拶とします。

令和7年3月

教育振興運動の継続と発展に向けて

盛岡市教育委員会

教育長 多 田 英 史



昭和 41 年に発足した盛岡市の教育振興運動は、今年度 59 年目を迎えました。盛岡市はこれまで、小・中学校の学校区を単位とした教育振興協議会という組織のもとに、半世紀以上の長きにわたり、地域の皆様の御理解、御支援をいただき、子どもたちの学校生活、家庭生活、地域生活を支える運動として、教育振興運動の着実な歩みを進めてまいりました。人間形成と学力向上の両面から子どもたちを支える取組が脈々と継承され、子どもの心身の成長に寄与している本運動の重要性や意義を、再確認しているところであります。

今年度は、「地域総ぐるみで『たくましく生きる盛岡の子』を育もう」を目標として掲げた第 12 次 5 か年計画の 4 年目であります。自ら進んで考え、行動し、社会の中で自立して生きていく力を身に付けた、「たくましく生きる盛岡の子」を育てるため、第 12 次 5 か年計画の重点として「体験活動への参加促進」、「読書活動の習慣化」、「情報メディアとの共生」を設定しております。

各地区の取組を発表する地区別集会や実践発表大会には、多くの皆様に足を運んでいただき、改めて成果を共有する貴重な機会となりました。各学校区における特色ある実践発表や児童生徒発表により、盛岡の子どもたちが大きく成長している姿を拝見することができ、大変うれしく思っております。改めて盛岡の子どもたちの健やかな成長を願いながら、息の長い運動に取り組んでくださっている市民の皆様及び関係各位の御尽力、御理解と御支援に心より感謝申し上げます。

また、教育振興運動を土台としたコミュニティ・スクールの導入が進み、今年度までに小・中学校合わせて 36 校に学校運営協議会が設置されました。今後も、各校の実態や実情に応じた取組の推進に向けて、成果や課題について情報共有しながら進めてまいります。

今、子どもたちには、多様で変化の激しい社会の中で、直面する課題の解決について、自ら進んで考え、自立して生きていく力を身に付けることが求められています。次代を担う「たくましく生きる盛岡の子」を育てるために、児童生徒を中心に据え、家庭、地域、学校、行政の五者が、それぞれの役割と責任を果たしていく教育振興運動の重要性は、今後ますます高まっていくことと考えております。これまでの教育振興運動の歩みを踏まえつつ、更に深まりのある運動となるように進めてまいります。

結びに、各学校区における着実な取組に改めて感謝申し上げますとともに、教育振興運動がますます充実発展するよう、皆様の御理解と御協力をお願い申し上げ、挨拶いたします。

令和 7 年 3 月

目 次

教育振興運動の充実と発展

盛岡市教育振興推進委員会 会長

千 葉 仁 一

教育振興運動の継続と発展に向けて

盛岡市教育委員会 教育長

多 田 英 史

1	盛岡市教育振興運動推進の方針・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	これまでの盛岡市教育振興運動の歩み・・・・・・・・	2
3	盛岡市教育振興運動第12次5か年計画・・・・・・・・	6
4	令和6年度盛岡市教育振興運動推進計画・・・・・・・・	7
5	令和6年度中学生社会参加活動促進事業実施要項・・・・・・・・	9
6	令和5年度中学生社会参加活動促進事業「リーダー実践研修会」・・・・・・・・	10
7	令和6年度中学生社会参加活動促進事業「リーダー育成研修会」・・・・・・・・	13
8	令和6年度中学生社会参加活動促進事業「リーダー実践研修会」・・・・・・・・	16
9	令和6年度盛岡市教育振興推進委員会役員・・・・・・・・	19
10	令和6年度盛岡市教育振興推進委員会事務局員・・・・・・・・	20
11	盛岡市教育振興推進委員会会則・・・・・・・・	21
12	盛岡市教育振興運動地区別集会の実施状況報告・・・・・・・・	23

各学校区の実践

・ 仁王小	学校区教育振興協議会・・・・・・・・	27
・ 城南小	学校区教育振興協議会・・・・・・・・	28
・ 桜城小	学校区教育振興協議会・・・・・・・・	29
・ 厨川小	学校区教育振興協議会・・・・・・・・	30
・ 仙北小	学校区教育振興協議会・・・・・・・・	31
・ 杜陵小	学校区教育振興協議会・・・・・・・・	32
・ 山岸小	学校区教育振興協議会・・・・・・・・	33
・ 大慈寺小	学校区教育振興協議会・・・・・・・・	34
・ 米内小中	学校区教育振興協議会・・・・・・・・	35
・ 土淵小中	学校区教育振興協議会・・・・・・・・	36
・ 中野小	学校区教育振興協議会・・・・・・・・	37
・ 本宮小	学校区教育振興協議会・・・・・・・・	38
・ 青山小	学校区教育振興協議会・・・・・・・・	39
・ 北厨川小	学校区教育振興協議会・・・・・・・・	40
・ 河北小	学校区教育振興協議会・・・・・・・・	41
・ 上田小	学校区教育振興協議会・・・・・・・・	42
・ 山王小	学校区教育振興協議会・・・・・・・・	43
・ 緑が丘小	学校区教育振興協議会・・・・・・・・	44
・ 太田小	学校区教育振興協議会・・・・・・・・	45
・ 太田東小	学校区教育振興協議会・・・・・・・・	46
・ 城北小	学校区教育振興協議会・・・・・・・・	47
・ 大新小	学校区教育振興協議会・・・・・・・・	48
・ 松園小	学校区教育振興協議会・・・・・・・・	49
・ 月が丘小	学校区教育振興協議会・・・・・・・・	50
・ 高松小	学校区教育振興協議会・・・・・・・・	51
・ 東松園小	学校区教育振興協議会・・・・・・・・	52

・ 見前小	学校区教育振興協議会	53
・ 飯岡小	学校区教育振興協議会	54
・ 羽場小	学校区教育振興協議会	55
・ 永井小	学校区教育振興協議会	56
・ 手代森小	学校区教育振興協議会	57
・ 津志田小	学校区教育振興協議会	58
・ 見前南小	学校区教育振興協議会	59
・ 都南東小	学校区教育振興協議会	60
・ 北松園小	学校区教育振興協議会	61
・ 玉山小	学校区教育振興協議会	62
・ 洪民小	学校区教育振興協議会	63
・ 生出小	学校区教育振興協議会	64
・ 卷堀小	学校区教育振興協議会	65
・ 好摩小	学校区教育振興協議会	66
・ 向中野小	学校区教育振興協議会	67
・ 下橋中	学校区教育振興協議会	68
・ 下小路中	学校区教育振興協議会	69
・ 厨川中	学校区教育振興協議会	70
・ 上田中	学校区教育振興協議会	71
・ 河南中	学校区教育振興協議会	72
・ 仙北中	学校区教育振興協議会	73
・ 大宮中	学校区教育振興協議会	74
・ 黒石野中	学校区教育振興協議会	75
・ 城西中	学校区教育振興協議会	76
・ 城東中	学校区教育振興協議会	77
・ 北陵中	学校区教育振興協議会	78
・ 松園中	学校区教育振興協議会	79
・ 見前中	学校区教育振興協議会	80
・ 飯岡中	学校区教育振興協議会	81
・ 乙部中	学校区教育振興協議会	82
・ 見前南中	学校区教育振興協議会	83
・ 北松園中	学校区教育振興協議会	84
・ 玉山中	学校区教育振興協議会	85
・ 洪民中	学校区教育振興協議会	86
・ 卷堀中	学校区教育振興協議会	87

1 盛岡市教育振興運動推進の方針

1 運動展開の方向

盛岡市も年々都市化が進み、市民の生活にも多様性が見られてきております。これに伴い新しい地域課題が次々に生じてきております。地域社会での人々の連帯意識の希薄化によるいろいろな問題や、青少年の健全育成は緊急の解決を要する課題と言えます。

この課題は全国的にも共通性をもっているものと考えられます。昭和 30 年代の高度経済成長がその主な原因とも言われております。物質的価値が様々な価値に優先するという考え方が主流を占め、物質万能の時代がしばらく続きました。

その間、人間の精神面の考え方や自然保護の考え方は軽視の傾向を見せました。前期青少年の非行に拍車をかけ、その健全な育成を阻害する結果となったと思われます。

このような時期に盛岡市では教育振興運動 5 か年計画を策定し、学力向上を主テーマに積極的にこの運動を進めてまいりました。

学力向上から健全育成へと主テーマは変遷しましたが、活動内容は充実してきており、大きい成果と足跡を残しながら今日に至っております。

この成果を大事にしながら、この運動を強力に推進していくことにより、一層青少年の健全育成を充実し、波及させていきたいものと考えております。

2 運動の方針

- (1) 五者が互いにそれぞれの責任を明確にし、力を合わせて教育の向上に努めていく運動
(五者・・・児童・生徒、家庭、地域、学校、行政)
- (2) 自主的・継続的運動
- (3) 地域の実情に即した特色ある運動
- (4) みんなの意欲と力を結集した組織的活動
- (5) 実践活動の積み上げを大切にし、具体的成果を期する運動
- (6) 中学生の社会参加活動に視点を当てた運動

3 具体的方針

- (1) 自主的な地域集会を通して、地域ぐるみで運動を進めます。
- (2) 各地区の課題を重視します。
- (3) 集会地区を設定し、実践発表会を開いて他地域との交流を図ります。
- (4) 中学生の社会参加活動に積極的に取り組みます。

2 これまでの盛岡市教育振興運動の歩み

1 第1次から第11次までの運動の目標並びに共通取組目標

第1次5か年計画(昭和41年～45年)

昭和41年度		(盛岡市教育振興運動推進協議会の結成大会開催)
昭和42～45年度	共通目標	「子どもと共に大人も高まっていこう」

第2次5か年計画(昭和46年～50年)

独自目標		「学力向上」「健全育成」「健康と安全」の三大重点目標を勘案の上、実態に即して策定する。但し、事情によっては共通目標のみですすむことも可。
昭和46年度	共通目標	「望ましい家庭学習の充実をはかり、進んで学習に励む子供に育てましょう」
昭和47年度		「家庭学習の充実をはかりましょう」
昭和48年度		「健康と安全に気をつけ、特に日常生活における習慣づくりに努めましょう」
昭和49・50年度		「みんなで子どもを健全に育てましょう」

第3次5か年計画(昭和51年～55年)

教育目標		創造性豊かな主体的人間の形成
運動の目標		教育成果の向上
昭和51年度	共通目標	健全な子どもの育成・子ども会活動「自主的子ども会育成」
昭和52年度		健全な子どもの育成・子ども会活動「子ども会班活動の活発化」
昭和53年度		健全な子どもの育成・子ども会活動「健全な遊びと環境浄化」
昭和54年度		健全な子どもの育成・子ども会活動「環境美化運動」
昭和55年度		健全な子どもの育成・子ども会活動「心身の健全育成」

第4次5か年計画(昭和56年～60年)

運動の目標		自分を鍛え、周りの人々や自然との調和を図る 創造性豊かな人間性の形成
昭和56・57年度	共通目標	健全な子どもの育成「みんなで心身を鍛え環境の美化に努めよう」
昭和58・59年度		健全な子どもの育成「みんなで健康安全に努め奉仕しよう」
昭和60年度		健全な子どもの育成「みんなで郷土の理解に努めよう」

第5次5か年計画(昭和61年～平成2年)

運動の目標		自分を鍛え、周りの人々との連携を強め、自然とのふれあいを深め創造性豊かな人間性の形成
昭和61・62年度	共通目標	「みんなで健康安全に努め心身を鍛えよう」
昭和63・元年度		「みんなで協力、奉仕し環境浄化に努めよう」
平成2年度		「みんなで地域を見直し郷土理解に努めよう」

第6次5か年計画(平成3年～7年)

運動の目標		自立の心と思いやりの心を持つ、創造性豊かな人間の育成
平成3年度	共通目標	「みんなで郷土に誇りを持とう」
平成4・5年度		「みんなで環境浄化に取り組もう」
平成6・7年度		「みんなで福祉の心を深めよう」

第7次5か年計画(平成8年～12年)

運動の目標		自立の心と思いやりの心を持つ、創造性豊かな人間の育成 —学校・家庭・地域の連携を深めて—
平成8・9年度	共通目標	「豊かな心と丈夫な体・みんなで心と体をきたえよう」
平成10・11年度		「だれでもどこでもボランティア・みんなで街をきれいにしよう」
平成12年度		「ふるさとのよさ再発見・みんなでふるさとに誇りを持とう」

第8次5か年計画(平成13年～17年)

運動の目標		アクセルとブレーキがともによくきく子どもを育てよう —家庭・地域社会・学校の連携を深めて—
-------	--	--

第9次5か年計画(平成18年～22年)

運動の目標		家庭・地域社会・学校が連携して「盛岡の子」を育もう —がんばる子・がまんのできる子・思いやりのある子—
共通目標		「みんなで読書活動に取り組もう」

第10次5か年計画(平成23年～27年)

運動の目標		家庭・地域社会・学校が一体となって、心豊かな「盛岡の子」を育もう —じっくり読書、たっぷり体験、しっかり生活—
共通目標		「みんなで読書活動に取り組もう」

第11次5か年計画(平成28年～令和2年)

運動の目標		家庭・地域社会・学校・行政が一体となって、 「たくましく生きる盛岡の子」を育もう
運動の重点	「すすんで体験」しよう —地域活動への参加—	
	「じっくり学習」しよう —読書活動の充実—	
	「しっかり生活」しよう —情報機器の適切な利用—	

第12次5か年計画(令和3年～令和7年)

運動の目標		地域総ぐるみで、「たくましく生きる盛岡の子」を育もう
運動の重点	「すすんで体験」しよう —体験活動への参加促進—	
	「じっくり学習」しよう —読書活動の習慣化—	
	「しっかり生活」しよう —情報メディアとの共生—	

2 盛岡市の運動の特徴と成果

昭和 41 年、盛岡市の教育振興運動が始まり、今年度 58 年目を迎える。長きにわたり着実に歩みを進め、多くの成果を上げてきた教育振興運動には大きな特徴がある。

5 か年ごとの計画による運動の推進

- ◎ 5 年ごとに検討を加えた目標の見直しにより、活動内容は常に折々の教育課題や子どもたちの実態に即したものとなり、形骸化することなく引き継がれている。

学力だけでなく、子どもたちの人格を育てることを基本に据えた運動

- ◎ 当時、黒澤誠初代会長が「自己創造力の育成と自然との調和を求める人間愛の道」を強調し、盛岡市の教育振興運動は第一歩を踏み出した。以後、人間育成と学習の両面から子どもたちを支える取組が脈々と継承されている。

小学校、中学校の学校区を単位とした活動の取組

- ◎ 学校区を単位として活動に取り組んでいることにより、学校の教育と家庭、地域の連携が取りやすい。また、PTA の組織に地域社会の方を含めて「教育振興協議会」という組織をつくり、子どもたちの学校生活や家庭生活、地域での生活を支えることができている。

3 各学校区での取組の主な成果と課題

運動の出発から今日まで、その時々における盛岡市の教育課題解決を目指して、それぞれの学校区で地道に実践が展開され、多くの成果を得てきた。

(1) 家庭・地域・学校の取組から

- ◎ 家庭・地域や学校の願いの実現のために、家庭、地域、学校が連携を図りながら運動を推進することができた。また、活動の推進を通して、教育振興運動についての理解を深めることもできた。
- ◎ 各学校区では、市の共通目標を大事にしながらも、地域の実態に即した特色ある運動を組織的かつ計画的に展開することができた。
- ◎ 各学校区の実情に応じた個性豊かな活動を進め、教育尊重の気風が一層高まってきた。
- ◎ 青少年健全育成の重要性が指摘される中、各地域ともに一人一人の子どもをよりよく育てるための活動が積極的に推進された。また、地域による非行防止活動が徹底され、健全育成の実を上げた。
- ◎ 地域の課題を明らかにして、子ども会活動や地区の自治活動として取り組み、市民参加運動として、その輪を広げることができた。
- ◎ 郷土芸能の活動や引継ぎ等を通して、地域の人々とのつながりが深くなり、地域全体で児童・生徒を見守るようになった。
- ◎ 地域の子どもは地域で育てる意識が高まってきている。

(2) 子どもの姿から

— 健全育成 —

- ◎ 奉仕やボランティア活動に子どもたちが主体的に参加し、生き生きと活動していた。
- ◎ 様々な活動での多くの方々とのふれあいにより、明るく健やかな子どもを育むことができた。
- ◎ 自分たちの住んでいる地域とのつながりを強め、地域の一員としての連帯感や協力、奉仕の態度が育成された。
- ◎ 地域ぐるみでの伝承活動等を通して、自己の所属感を意識するとともに、他人に対する思いやりの心が育ち、郷土の文化に対する関心が高まった。また、地域の伝統を大切にする気風が高まった。

— 学力向上 —

- ◎ 家庭学習や読書活動の習慣化の取組を通して、子どもたちの学習意欲や読書意欲が高まった。
- ◎ 家庭学習について学校と家庭が共通理解する等、連携を図ることが学力向上につながった。
- ◎ 学校図書館ボランティアの方々の創意工夫ある読書活動や環境整備により、子どもたちの読書意欲が高まるとともに、読書時間が増えた。

健康安全

- ◎ 「早寝、早起き、朝ごはん」や「ノーメディアデー」等の合い言葉を意識した取組を通して、規則正しい生活習慣確立に努める家庭が増えてきている。
- ◎ 家庭と連携して、メディア利用やゲーム使用の時間を縮小するよう努めるとともに、外遊びや運動の奨励を行うことで、体力や運動能力の向上につながっている。
- ◎ スクールガードや見守り活動を地域で行うことにより、安心・安全な登下校ができています。

(3) 課題

- ◇ 家庭、地域社会、学校との連携の強化
- ◇ 民生委員等、地域の人材を活用した地域ぐるみによる運動の推進
- ◇ 家庭や地域における読書活動の広がり充実
- ◇ 読書活動の内容や質の向上
- ◇ 自然体験等の充実と基本的生活習慣の一層の確立
- ◇ SNSを含む情報メディアとの関わり方

4 第12次計画について

(1) 今日的な課題とのかかわりから

近年、社会の変化に伴い、子どもを取り巻く環境は大きく揺れ動き、様々な問題が生じている。いじめや不登校をはじめとする児童・生徒の健全育成の問題、学力向上、登下校の安全、更にはSNSを含む情報メディアとの関わり方など、教育に対する要請や期待が一層広がっている昨今、家庭と地域と学校が総ぐるみとなって、地域に根ざした教育を推進することが望まれている。

(2) 国や県の情勢とのかかわりから

平成18年12月22日に改正された教育基本法には、学校、家庭、地域住民など社会を構成する全ての者が、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚し、相互に連携協力に努めるべきことが規定されている。さらに、平成29年3月に改正された地方教育行政の組織及び運営に関する法律では、学校に学校運営協議会を設置し、学校運営に保護者や地域住民等が参画するとともに、地域と連携・協働した活動推進が求められている。また、岩手県においては11月1日を「いわて教育の日」とすることを条例で定めた。この条例の中では、「県民の地域における教育に関する自発的な活動を促進し、及び教育に関する知識の普及啓発を図る」ことを推進啓発の視点としてうたっている。これらは、盛岡の子どもたちが社会の中で自立に向けてたくましく育っていくために展開してきた運動と一致するものである。

(3) 県の教育振興運動とのかかわりから

令和2年度からの新たな「みんなで教振！5か年プラン」の取組では、全県共通課題の一つとして「情報メディアとの上手な付き合い方」を挙げ、拡大を続ける子どもたちの情報メディア利用の現状に対応する必要があると捉えている。また、もう一つの全県共通課題「コミュニティ・スクールとの連携による運動の展開」では、学校・家庭・地域が「目指す子どもの姿」を共有し、地域総ぐるみで地域学校協働活動・教育振興運動を展開することを求めている。これらは、盛岡市の運動と方向性を同じくするものである。

以上のことを踏まえ、運動の目標を「地域総ぐるみで『たくましく生きる盛岡の子』を育もう」と設定した。盛岡市の教育振興運動の特徴の一つである、「子どもたちの人格を育てることを根本に据えた運動」を推進するためには、「健全育成」「学力向上」「健康安全」をバランスよく充実させることが大切であると考え、運動の重点を「体験活動への参加促進」「読書活動の習慣化」「情報メディアとの共生」の三点に設定した。

59年目を迎えた盛岡市の教育振興運動であるが、いつの時代でも、次の世代を担う子どもたちが、社会的自立に向けたたくましい心と健康な体をもって成長してくれることは、保護者はもとより全ての市民の願いである。第12次5か年計画4年目となる本年度は、運動の3つの重点をもとに、各学校区がそれぞれの特色を大切にしながら、持続可能な取組の形を地域と学校で話し合い、精選したり、新たな取組を模索したりしながら教育振興運動が実践された。また、教育振興運動を土台としたコミュニティ・スクールの導入も各校の実情に応じて進められており、今年度までに、市内36校がコミュニティ・スクールを導入している。今後も、さらにコミュニティ・スクールの導入が進むことから、取組の充実に向けての支援が必要である。

地域総ぐるみで「たくましく生きる盛岡の子」を育もう

教育振興運動とは…

教育振興運動は、子どもたちの「確かな学力」「豊かな心」「たくましい体」を育むために、子どもを中心に据え、家庭・地域・学校・行政の五者が、それぞれの役割と責任を果たす市民運動です。



運動の重点

「すすんで体験しよう」
◎体験活動への参加促進

【健全育成】

「じっくり学習しよう」
◎読書活動の習慣化

【学力向上】

「しっかり生活しよう」
◎情報メディアとの共生

【健康安全】

「たくましく生きる盛岡の子」とは…

自ら進んで考え、行動し、「社会の中で自立して生きていく力」を身に付けた子どもです。五者で共有する目指す子どもの姿です。



五者の取組

地域総ぐるみ

子ども

家庭

○地域の活動への参加や読書活動に取り組む。

- ・地域の活動に親子で一緒に参加する。
- ・親子で読書をするなど、読書（家庭学習）に集中できる環境を整え、習慣化を図る。
- ・地域や学校の環境整備や学習支援などに協力する。



○情報メディアとの付き合い方について話し合う。

- ・メディアの特性や影響について親子で学ぶ。
- ・情報機器の使い方の約束を決める。
- ・健全な生活習慣を確立する。（早寝・早起き・朝ごはん）

学校

○体験活動と読書活動の充実を図る。

- ・地域の特色を生かした自然体験活動や勤労体験活動、地域貢献活動等を展開する。
- ・学校図書館の環境整備と読書習慣の確立を図る。
- ・家庭学習の方法を指導し、内容の充実を図る。



○情報教育の充実を図る。

- ・情報活用能力の育成を図る。
- ・地域や家庭と連携し、講演会や学習会などを実施する。
- ・家庭での情報機器の使い方の約束づくりを促す。

家族の一員としての役割

地域の一員としての自覚

○すすんで体験活動に取り組もう。

- ・地域や学校の体験活動に進んで参加しよう。（奉仕活動、伝承活動、自然体験活動、勤労体験活動等）

○じっくり読書や学習に取り組もう。

- ・幅広く読書活動を楽しもう。（読み聞かせ、読書会、本の紹介、ブックトーク、書評等）
- ・授業や家庭学習に集中しよう。

○しっかり生活リズムを整えよう。

- ・情報メディアと上手に付き合おう。（メディアの特性や影響を知る。ルールを守って使う。等）
- ・規則正しい生活をしよう。（早寝・早起き・朝ごはん）

友達と共に学ぶ意欲

教振運動に対する理解

地域

○地域の活動の充実を図り、参加を促す。

- ・多様な体験ができるよう、地域活動や子ども会活動の充実を図る。（奉仕活動、伝承活動、自然体験、防災・防犯訓練等）

○行事や活動の中で、子どもの活躍の場を作る。

○学習支援や環境整備などの学校支援を行う。

- ・先人教育やキャリア教育に関わる活動支援や外部講師での協力を行う。
- ・図書ボランティアや環境整備活動等に参加する。
- ・挨拶運動や登下校等の見守り活動を展開する。



行政

○地域総ぐるみでの運動を推進する。

- ・子どもたちの社会参加活動を推進する。（リーダー研修会等）
- ・子ども会活動を支援する少年指導員を養成する。
- ・教育振興運動の実践交流の充実を図る。

○コミュニティ・スクールの導入を推進する。

- （地区別集会や実践発表大会の開催、実践事例集の発行）
- ・第12次5か年計画実施の成果と課題を把握し、検証する。
- コミュニティ・スクールの導入を推進する。
- ・「盛岡市学校運営協議会規則」を定め、適切な運用を図る。
- ・学校と地域の連携をサポートする人材を育成する。

「地域総ぐるみ」に向けて

「地域総ぐるみ」による運動の充実

～連携・協働のしくみを見直そう～

- ①学校区にある連携・協働の組織や目的、活動を洗い出してみましょう。
- ②「目指す子どもの姿」の育成に必要な活動を整理しましょう。

～新しい連携・協働のしくみを作ろう～

- ①整理した活動を学校区の各組織で役割分担をしましょう。
- ②各組織をまとめる本部「学校運営協議会」を学校区に立ち上げましょう。（コミュニティ・スクール）

～新しいしくみで運動を推進しよう～

- ①コミュニティ・スクールと運動し、「目指す子どもの姿」の実現に向けた運動を推進しましょう。
- ②取組の成果と課題を共有しながら、運動の改善を図りましょう。

コミュニティ・スクールとは…

コミュニティ・スクールとは、学校運営協議会を設置した学校のことです。学校運営協議会は、学校運営に関することについて広い関係者で協議し、学校運営に保護者や地域住民の声を積極的に生かし、学校が地域と一体となって特色ある学校づくりを進める体制です。



4 令和6年度盛岡市教育振興運動推進計画

1 重点

- (1) 第12次5か年計画の周知及び実践の推進
- (2) 児童生徒を中心に据え、家庭・地域・学校・行政が連携し、地域に根ざした運動の実施
- (3) コミュニティ・スクールについての理解促進及び導入の推進

2 事業計画

期 日	事 業 内 容	会 場
4 月 下 旬	第1回常任委員会 ※資料送付による意見集約	
5 月 16 日 (木)	盛岡市教育振興推進委員会総会	都南文化会館 (キャラホール)
7 月 30 日 (火) ～7 月 31 日 (水)	中学生社会参加活動促進事業 リーダー育成研修会	区界高原少年自然の家
9 月 28 日 (土)	第Ⅲ地区集会 (山岸小学校区)	盛岡市中央公民館
10 月 5 日 (土)	第Ⅳ地区集会 (高松小学校区、黒石野中学校区)	松園地区公民館
10 月 12 日 (土)	第Ⅴ地区集会 (城南小学校区、河南中学校区)	盛岡劇場
11 月 2 日 (土)	第Ⅱ地区集会 (厨川小学校区、土淵小・中学校区)	土淵小・中学校
11 月 9 日 (土)	第Ⅵ地区集会 (永井小学校区、見前南小学校区、見前南中学校区)	盛岡市都南文化会館 (キャラホール)
11 月 17 日 (日)	第Ⅰ地区集会 (大宮中学校区)	大宮中学校
1 月 25 日 (土)	中学生社会参加活動促進事業 リーダー実践研修会	盛岡市西部公民館
2 月 1 日 (土)	盛岡市教育振興運動実践発表大会	盛岡市民文化ホール (マリオス)
2 月 中 旬	第2回常任委員会 ※資料送付による意見集約	

3 五者の役割と取組

- (1) 児童生徒は、すすんで体験活動、じっくり読書や学習に取り組み、しっかり生活リズムを整える。
 - ・地域や学校の体験活動に進んで参加しよう。
(奉仕活動、伝承活動、自然体験活動、勤労体験活動等)
 - ・盛岡の先人や歴史、文化、地域について調べよう。
 - ・幅広く読書活動を楽しもう。
(読み聞かせ、読書会、本の紹介、ブックトーク、書評等)
 - ・授業や家庭学習に集中しよう。
 - ・情報メディアと上手に付き合おう。
(メディアの特性や影響を知る。ルールを守って使う。等)
 - ・規則正しい生活をしよう。(早寝、早起き、朝ごはん)

- (2) **家庭は**、地域の活動への参加や読書活動に取り組み、情報メディアとの付き合い方について話し合う。
- ・地域の活動に親子で一緒に参加する。
 - ・親子で読書をするなど、読書(家庭学習)に集中できる環境を整え、習慣化を図る。
 - ・地域や学校の環境整備や学習支援などに協力する。
 - ・メディアの特性や影響について親子で学ぶ。
 - ・情報機器の使い方の約束を決める。
 - ・健全な生活習慣を確立する。(早寝・早起き・朝ごはん)
- (3) **地域は**、地域の活動の充実を図り、参加を促し、学習支援や環境整備などの学校支援を行う。
- ・多様な体験ができるよう、地域活動や子ども会活動の充実を図る。
(奉仕活動、伝承活動、自然体験、防災・防犯訓練等)
 - ・行事や活動の中で、子どもの活躍の場を作る。
 - ・先人教育やキャリア教育に関わる活動支援や外部講師での協力を行う。
 - ・図書ボランティアや環境整備活動等に参加する。
 - ・挨拶運動や登下校等の見守り活動を展開する。
- (4) **学校は**、体験活動と読書活動、情報教育の充実を図る。
- ・地域の特色を生かした自然体験活動や勤労体験活動、地域貢献活動等を展開する。
 - ・学校図書館の環境整備と読書習慣の確立を図る。
 - ・家庭学習の方法を指導し、内容の充実を図る。
 - ・情報活用能力の育成を図る。
 - ・地域や家庭と連携し、講演会や学習会などを実施する。
 - ・家庭での情報機器の使い方の約束づくりを促す。
- (5) **行政は**、地域総ぐるみでの運動、コミュニティ・スクールの導入を推進する。
- ・子どもたちの社会参加活動を推進する。(リーダー研修会等)
 - ・子ども会活動を支援する少年指導員を養成する。
 - ・教育振興運動の実践交流の充実を図る。
(地区別集会や実践発表大会の開催、実践事例集の発行)
 - ・第12次5か年計画実施の成果と課題を把握し、検証する。
 - ・「盛岡市学校運営協議会規則」の適切な運用を図る。
 - ・コミュニティ・スクールについての理解促進を図る。
 - ・学校と地域の連携をサポートする人材を育成する。

5 令和6年度中学生社会参加活動促進事業実施要項

1 盛岡市教育振興運動中学生社会参加活動促進事業の趣旨

教育振興運動の趣旨に基づき、中学生の社会参加活動への取組を推進することにより、地域社会の一員としての自覚と社会参加への関心を高めるとともに、地域社会の生活の充実・向上に積極的に関わろうとする自主的、実践的な態度を育てるために本事業を行う。

2 主催

盛岡市教育振興推進委員会、盛岡市教育委員会

3 対象者

市内中学校の校内外活動リーダーとなることが期待される生徒

4 事業方針

当該事業は、教育振興運動の一環であることを踏まえ、各中学校では活動計画及び予算の立案段階から各中学校区教育振興協議会と連携し、地域のボランティアや指導者からの助言や支援を積極的に求めるなど、活動の円滑な推進に努める。

5 実施内容

- (1) 各中学校区では、郷土理解活動、仲間づくり活動、ボランティア活動、国際理解活動など、それぞれの地域の特色を生かした様々な社会参加活動に取り組む。
- (2) 教育委員会では、社会参加活動の意義と大切さを理解して積極的に取り組む生徒の拡大と、活動の一層の推進を目指し、全体研修として次の事業を実施する。

ア リーダー育成研修会

概 要	宿泊を伴う集団活動を通じ、各中学校区における社会参加活動を推進する中核となるリーダーの養成を図る。	
実施日	令和6年7月30日（火）及び31日（水）	
場 所	盛岡市立区界高原少年自然の家	
内 容	・合宿生活によるリーダーシップトレーニング ・社会参加活動についての討議及び発表	・奉仕活動の実践 ・野外活動
対 象	各校 2学年生徒 2名	

イ リーダー実践研修会

概 要	各中学校区における社会参加活動についての地域や他の中学校区との意見交流を通じて活動の改善・発展の手掛かりを掴み、次年度以降の活動に役立てる。	
実施日	令和7年1月25日（土）	
場 所	盛岡市西部公民館	
内 容	・社会参加活動についての情報交換及び熟議	・熟議成果の相互共有
対 象	各校 生徒2名、教員1名、地域の方1名	

6 令和5年度中学生社会参加活動促進事業「リーダー実践研修会」

1 趣旨

盛岡市教育振興運動の趣旨に基づき、中学生の社会参加活動への取組を推進することにより、地域社会の一員としての自覚と社会参加への関心を高めるとともに、地域社会の活性化に向けて積極的に関わろうとする自主的・実践的な態度を育てるために本事業を行う。

2 参加者

盛岡市立各中学校及び岩手大学教育学部附属中学校・盛岡中央高等学校附属中学校の生徒45名（各校2名）※学校行事等で3校不参加、各中学校教員・地域の方39名

3 日時

令和6年1月20日（土）13：00～16：00

13：00～13：15 開会行事

13：25～15：15 グループ交流（グループ討議、発表・感想交流）

15：25～16：00 全体交流（各グループから代表班による発表、感想発表、全体助言）



4 会場

盛岡市西部公民館

5 実施状況

(1) グループ交流テーマ：「より多くの人が主体的に関わる社会参加活動とは」

ア アイスブレイク：自己紹介

イ 討議：テーマ「より多くの人が主体的に関わる社会参加活動とは」

- ・2班に分かれ、各生徒が事前に作成してきた資料を活用しながらラベルワークを行った。
- ・各校の社会参加活動を交流する場面では、活動の画像を保存の上持参した学習用端末を活用した。
- ・話し合われたことは、プレゼン資料にまとめ、全体交流に活用した。

ウ 発表会・感想交流

- ・互いの班で話し合った内容を紹介後、感想を交流した。

エ 振り返り

- ・生徒と地域の方が、学校や地域に戻って行う実践目標を決め、「私の次の一歩」として書き残した。

◆ 題材とした各校の実践活動

◇ 第1グループ

学校名	A班	B班
上田	中央病院訪問クリスマスプロジェクト	上中祭プロジェクト
大宮	大宮地区教振スポレク	いわて盛岡シティマラソン有志応援
黒石野	地域貢献活動	地域貢献活動
松園	小中合同あいさつ運動	小中合同あいさつ運動
北松園	落ち葉清掃奉仕活動	あいさつ運動

◇ 第2グループ

学校名	A 班	B 班
仙北	あいさつ運動 GAW～Greeting Activity Week～	あいさつ運動 GAW～Greeting Activity Week～
見前	見中ソーラン隊	アルミ缶回収（毎金）
飯岡	地域行事“ゆざわの森カフェ感謝祭”への参加（吹奏楽部）	地域行事“ゆざわの森カフェ感謝祭”への参加（吹奏楽部）
乙部	郷土芸能伝承活動	郷土芸能伝承活動
見前南	アルミ缶回収	あいさつ運動

◇ 第3グループ

学校名	A 班	B 班
下橋	地域に根ざす防災学区	地域に根ざす防災学区
下小路	アルミ缶回収	挨拶運動
河南	盛岡シティマラソン応援ボランティア	「卓球を通じて世代間交流」ボランティア
城東	スノーバスターズ	岩山の巣箱かけ
岩大附属	地域に貢献できる附中生を目指す活動	地域に貢献できる附中生を目指す活動

◇ 第4グループ

学校名	A 班	B 班
米内	—	—
玉山	羽ばたき鶴・敬老の手紙贈呈活動、老人介護施設訪問活動	羽ばたき鶴・敬老の手紙贈呈活動、老人介護施設訪問活動
渋民	渋中芸術祭	渋中芸術祭
巻堀	ゴミ拾い	郷土芸能

◇ 第5グループ

学校名	A 班	B 班
厨川	募金活動	地区の夏祭り
土淵	第1回西峰学園大交流祭	第1回西峰学園大交流祭
城西	社会を明るくする運動	社会を明るくする運動
北陵	自立性向上取組	オールシーズンVolunteer
中央附属	自習室の実施について	クリスマスコンサートの実施について

(2) 全体交流

ア グループ交流報告（各グループから1班）

各グループの代表班並びに地域の方が討議内容の報告と感想発表を行い、全体で共有した。

イ 全体助言

盛岡教育事務所 神 崇尋 社会教育主事から助言をいただいた。

6 参加者から寄せられた感想（抜粋）

(1) 参加生徒（リーダー実践研修会を通して学んだこと）

- これからは、より「地域の人との関わり」を大切にしていきたいと思いました。感謝や交流の機会を設けていきたいです。
- 違う学校でも見つかった課題は、同じものや似ているもので、互いに解決策を出し合うことができたので、それを学校で取り入れてより良い活動を考えたいです。

- 参加人数が少なくても、違う見方をすれば成功になる何か参加するきっかけをつくり、生徒にその活動の必要さや楽しさを伝える。
- リーダーとして活動することの楽しさや、フォロワーとしてリーダーを支えることについて「発信」していきたい。

(2) 参加交流した地域の方、教員

- 他校の活動を知り、自校の活動をよりよいものにするヒントを得ていた。
- 初めての出会いにもかかわらず、どんどんディスカッションが続き、まとめていく様子に感動しました。
- リーダーの集まりということで、新しい視点での交流ができたと感じた。自校に戻ってからの活動に生かされていていいと思う。
- 自分たちの力で課題を見つけ、よりよい活動にしていこうという態度が見られた。
- 討議を通して、自分たちの活動を相対化し意識づけることができていたと思います。他校のリーダーの考えや、立ち振る舞い、話し方にふれることは、とても刺激になったと思います。
- 中学生の視点での考え方を知ることができた。地域の課題も共有できた。

7 私の次の一歩（抜粋）

(1) 参加生徒（リーダー実践研修会の内容を受けて、具体的にどのような行動をするか。）

- ☆ 地域の方からの助言や他校のいい所を取り入れた活動にしていきたい。
- ☆ 楽しくみんなのできる案内や企画を考える。
- ☆ 話し合いを積極的に行って全校でひとつの活動を頑張っていきたいです。
- ☆ 一つの物事に対して、いろんな角度から捉える。
- ☆ もっと全校の声を聞く。
- ☆ 自分から進んで活動に参加していくことの大切さとすばらしさを伝えていきたいと思いました。

(2) 地域の方、教員（地域の子どもたちのために、具体的にどのような行動をするか。）

- ☆ 子ども達の活動を支援し、主体的に行動できる子ども達になるよう応援する。良き理解者、応援団でありたい。
- ☆ 積極的に地域の子ども達とつながる、関わる。
- ☆ 子ども達の話をよく聞き、まずは行動！！
- ☆ 中学生と地域のつながりの場を増やす。
- ☆ 生徒の声に耳を傾け、生徒の「やりたい活動」をサポートする。
- ☆ 地域の方々と協働し、中学生が学べる場をつくる。

7 令和6年度中学生社会参加活動促進事業「リーダー育成研修会」

1 目的

- (1) 合宿生活を通して、リーダーとしての自覚と協調性を養う。
- (2) 班や小グループでの活動を通して、問題解決力を育てる。
- (3) 奉仕活動の実践を通して、人のために働くこと、人の役に立てることの喜びを感じ取る。

2 参加者

盛岡市立中学校、岩手大学教育学部附属中学校、岩手中学校、盛岡白百合学園中学校、盛岡中央高等学校附属中学校の校内外活動リーダーとなることが期待される生徒 49名（各校2名）

3 日時

令和6年7月30日（火）～31日（水）（1泊2日）

4 会場

盛岡市立区界高原少年自然の家

5 プログラム

- (1) 第1日 開会行事、野外活動、班別交流、課題研究①（事前学習・班別研究）、全体交流等
- (2) 第2日 朝のつどい、奉仕活動、課題研究②③（班別研究・発表）、班別交流、閉会行事等

6 実施状況

市内中学校から養護教諭2名を含む10名の教諭に指導者として協力をいただき、実施した。参加生徒は8班に分かれ、2日間の様々な活動に取り組んだ。

(1) 課題研究と発表（メインプログラム）

班単位で2日間にわたってテーマに取り組んだ。プログラムの最後には各班が工夫を凝らした研究発表を行い、内容について生徒が相互に評価を行った。

ア 課題研究のテーマ 「笑顔があふれる社会参加活動」

イ 課題研究のゴール

- ・ 「笑顔があふれる社会参加活動」を考え、地域との関わり方と働きかけを工夫しよう！
- ・ 課題解決の方法やみんなのアイデアを引き出す話し合いの方法（ラベルワーク）を学ぼう！
- ・ 聞く人の心に響き、賛同を得られる発表の仕方を工夫しよう！

ウ プログラムの流れ

①課題研究の進め方／②各校で実践している社会参加活動の課題を出し合おう／課題の解決策を出し合おう／③どのような社会参加活動に取り組むか構想しよう／④地域への働きかけを工夫しながら、みんなが笑顔になれる社会参加活動を考えよう／⑤自分たちが考えた社会参加活動の発表計画を立てよう／⑥自分たちが考えた社会参加活動を発表しよう／⑦「私の次の一歩」を記入しよう



エ 各班の発表内容（上段：班、提案する社会参加活動）

（下段：提案する活動の特色、目指す姿）

◇1班 あいさつ運動
<活動の特色> 1年中できるあいさつ！！／お互いに笑顔！！／地域との関わり 【目指す姿】<中学生> 地域との関係／活動への参加。 <地域> 大きな信頼 ⇒ 温かく見守ってくれる地域
◇2班 年中ピッコリ大作戦！
<活動の特色> 地域交流しながら、笑顔で一年中清掃する。 【目指す姿】<中学生> 地域のことを思い、みんなが参加しやすい活動にする。 <地域> 中学生を信用し、企画し合ったり積極的に宣伝をすること。
◇3班 地域交流Week
<活動の特色> あいさつ運動、あいさつ強化／資源回収 ⇒ 得たお金でお祭り運営 【目指す姿】<中学生> さわやかなあいさつ／どんどん地域の人と関わる。 <地域> 中学生と仲良く
◇4班 Moristagram
<活動の特色> 広報の強化、SNSの活用、ポスターの活用、活動内容の発信／アプリの運用／ポイントがたまるボランティア／利益がある／ポイントの利用で返礼品を！／進化していく 【目指す姿】<中学生> 主体性／参加意欲 <地域> 暮らしやすい地域へ <中学生・地域> 地域理解・助け合い
◇5班 一石二鳥大作戦！！
<活動の特色> 地域の高齢者などサポート、祭りの伝統をつなぐ／幅広い世代と交流できる、地域への関心・愛着 【目指す姿】<中学生> 伝統を守っていく責任／積極的に若年層を引きこむ <地域> 見守る／世代を超えた交流
◇6班 5Kプロジェクト
<活動の特色> 回覧板／過去の実績／宣伝ができる／アンケート（校内でも行う）／日程選択可／自分達が決定したというやりがい／大人数 【目指す姿】<中学生> 積極的に活動する／地域の思いにこたえる <地域> 意見を伝える／地域活動が活発になる／中学生との関わりが深くなる <中学生・地域> 関わりが深くなる／互いができる範囲で協力する
◇7班 ローカルコネクトPJ
<活動の特色> 年齢なく、楽しみながら、誰でも／参加しやすい制度、分かりやすい、学校での認知／授業の一部、文化調査／メリット、機会増やす（イベントなど） 【目指す姿】<中学生> 気軽な良い関係を築く（日常で頼れる）／自分からの参加／次の世代へ／地域の人を知る <地域> Not 風化／たくさんの人とかかわりを持つ／期待を持つ
◇8班 ごみ拾いオリンピック
<活動の特色> 大会形式で多くごみを拾ったチームの勝ち、ポイント制／ポスター作り配る／年代ごちゃまぜでチームを作る／地域の人と協力できる雰囲気づくり、大人でも楽しめる／笑顔になれる、楽しくごみ拾いできる、町がきれいになる 【目指す姿】<中学生> 中学生を中心に動く／積極的に／内容を簡潔に説明する <地域> 内容を理解する

(2) その他のプログラム

ア 仲間づくり野外活動

アイスブレイクを兼ねて班単位で水晶探しに挑戦し、親睦を図った。

イ 全体交流

担当係が考案したゲームに取り組み、交流を深めた。

ウ 奉仕活動

班ごとに場所を分担して施設の清掃活動に取り組んだ。

エ その他

係別会議、部屋別会議等により役割の確認や計画づくりを行い、分担業務を実行した。

7 参加生徒の感想（抜粋）

(1) 課題研究の感想

- 掃除で地域をきれいにすると同時に、地域の方とも仲を深めながら楽しく活動できるのはいいと思いました。
- SNS、チラシなどあらゆる手段を使って、中学生だけでなく、幼児、小学生も巻き込んでいていいなと思った。
- ごみ拾いという活動をオリンピックにすることで、より楽しいものが生まれると感じた。

(2) 研修会全般についての感想

- 班での話し合いでうまくいかないことが多く、完成するか不安だったけど、やり終えた時、ものすごい達成感を得ることができた。
- この研修会に来なかったら、他校でやっている取組や視点を知ることが絶対にできなかったので、いろいろな知識を得ることができて良かったです。
- 仲間の意見をより深め、様々な視点を大切にすると、新しい意見ができることが分かった。

8 私の次の一歩（抜粋）

- ☆ 仲間と協力すること、意見を積極的に出すことを学んだので、自分からまとめたり発言したりして行って、より学年、学校を活性化させていきたい。
- ☆ たくさんの人と交流して、よりよい未来の実現をしていきたいです。
- ☆ 行事の企画・運営をする時は、いろいろな視点から考えたり、他の人の意見を積極的に取り入れたりしていきたい。

8 令和6年度中学生社会参加活動促進事業「リーダー実践研修会」

1 趣旨

盛岡市教育振興運動の趣旨に基づき、中学生の社会参加活動への取組を推進することにより、地域社会の一員としての自覚と社会参加への関心を高めるとともに、地域社会の活性化に向けて積極的に関わろうとする自主的・実践的な態度を育てるために本事業を行う。

2 参加者

盛岡市立各中学校及び岩手大学教育学部附属中学校・盛岡中央高等学校附属中学校の生徒47名（各校2名）※学校行事等で2校不参加、各中学校教員・地域の方42名

3 日時

令和7年1月25日（土）13：00～16：00

13：00～13：20 開会行事

13：30～15：15 グループ交流

15：25～16：00 全体交流



4 会場

盛岡市西部公民館

5 実施状況

(1) グループ交流

ア アイスブレイク：自己紹介を兼ねたレクリエーション

イ 熟議：テーマ「より多くの人が主体的に関わる社会参加活動とは」

- ・2班に分かれ、各生徒が事前に作成してきた資料を活用しながらラベルワークを行った。
- ・各校の社会参加活動を交流する場面では、活動の画像を保存の上持参した学習用端末を活用した。
- ・話し合われたことは、プレゼン資料にまとめ、全体交流に活用した。

ウ 発表会・感想交流

- ・互いの班で話し合った内容を紹介後、感想を交流した。

エ 振り返り

- ・生徒と地域の方が、学校や地域に戻って行う実践目標を決め、「私の次の一歩」として書き残した。

<題材とした各校の社会参加活動>

◇ 第1グループ

学校名	A班	B班
河 南	いわて盛岡シティマラソン2024応援ボランティア	生徒会ごみゼロ運動
仙 北	小中連携の取り組み（あいさつ運動）	小中連携の取り組み（あいさつ運動）
城 東	ボランティア活動	応援
飯 岡	飯岡中学校区3校合同資源回収ボランティア	飯岡中学校区3校合同資源回収ボランティア
玉 山	敬老の手紙・ケアホーム訪問	敬老の手紙・ケアホーム訪問

◇ 第2グループ

学校名	A班	B班
厨 川	グータッチあいさつ運動	ボランティア活動
米 内	後期ボランティアDay	前期ボランティアDay
北 陵	TKプロジェクト～つなぐ・かかわる・ふれあう～	TKプロジェクト～つなぐ・かかわる・ふれあう～
見前南	小中合唱交流	小中合唱交流
中央附属	I G R利用促進ポスターの作成	クリスマスコンサートについて

◇ 第3グループ

学校名	A班	B班
上 田	中央病院クリスマス訪問プロジェクト	中央病院クリスマス訪問プロジェクト
大 宮	各種イベント・祭りへの参加	いわて盛岡シティマラソン応援
松 園	あいさつ運動	あいさつ運動
乙 部	郷土芸能伝承活動	郷土芸能伝承活動
渋 民	能登豪雨緊急募金	能登豪雨緊急募金

◇ 第4グループ

学校名	A班	B班
下小路	朝のあいさつ運動・アルミ缶回収	朝のあいさつ運動・アルミ缶回収
土 淵	小中交流活動	あいさつ運動
見 前	アルミ缶回収	ボランティア学習会
巻 堀	クリーン大作戦	地域でのあいさつ運動
岩大附属	読書活動	挨拶運動

◇ 第5グループ

学校名	A班	B班
下 橋	下橋中生活向上委員会	下橋中生活向上委員会
黒石野	復興研修の学びを地域に生かす	復興研修の学びを地域に生かす
城 西	募金活動	ごみゼロ運動
北松園	夏祭り清掃ボランティア	落ち葉拾いボランティア

(2) 全体交流

ア グループ交流報告（各グループから1班、計5班が発表）

- ・各グループの代表班が、端末を活用してプレゼンテーションを行い、全体で共有した。地域の方1名も代表で感想発表を行った。

イ 全体助言

盛岡教育事務所 主任社会教育主事 山本 淳 氏

6 参加者から寄せられた感想（抜粋）

(1) 参加生徒（リーダー実践研修会を通して学んだこと）

- どんな活動においても、ゴールへの見通しを持つことが大切だと分かった。他の学校の人の意見を聞いたことで、新しい考えを持つことができた。
- 他校のリーダーは、発言力・プレゼンテーション力・コミュニケーション力がずば抜けていて、とても参考になった。班のみんなが話し合ったことを生かして、自分の学校をさらによりよくしていきたい。

- “共有”することが、活動の活性化や充実感を持たせることにつながるということが分かったので、情報の周知に力を入れていきたいと思う。
- 地域の方の貴重なご意見を聞けてよかった。これから、地域との関わりを意識して過ごしていきたい。
- いろいろな新しい視点で考えを深めることができた。振り返ってみると、大切なことは意外と身近にあるような気がした。あいさつなど、ごく普通のことから、地域とのつながりを発展させていきたい。
- 何事にも主体的に参加し、地域との関わりを増やすことを意識して活動すると、結果も変わってくると思った。

(2) 参加交流した地域の方、教員

- 他の中学校の取組を知ることや、地域の方からのアドバイスは、視野の広がりにつながったと思う。
- リハーサルなし、ぶっつけ本番で発表することは、子どもたちに身につけてほしい資質能力だ。子どもたちのパワーポイントの工夫に驚いた。
- このような緊張感のある場の方が、生徒のコミュニケーション力は向上すると思った。
- 生徒の発表だけではなく、地域の方々からの視点からお話を聞けてよかった。
- 短い時間で自分の意見を述べたりまとめたりするなど、素晴らしいリーダーだ。ここで学んだことを学校や地域で進めてほしい。

7 私の次の一歩（抜粋）

(1) 参加生徒（リーダー実践研修会の内容を受けて、具体的にどのような行動をするか。）

- ☆ 挨拶・情報で地域とつながる！
- ☆ 全員を巻き込んだ活動に変える！
- ☆ 他の生徒の目線になって取組を考える！
- ☆ 広報活動を強化
- ☆ “共有”を意識する
- ☆ 自分が手本になる！
- ☆ 地域の方との活動を楽しく計画する
- ☆ 全校を楽しませる

(2) 地域の方、教員（地域の子どものために、具体的にどのような行動をするか。）

- ☆ 中学生が取り組みたいことや願いを実現させるための努力をする
- ☆ 生徒、地域の声を交流させる場の設定
- ☆ 間口を広げて笑顔で見守る！
- ☆ 双方向で 学びの場づくり まちづくり
- ☆ 本研修会の詳細を校報にして、生徒・保護者・地域に発信する
- ☆ 子どもたちの挑戦を応援する

個人情報保護の観点から、掲載しません。

11 盛岡市教育振興推進委員会会則

第1章 総 則

第1条 この会は、盛岡市教育振興推進委員会といい、事務局は会長の定めるところにおく。

第2条 この会は、市内各学区教育振興協議会の代表、各種関係機関・団体の代表及び学識経験者をもって構成する。

第2章 目的・事業

第3条 この会は、盛岡市の教育水準を向上するために、盛岡市における教育振興運動の推進にあたる。

第4条 この会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 市教育振興運動の全体計画に関すること。
- (2) 各学区教育振興協議会における実践活動の連絡に関すること。
- (3) 研修に関すること。
- (4) 会報や諸資料の発刊に関すること。
- (5) その他必要なこと。

第3章 機 関

第5条 この会に、次の機関をおく。

- (1) 総会
- (2) 常任委員会

第6条 総会は、次のことを行う。

- (1) 会則の制定及び改正に関すること。
- (2) 役員選出に関すること。
- (3) 年間の活動方針と事業計画に関すること。
- (4) その他必要と認めること。

第7条 常任委員会は、次のことを行う。

- (1) 総会への提案事項並びに総会からの委任事項の審議決定に関すること。
- (2) その他の緊急を要する事項。

第4章 役員とその任期

第8条 この会に、次の役員をおく。

- ・会 長 1名
- ・副会長 若干名
- ・常任委員 若干名

役員の選出は総会で行い、任期は1年とする。ただし、補充された役員は前任者の残留期間とする。

第9条 役員の任務は、次のとおりとする。

会長は、本会を代表し、会務を総括する。

副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは、これを代理する。

常任委員は、常任委員会を構成する。

第10条 この会に、事務局をおく。事務局長及び主任担当者、事務局員は会長が委嘱する。

第11条 この会に、顧問をおくことができる。

第5章 経 費

第12条 本会の事業推進に要する費用は、負担金及びその他による。

第13条 本会の会計年度は、4月1日に始まり、翌年の3月31日に終わる。

補 則

第14条 本会の運営に必要な細則は、常任委員会において定める。

12 盛岡市教育振興運動地区別集会の実施状況報告

地区	期日・会場 参加者数	発表学校区	「実践主題」
第Ⅲ地区	9月28日（土） 中央公民館 (160名)	山岸小学校区	「地域総ぐるみの活動で、たくましく生きる山岸の子を育てよう」 ○「体験活動への参加促進」の実践では、「山岸さんさ踊り」をととした地域の伝統芸能の継承への取組が発表された。また、岩屋稲荷神社例大祭、GBM スポーツ大会、中津川ロードレース大会などの地域学習・地域行事により、様々な場面での地域の方々とのふれ合いが、子どもの心の成長にとって貴重な体験となり、豊かな心が醸成されている。 ○「読書活動の習慣化」にかかわる実践では、「読書おもしろい帳」の記録による、子どもたちの意欲の向上に関わる取組や、図書ボランティア「トトロの会」の皆さんによる、子どもたちが本に親しめるよう工夫した取組が紹介された。 ○学校がコーディネートして、地域・保護者向け講座を開設したり、利用にかかわるルール作りを家庭とともに実施したりしながら、情報メディアの適正な利用に関する啓発に取り組んでいる。
第Ⅳ地区	10月5日（土） 松園地区公民館 (103名)	高松小学校区	「家庭・地域・学校のふれあいで心豊かでたくましい子どもを育てよう」 ○「あすなろ祭り」や各町内会の多様な活動、地域の協力による安全マップの作製など様々な取組を地域と関りながら工夫して推進されている。 ○図書ボランティアによる、読書好きの子どもを増やすための環境整備の充実がなされている。また、「冬休み親子読書」では、家庭と連携した家庭読書の推進を図り、本を媒体とした家族とのコミュニケーションと、読書の習慣化につながる取組となっている。 ○中学校区で共通して、情報モラル講座の実施等、積極的に取り組んでいる。
		黒石野中学校区	「地域と中学生の交流を深め、心豊かな黒中生を育てよう」 ○学校と地域との連携を深め、地域に学ぶ『「街道の時間」ふれあい体験学習』の取組や、「黒中 FUNfanday（ファンファンデー）」の取組が紹介された。町内会ごとに多様な活動が展開されていることとともに、生徒主体の活動が展開され、生徒の地域の一員としての自覚と、地域を愛する心の育成に結びついている。 ○図書ボランティアによる読み聞かせ活動が実施されている。生徒の感想には、「表現力に感動し、読書に対する興味が更に深まった」とあり、読書をとおして豊かな情操が育む活動が展開されている。 ○中学校区で共通して、情報モラル講座の実施等、積極的に

			に取り組んでいる。生徒会主体の取組が展開されている。
第 Ⅴ 地 区	10月12日（土） 盛岡劇場 (120名)	城南小学校区	「ふれあい活動や読書活動を通して心豊かな城南の子を育てよう」 ○豊富な地域人材を活用した、さんさ踊り、総合的な学習などの学校での学習や、城南祭や地域祭りなどの地域行事への参加により、様々な場面での地域の方々とのふれ合いが、子どもの心の成長にとって貴重な体験となっている。 ○読み聞かせボランティア「ねこの手」、図書ボランティア「こねこの手」のみなさんによる、読書好きの子どもを増やすための工夫した取組を紹介している。 ○PTA 教養研修部が主催し「情報モラル講演会」を実施し、保護者・地域への啓発につながっている。
		河南中学校区	「地域・家庭・学校の連携により地域社会の一員としての誇りを持ち、地域の発展を担うひとづくり」 ○「体験活動への参加促進」の実践では地区の夏祭りや地域行事への参加をはじめとする、多くの交流活動が、生徒を中心として積極的に展開されている。 ○「読書活動の習慣化」にかかわる実践では、学校図書館の読書へ誘う環境整備はもちろんのこと、本の魅力を伝えるための取組として、多感な中学生の心も「驚づかみにする」読み聞かせボランティアによる活動が展開されている。 ○「盛岡市5か条のスマホルール」を活用し、家庭と連携した取組を行われている。また、「SNS 減量作戦」の取組は、生活委員会が主体となって推進され、情報メディアの適切な利用への意識の向上につながっている。
第 Ⅱ 地 区	11月2日（土） 土淵小・中学校 (160名)	厨川小学校区	「人・もの・自然とのふれあい活動を通し、『地域のよさ』に目を向ける子どもを育てよう」 ○「地域と連携した子ども会活動」や「地域の先生方から学ぶ」の様々な取組に見られるように、地域の人材を効果的に活用しながら、子どもたちが地域のつながりを深める貴重な機会となっている ○「読書活動の習慣化」にかかわる実践では、図書ボランティア「くりほんや」の皆様による、読書好きの子どもを増やすための、工夫した取組が推進されている。 ○児童会が主体となった「1・2・9プロジェクト」の取組や、利用にかかわるルール作りを家庭とともに実施したり、学校がコーディネートして児童・保護者向けの「学ぶ場」を効果的に設定するなど、情報メディアの適切な利用と啓発について、積極的に取り組んでいる。

		土淵小・中学校区	「関わり合いを大切にしながら、地域ぐるみで心豊かな土淵の子を育てよう」 ○親子環境整備、土淵伝統さんさ体験、土っ子田んぼ体験など、子どもたちの笑顔あふれる多様な取組が実施されている。地域の歴史と伝統を大切にしながら、9年間のつながりを大事にした、地域と協働の学校運営の成果である。 ○図書ボランティア「とぼら」のみなさんによる、小学生から中学生までの子どもたちが興味・関心をもてるような図書館の環境づくりや、本の魅力を伝える熱心な活動が展開されている。 ○「情報メディアとの共生」にかかわっては、学校がコーディネートして、保護者、児童生徒向けの「情報モラル教室」を開催し、情報機器の適切な利用と啓発について、積極的に取り組んでいる。
第VI地区	11月9日（土） キャラホール （120名）	永井小学校区	「永井のまちの未来を担う人づくり」 ○「地域ぐるみのあいさつ運動」、「盆踊り大会」「資源回収」「永小フェスティバル」等、様々な取組を工夫しながら多彩な体験活動が実施されている ○図書ボランティアの皆さんによる読み聞かせ活動を紹介いただきました。また、長期休業中の「親子読書」では、家庭と連携した家庭読書の推進を図り、本を媒体とした家族とのコミュニケーションと、読書の習慣化につながる取組が推進されている。
		見前南小学校区	「育てよう 自立の心と思いやりの心」 ○「稲作体験」や、「地域行事」、「バザー」等特色ある取組が紹介された。積極的に参加している子どもたちの姿から、地域との触れ合いをとおして、地域を愛する心情をはぐくむ貴重な機会となっている。 ○図書ボランティア「にこにこパラダイス」のみなさんによる、環境整備の充実と、読み聞かせ等の読書好きな子どもを増やすための取組が行われている。
		見前南中学校区	「○学習習慣の形成、家庭学習の充実、読書活動の展開 ○あいさつの励行、地域での積極的な奉仕活動 ○基本的生活習慣の徹底、登下校時の安全、日常的なスポーツ活動」 ○地区生徒会を主体とする「地区活動」、「地区公民館、児童センターとの連携」「自治会との連携」など、多様な地域の関係機関とかかわった取組が実施されている。また、小学校を訪問しての合唱交流や、陸上交流など、充実した小中連携取組も行われている。小学生にとっては、中学生の姿が目標となり、中学生にとっても、交流をとおして、自己肯定感も高められている。 ○「情報メディアとの共生」について、情報モラル教室の実施等、各学校区で積極的に取り組んでいる。

第 I 地 区	11月17日（日） 大宮中学校 (120名)	大宮中学校区	「家庭・地域社会・学校が一体となって地域の宝を育てよう」 ○地区生徒会による「クリーン作戦」の取組、「地域一斉スポレクの日」におけるPTAや地域との連携など、様々な切り口で充実した取り組みが展開されている。地域の方々とのふれ合いが、子どもの心の成長にとって貴重な体験となり、豊かな心が醸成されており、地域全体で子どもを見守り、育てるという地域の一体感が培われている。 ○「読書活動の習慣化」にかかわる実践では、家庭との連携を意識した取組や、図書ボランティアの皆さんの学校図書館の環境整備はもちろんのこと、共に子どもを育てる視点で教育活動へかかわっている。
参加者合計 783 名			
	期日・会場 参加者数	発表内容	「実践主題」
実 践 発 表 大 会	2月1日（土） 盛岡市文化会館 （マリオス） (630名)	スクールガード・ リーダー表彰 児童生徒表彰 俳句・短歌表彰 実践発表 ・河南中学校区 ・山岸小学校区 児童生徒発表 ・合唱 (山岸学校 合唱クラブ)	盛岡市教育振興運動第12次5か年計画 運動目標 「地域総ぐるみで 『たくましく生きる盛岡の子』を育てよう」 ○地区集会で発表された河南中学校区、山岸小学校区の2校区的実践と、健やかに育つ児童生徒の発表・表彰の姿を通して、今年度の運動の成果を確認することができた。 ○児童生徒発表では、山岸小学校のクラブ活動を通して、目標に向かって努力を重ね、「第76回全日本合唱コンクール全国大会」金賞に輝いた合唱の成果を広く市民に披露する機会となった。

＜まとめ＞

- ・家庭、地域、学校がそれぞれの役割を明確にし、連携、協力し合うことで、児童生徒を健全に育むための組織的・継続的な取組がなされている。
- ・児童生徒の減少、地域の方々の高齢化等、各実践区の現状を踏まえ、それぞれの実践に適宜評価を加えながら、組織や内容の見直しを図り、充実した取組につなげている。
- ・各地域の自然、伝統、文化といった特徴を生かして、地域ならではの特色ある取組がなされていることで、児童生徒の地域へ誇りが育まれ、自分自身を育む地域への愛着が、自己肯定感の育成につながっている。
- ・第12次5か年計画の3つの重点である「体験活動への参加促進」、「読書活動の習慣化」、「情報メディアとの共生」の取組が、各学校区で工夫して実施されている。
- ・教育振興運動を土台とした盛岡市のコミュニティ・スクールについての周知、理解促進の機会となっている。
- ・第12次5か年計画の重点の一つである「情報メディアとの共生」については、それぞれの学校区の実態を丁寧に把握し、課題に応じた取組が展開されている。各学校区の実践を交流し合うことにより、活動の一層の充実を図っていきたい。

＜実践主題＞

151年の歴史と伝統に輝く仁王小学校「笑顔と希望に満ちた仁王の子」を育てよう
～学校・地域・地域総がかりでよさやがんばりを認め、励まし、「共育」にあたるための連携・協働の取組の推進～

仁王小学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

ア 仁王学区応援隊

仁王小学校区には、子どもたちの学習活動の充実を目指した「仁王学区応援隊」という地域や保護者等が所属するボランティア組織があり、地域コーディネーターが窓口として、地域の方や保護者等と学校をつなぐ役割を担っている。今年度も、約100名の登録があり、校外学習の見守りや放課後学習ボランティアとして活動し、子どもたちの体験活動や学習の充実を図っている。



【放課後学習で丸付けを
してもらう様子】

イ 仁王寺子屋

仁王地区福祉推進協議会と仁王児童センターが共催し「仁王寺子屋」を年2回（夏休みと冬休み）実施している。子ども・高校生ボランティア・地域の大人の約80名が、地域のお寺に集まり、学習会をしたり冬はお餅つきをしたりして楽しんでいる。子どもたちからは、高校生に教えてもらおうと勉強が分かる、みんなで学習すると楽しいなどの声が聞かれている。また、この取組を取り入れる地区子ども会もあり、地域ぐるみで子どもたちの家庭学習の充実を支援している。

(2) 読書活動の習慣化

「図書館ボランティア」は、子どもたちが目を引く場所に季節やテーマに合わせたおすすめの本を置いたり、子どもたちの学習に必要な関連図書を選定したりするなど、配架の工夫を行い読書の幅を広げる活動を行っている。また「読み聞かせボランティア」は、毎月の読み聞かせに加えて、先人教育に関わって岩手の偉人の読み聞かせを行ったり、低学年の「お月見集会」でお



【お月見集会で読み聞
かせをしている様子】



【季節によって選書や
装飾が変わる図書館】

月見に関わる本を紹介したりして、子どもたちが地域や日本の文化を知る機会となっている。

(3) 情報メディアとの共生

情報メディアの活用や約束について、まなびフェストに位置付け、家庭でルールを決め、実践したり振り返ったりしている。また、岩手県警察サイバー防犯対策課から講師を招聘して、子ども・保護者・地域の方を対象に「情報メディアとの上手な付き合い方」について講演いただいた。

2 成果と課題

地域の方や保護者と様々な立場で支援することで、子どもたちは学習意欲を高めたり学校以外にも居場所をつくったりすることができた。学校の課題として「メディアとの付き合い方」が挙げられているので、今後は、地域・保護者・子どもたちで効果的に取り組んでいく方法を考えた

＜実践主題＞

ふれあい活動や読書活動を通して、心豊かな城南の子を育てよう

城南小学校校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

・3・4学年では1学期に盛岡ちびっこさんさ運営委員をはじめとする地域・保護者の方を講師としてお招きし、さんさ踊りについて教えていただいている。その後3学年は踊りの由来などについてお話を聞いたり、2学期には盛岡山車推進会の方から盛岡山車の歴史や使用する道具について教えていただいたりするなど、ふれあいを通して学びを深めることができた。【盛岡山車についての学習】



・PTA 主催で行われている「城南祭」には各学年の保護者がブースを設けるが、今年度は地域の方々による昔遊びのコーナーを作っていただいた。子どもたちにとっても、協力いただいた地域の方々にとっても、楽しくふれ合うことのできる時間となった。

【城南祭 地域の方々との昔遊びコーナー】

(2) 読書活動の習慣化

・本校図書ボランティアの方々を中心に読書活動の推進・充実が図られた。おはなしボランティア「ねこの手」やNPO法人「うれし野こども図書室」による読み聞かせ会を実施したほか、図書ボランティア「こねこの手」による図書館蔵書の修繕整理の活動が継続的に行われている。PTA 主催の「城南祭」でも読書ボランティアのブースが開設され、子どもたちでにぎわっていた。



【城南祭 「ねこの手」読み聞かせコーナー】

(3) 情報メディアとの共生

・年度初めに「盛岡市5カ条のスマホルール」を全校児童に配付し、各家庭でスマートフォンやタブレット、ゲーム機などの利用についての約束を決めたり、担任による指導を行ったりして情報機器の適切な利用を促進している。

2 成果と課題

子どもたちの「確かな学力」「豊かな心」「たくましい体」を育むため、学校と保護者、地域が知恵を出し合い、連携しながら本協議会の活動を実施してきた。地域の方々から教えていただいたり、共に活動したりすることを通して、子どもたちは、地域の方々に支えられていることを感じるとともに、将来自分も地域の一員として役に立ちたいという思いをもつことができた。

今後もよりよい実践の方向性について検討を行い、本協議会の一層の充実を図っていきたい。

<実践主題>

家庭・地域・同窓会・学校が連携して、
心の温かい思いやりのある子どもに育てよう

桜城小学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

ア 盛岡さんさ踊りへの参加

本校では、毎年、中央通振興会（町内会）の協力・指導をいただき
4 学年 PTA が親子で練習に取り組み、「盛岡さんさ踊り」パレードに参加している。



イ 子供会・町内会行事等の体験活動への参加

今年度も各子供会や町内会で行われる「祭り」「敬老会」「親子 BBQ パーティー」「餅つき大会」「お飾り集め」等に参加し、地域の中で様々な体験活動を行う場となっている。

(2) 読書活動の習慣化 読書ボランティア「ヨムヨム隊」

ア 読み聞かせ活動

毎月 2 回、朝活動の時間帯に、読書ボランティア「ヨムヨム隊」
が各学級を訪問し、読み聞かせを行っている。児童が興味をもち
そうな内容の本を選書しているため、集中してお話を聞いている。読み聞かせ活動は、年 1 回
実施される「さくらぎ祭（PTA バザー）」でもブースを設置し、保護者、児童ともに読み聞か
せを楽しむ活動となっている。



イ 図書室環境の整備

ヨムヨム隊の活動終了後、図書室の環境整備を行っている。季節や行事に
合わせた掲示物を作成したりイベントを行ったりして、児童が楽しく図書室
に足を運べるよう工夫している。



(3) 情報メディアとの共生

今年度は、9 月の学習参観日に PTA 教養部と共催し、学区にある盛岡情報ビジネス専門学校の
協力を得て「情報モラル教室」を実施し、保護者とともに情報メディアについて学ぶ機会とした。

(4) コミュニティ・スクールの推進に向けた取組

今年度から、学校運営協議会を立ち上げ、年 3 回、委員の方に学校の様子を見ていただいた後、
学校の方針や学校評価の結果、児童や地域の様子などを共有する話し合いを行ったり、委員の方か
らご意見をいただいたりしている。また、地域コーディネーターを介して、ミシンや金管指導、ワ
ックス清掃等のボランティア募集や活動もスタートし、教育活動の充実が図られた。

2 成果と課題

成果として、地域とのつながりが再開してきており、児童を取り囲む保護者、地域、同窓会の
方々に見守られながらの活動が戻り、地域に開かれた学校につながっている点が挙げられる。

一方、課題としては、各家庭をはじめ、様々な立場での考え方が多様化し、これまで行ってきた
活動の意義や実施の方途について、もう一度見直す必要があると考える。

<実践主題>

「人・もの・自然とのふれあい活動を通し、
『地域のよさ』に目を向ける子どもを育てよう」

厨川小学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

ア 地域の自然・歴史・文化にふれる学習や、地域人材を活用したキャリア教育の展開

- ・ 1年生活科「こうえんたんけん」
「どうぶつとなかよし」
- ・ 2年生活科「まちたんけん」
- ・ 特支 生活単元学習「まち探検」「工作教室」



「もぐもぐ荘」清掃ボランティア

(2) 読書活動の習慣化

ア 図書ボランティア「くりほんや」による読み聞かせ活動や、図書室の環境整備（通年）

イ 読書目標冊数や必読図書リストの提示（通年），読書週間の設定（11月）

ウ 「図書館だより」等で、家庭読書の習慣化に向けた協力要請（通年）

エ 冬休み親子読書の取組



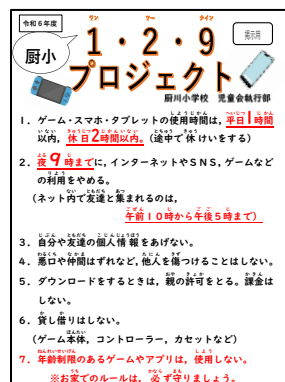
「くりほんや」読み聞かせ

(3) 情報メディアとの共生

ア 情報モラル教育（通年）・情報モラル授業の実施（3年生以上）

イ 情報機器利用に関する保護者アンケートによる実態把握・情報モラル研修会の開催（授業参観日に併せて開催）

ウ 「1・2・9プロジェクト（ワン・ツー・ナインプロジェクト）」の取組



児童会のきまり

(4) コミュニティ・スクールの推進に向けた取組

ア コミュニティ・スクール説明会の開催（講師：市教委工藤指導主事）

イ 学校運営協議会委員選出の検討（R7年度CS導入予定）

2 成果と課題

- (1) 地域の方々が「地域の子どもたちを地域で育てる」「地域で守る」という意識を高くもち、多くの方々が教育活動に参画していただいたおかげで、子どもたちは充実した体験活動を行うことができた。地域の方とのふれあいを通して、地域のよさに目を向けさせ、地域への愛着と感謝の思いを深めさせることができた。
- (2) 「1・2・9プロジェクト」の定着に向け、家庭での情報機器との上手な付き合い方について、継続的な指導が必要。家庭での情報モラル意識を高め、学校と家庭との両輪で児童の情報モラル意識と適切な情報機器利用の態度を育成していきたい。

＜実践主題＞

家庭・地域社会・学校がそれぞれの役割を理解し、連携し合いながら
よく考え、豊かな心でたくましい子どもを育てよう

仙北小学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

7月の「虚空蔵堂例大祭」、10月の「仙北地区運動会」「仙北地区文化祭」では本校のマーチングバンドクラブが演奏を行った。



地区運動会マーチング演奏

また、1年生は、学区内の老人クラブの皆様を招いた「昔遊びの会」でけん玉やめんこ、お手玉などたくさんの遊びを体験した。2年生は、「町探検」で地域の施設やお店を訪問して、インタビューをすることで、地域の方の温かさや地域の良さに気づくことができた。3年生は総合的な学習の時間で地域の方々を講師に招いたり、神社や施設を訪問して話を聞いたりするなど、各学年で地域と連携した体験活動を行うことができた。



1年生昔遊び

(2) 読書活動の習慣化

図書ボランティアによる定期的な読み聞かせの他、時期や季節に合わせたクリスマスお話会などの読み聞かせを実施し、本に親しむ機会を作ることができた。



(3) 情報メディアとの共生

毎月0（ゼロ）の付く日を「ダブルゼロ（宿題ゼロ・メディアゼロ）クリスマスお話会デー」と設定し、メディアに触れずに親子や家族での触れ合いを深められるようにした。

また、仙北中学校区（仙北中、仙北小、向中野小）で「盛岡市のスマホルール」をもとに、統一したメディアのルールを、児童生徒を中心に策定して次年度実施することとした。

(4) コミュニティスクールの推進に向けた取組

本年度、学校関係者委員会を主な母体として学校運営協議会を設立した。創立110周年記念事業を推進するために、地域との協働が一層求められることとなり、学校運営協議会がその大きな役割を果たした。地域からの応援をいただくとともに、児童からも地域への思いや働きかけが重要であることを確認することができた。

2 成果と課題

- ・コミュニティスクールの導入と創立110周年記念が重なり、地域との協働についての意識が高まり、体験活動等を充実させることができた。
- ・情報メディアのルールの取組については、中学校や近隣の小学校と連携して地域の目指す活用の仕方を保護者や地域に周知していく。

＜実践主題＞

みんなで育てる とりょうの子
～ 学校・家庭・地域の思いを込めて ～

杜陵小学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

ア PTA 親子レクの実施

イ PTA おやじの会による「おやじの夏祭り」の開催を計画（夏の中津川増水の為中止）

ウ 「えびす神社まつり」にて4年生が、「monaka 開業イベント」にて3年生が特設ステージで合唱等を披露。

エ 杜陵地区福祉推進会主催の地区運動会への参加。

オ 各地区子ども会での廃品回収や花植え等への積極的参加。

カ 総合的な学習における、地域の方との触れ合い。

① 肴町商店街の協力によるキッズマートの開催。

② 下ノ橋町内会の方の協力による、新渡戸稲造を含む杜陵地区の先人ウォーク。

(2) 読書活動の習慣化

ア 読書の推進（朝読書、親子読書、読書週間、図書祭り など）

イ PTA「図書ボランティア」（名称「てぶくろ」保護者、保護者OB、同窓生などで組織）により、毎週火曜日に各教室での朝の読み聞かせやクリスマス読み聞かせ会を実施。また、金曜日には学校司書と連携し、図書室の環境整備や本の修理等の活動を実施。

ウ 外部専門家を招聘してのストーリーテリング。

(3) 情報メディアとの共生

ア 外部講師を招いての情報モラル教室の開催（高学年児童・保護者対象）

イ 「わが家の決まりごと 100 日運動」（期間：5月中旬から8月中旬）の中に、市教委「わが家のルール」を活用した項目等を設定。

① 「地域参加」「読書」「情報機器の利用」について、各家庭で目標やルールを決めて達成に向けて100日間取り組んだ。

2 成果と課題

学校と家庭と地域が連携し、児童と関わる機会を設けることができた。コロナ禍ではなかなかできなかった、人と深く触れ合う機会を増やすことができ、地域の良さに目を向け、地域への愛着を育むことができた。

地域の様々な方から見守られ、声をかけていただき認められることで、児童の自己肯定感が満たされ、健全育成につながっていくと考えられる。よりよい関わり方を考え、さらに充実した活動を展開していくことが大切である。

<実践主題>

地域ぐるみの活動で、たくましく生きる山岸の子を育てよう

山岸小学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

ア 地域の伝統芸能継承

- ・ 4年生の総合的な学習の時間に山岸さんさ踊り保存会の皆様を講師として招き、太鼓や踊りを教えていただき、保存会の皆様とともに運動会で他学年の児童や保護者に披露した。(5月)
- ・ 3年生の総合的な学習の時間に山岸さんさ踊り保存会の皆様を講師として招き、山岸さんさ踊りについて探求的に学ぶ活動を行った。(3学期実施)

イ 子ども会活動

コロナ5類移行後、再開する活動について吟味・検討し、子ども会活動に取り組んだ。

(2) 読書活動の習慣化

ア 学校：読書会、読書月間、読書おもいで帳※による読書意欲の向上を図った。

※令和4年度から6年度までの3年をかけて、卒業生より卒業記念品として「読書おもいで帳記帳機」を寄贈していただき、児童の読書意欲向上につながった。

イ 家庭：親子読書日の設定、長期休業中の親子読書カードの記録、製本、展示

ウ 図書ボランティアとの連携



図書ボランティア「トトロの会」のみなさんによる読み聞かせ会の様子

(3) 情報メディアとの共生

ア 情報機器の特性や情報モラルの理解と利用のルールの設定

イ テレビやYouTube等の視聴時間を減らす取り組み

ウ 外部講師として株式会社GLEEの小木曾 健氏に依頼し、5・6年生と保護者を対象にして、情報モラル教育のオンライン出前授業を実施

(4) コミュニティ・スクールの推進に向けた取組

令和5年度からコミュニティ・スクールを導入し、年3回の山岸小学校「学校運営協議会」を開催した。

「学校応援隊」の設置に向けた熟議を実施したほか、音楽発表会や6年生を送る会の折に、児童の活動の様子を見てもらう機会を設定した。児童のために学校・家庭・地域がどのように協働していくと良いのか意見交換をしたり、児童の活動についての感想をいただいたりした。

2 成果と課題

今後も児童の課題を地域と共有し、よりよい活動の在り方について検討を重ねていきたい。

＜実践主題＞

みんなで育てよう大慈寺の子 — 地域社会に貢献できる児童の育成をめざして —

大慈寺小学校区教育振興協議会

1 活動の実際

今年度も、これまで「大慈寺の子どもたちをみんなで育てる」を合言葉に継続して取組を行ってきた地域教育協議会の活動をいかし、今年度から本格的に開始した学校運営協議会と連携しながら、さらに活動を充実させていくことをめざして取組を行ってきた。

そのため、地域教育協議会の従来からの活動については、下記の通り充実したものにするができた。

(1) 体験活動への参加促進

ア 今年度も盛岡の先人の生き方を学ぶ先人教育として、4・5・6年生を対象に「わんぱく原敬塾」を実施した。また、今年度の原敬追悼会は休日開催であったが、3・4年生が事前に収録した映像により参加し、敬愛の念を深めている。

イ 社会貢献の精神を育てるボランティア教育として、上記の原敬追悼会に先立ち、大慈寺（原敬墓所）の落ち葉掃き活動も実施した。

ウ 上記の他、児童支援委員会、PTAの方々の協力をいただき、校地内の落ち葉掃き活動も実施した。

エ 登下校時の見守り隊の活動として、児童の交通安全指導とあいさつ運動を今年度も実施した。また、多くの見守り隊の方々をお招きして「感謝の会」を実施することができた。校内マラソン大会でも、公道を走る児童の安全の見守りを行い、安全に実施することができた。

オ 6年生が地域の歴史や地域発展保護に尽力している方々から直接お話を聞いて学ぶ学習会を開催した。自分たちが生活するこの街の良さを再発見したり、地域のために活動する尊い思いに触れたりすることができた。



(2) 読書活動の習慣化

今年度は、図書館ボランティア「スマイリー」の方々と、配置いただいた学校司書の先生に、各学年の教室で読み聞かせをしたり、図書室の環境整備作業を行ったりしていただいた。

(3) 情報メディアとの共生

情報モラル学習を開催した。今後も啓発を図る。



2 成果と課題

今年度、学校運営協議会を設置し、地域教育協議会を推進母体にして活動を展開した。学校・保護者・地域が連携し、子どもたちの健全育成に向けて、「できる活動を進める」という考え方に立ち、実施可能な活動を進めることができた。来年度は学校運営協議会での熟議を基盤にして、連携を図り、地域教育協議会の活動をさらに充実させて、保護者の方々、地域の方々とともに、より一層地域の学習素材や環境を生かした活動に取り組んでいきたい。

＜実践主題＞

かかわりあいとつながりを大切にし、心豊かな子どもを育てよう

米内小・中学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

中学校では、7月に生徒会が主体となってリヤカーでの資源回収を行い、地域の協力もあり5tトラック2台分の資源回収を行うことができた。また、シルバーメイト活動において、地域の担い手として独居老人宅を訪問し、草取りなど奉仕活動を行った。10月には保存会と共同して学区内にあるカキツバタ群落の整備も行うこともできた。その際、郷土料理を作って食べるなど、食育にも取り組んだ。



11月は福祉施設へ模造紙大の手づくりカレンダーを贈呈し、入居者とふれあった。

(2) 読書活動の習慣化

幼稚園では、週1回絵本の貸し出しを行っている他、年2回の「絵本まつり」の開催と、図書ボランティア「おはなしポケット」による親子読み聞かせ会を行い、親子で絵本の世界を共有して楽しむ時間を持つことができた。



小学校では、図書ボランティア「おはなしポケット」による週1回「朝の読み聞かせ」及び月2回「業間休み時間の読み聞かせ」を行い、本に興味を持つと共に読書の習慣化が伺えた。

(3) 情報メディアとの共生

小学校では、各学年がテーマを設定し、低学年では日常的な利用促進、中学年では様々な場面での活用、高学年では学校行事等での効果的な応用ができるよう取り組んだ。



学習発表会では、高学年が自分達の発表内容に合わせてパワーポイント資料を作成し、背景として使用するなど、ICTの活用を図ることができた。

また、学校内だけでの利活用にとどまらず、自宅へもタブレット端末を持ち帰り、学習ソフトを使った家庭学習や課題の配信・提出も実践した。

2 成果と課題

協議会の活動は、幼小中学生が一体となっていくことが特徴であり、地域の少子高齢化が進む中、地域へ活力を与える一翼を担っていると共に、人と人との絆・結をより一層深めるものとなっている。一方、中学校では、行事や部活動と教育振興運動の活動時期が重なることも多く、さらなる年間行事の精選と調整が必用不可欠となっている。

各種調査によれば、米内小中学校区の児童生徒の情報メディアの利用時間が多いことが明らかとなっており、児童生徒だけでなく、保護者も交えての適切な利用についての啓発を継続的に取り組む必要があるとの報告もあり、協議会として何ができるか模索が必要である。

<実践主題>

関わり合いを大切にしながら、地域ぐるみで心豊かな土淵の子を育てよう

土淵小・中学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

ア 親子で環境整備作業

PTA 厚生部が中心となり、小中学生とその保護者が早朝から校舎の窓拭きやトイレ掃除、校庭周辺の側溝の泥上げ、校庭の土ならし等に取り組みました。1年生は親子でプランターに苗植えをした。



イ 土淵伝統さんさ体験、土っこさんさ継承

土淵地区教育振興協議会が中心となり、地域学校協働推進員さんが小中学生を募集し、土淵伝統さんさ保存会の方々が指導してくださった。中学生が横断幕をもち、さんさパレードに出場。学校では土っ子っこさんが受け継がれ、上級生と保存会の方に教わりながら4年生がさんさ踊りに取り組み、翌年運動会や学習発表会で披露している。

ウ 「土っこ田んぼ学習」

地域の田んぼで田植え、稲刈り、脱穀、お米の販売体験

エ 地域の行事へ参加

- ・中学生の地区清掃活動や夏祭りへの参加
- ・小学生の神社奉納相撲大会への参加



(2) 読書活動の習慣化

ア 図書ボランティアとぼらさんによる環境整備と小・中学生への読み聞かせ

イ 読書推進活動（読書強化月間、図書館祭り、朝学習読書、土っこセクション読破、とぼら文庫推進、読書年間目標冊数設定、読書記録カード、中学生による読み聞かせ）

(3) 情報メディアとの共生 ケータイ・スマホ安全教室（情報モラル教育）

西警察署生活安全課の方を講師に迎え中学校は全校で、小学校は5・6年生を対象にし、保護者も対象に情報機器のルールについて講演会を行った。家庭でのルールを見直す良い機会となった。



(4) コミュニティ・スクールの推進に向けた取組

地域学校協働推進員さんから「土っ子お助け隊」を募集してもらい、見守り隊や学校行事や学習の様々なボランティア活動に協力をいただいた。また、学校運営協議会で「学校に期待すること」等のテーマで話し合いを重ねながら地域と協働での取り組みを進めている。

2 成果と課題

環境整備作業、田んぼ学習、地域の清掃活動やお祭りへの協力等、地域の方々と関わる豊富な体験活動を実施することができた。一方で、地域自治会との連携の仕方、児童生徒の地域行事への積極的な参加、ボランティアとの連携や調整が課題である。

＜実践主題＞

学校・家庭・地域が一体となって、
進んで取り組む中野の子を育てよう

中野小学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

各地区子ども会では、コロナ禍前に行っていた様々な取組について見直しを図りながら、活動に取り組んでいる。長期休業を中心に、町内会の祭り、公民館・公園清掃、資源回収等への参加等も積極的に行っている。中でも、「川目地区民運動会」「中野地区民体育祭（今年度は雨天のため中止）」については、運営面でPTAの方々が役員等で協力したり、6年生や中学生が係として携わったりし、学校・家庭・地域の連携が図られている。



(2) 読書活動の習慣化

朝読書やぐんぐんタイムなど、読書の時間を確保し、読書に親しむための働きかけを継続して行っている。意欲づけのため、まなびのプランに学年の読書目標冊数（低ー100冊、中ー70冊、高ー40冊）を設定するとともに、必読図書を指定して1年間のうちに目標達成するように声かけをしている。長期休業中の親子読書の取組は、時間を共有することで会話も弾み、読書の幅が広がり、本に親しむ児童が増えたりしている。さらに、図書ボランティアによる読み聞かせや「お話キャラバン」の活用により、読書への関心を高めると共に、意欲付けを図っている。



(3) 情報メディアとの共生

学校では、まなびのプランに学習環境整備（学習中はノーメディア、学習目標時間）を項目に入れ、落ち着いて勉強に取り組むことができるように意識付けしている。また、今年度の学習発表会では、5年生が、SNSの上手な利用の仕方について発表し、全校の子どもたちみんなでSNSとの付き合い方について、学んだり考えたりする機会となった。



(4) コミュニティ・スクールの推進に向けた取組

昨年度から学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールを導入した。中野小学校区は、以前より教育振興協議会として地域と一体となった活動を推進しており、学校運営協議会の委員は教育振興協議会の組織をもとにした。年3回の開催を実施・予定しており、学校運営に関わることや子どもたちの様子について協議や意見交流を行っている。

2 成果と課題

成果として、コロナ禍で中止や縮小していた交流活動や体験活動等について、見直しを図りながら取り組まれるようになってきており、学校・家庭・地域の連携がより図られるようになってきたことが挙げられる。また、見守り隊の方々のご尽力により、今年度も交通事故等は1件もない。今後も地域との連携を大切にして児童の健全育成、安全確保を図っていく。

SNSの影響を受けた生徒指導事案や生活習慣の乱れの問題もあり、メディアの利用の仕方について家庭と一緒に考えていくとともに、保護者への啓発活動のさらなる充実が課題である。

<実践主題>

家庭・地域社会・学校が連携を深め、

心豊かでたくましく生きる「本宮の子」を育てよう

— 子どもを豊かに育てる本宮の「宝」をとおして —

本宮小学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

本校では、「本宮の教育を語る会」（11月）、「本宮小学校区教育振興運動発表会」（1月・今年度は150周年記念式典事業を兼ねる）を行い、地域とともにある学校の推進及び実践交流の充実につなげているとともに、生活科と総合的な学習の時間を中心としながら地域とのかかわりを大切にした教育活動の充実にも取り組んでいる。校外活動として、地域行事への本校金管バンドの出演や、各地区子ども会での勤労体験活動、奉仕活動、伝承活動などの多様な体験活動も行われている。



図書ボランティアと副校長先生による読み聞かせ

(2) 読書活動の習慣化

図書ボランティアによる朝や昼の読み聞かせなどの活動を広げ、今年は校長先生や副校長先生と図書ボランティアとのコラボによる読み聞かせも行った。図書担当教諭との連携で、図書の整理・修繕、図書室掲示、本の紹介などにも取り組んでる。11月には、図書委員会が「図書まつり」を開催し、若葉ホールや学年棟廊下等での本の紹介、図書クイズなどの子どもたちによる主体的な取組も展開されている。

(3) 情報メディアとの共生

1学期末と2学期末に、家庭におけるメディア時間に関するルール、実際のメディア時間等に関する保護者アンケートを昨年度に引き続き、実施した。

昨今の傾向と変わらず、児童のメディア利用時間に問題はありませんが、しっかり子どもに声掛けできる保護者が多いことも分かった。このようなアンケート結果等を学校・家庭・地域で共有する機会となった。

2 成果と課題

- ・教育振興運動の理念を共有しながら、子どもたちを中心に据えた活動の充実が図られた。
- ・学校運営協議会を中心としながら、取組の成果と課題を共有し、運動の改善を図る必要がある。

盛岡市立本宮小学校メディアアンケート結果（2学期末）

※保護者アンケートより、メディアに関わる部分のみ抜粋

1 家庭ではおさんと1日辺りのメディア時間（ゲーム・動画・テレビ等）を決めている。

○プラス評価…67パーセント マイナス評価…33パーセント

2 家庭では、1日のおさんのメディア時間を決めて実行できるよう、声掛け等に努めている。

○プラス評価…76パーセント マイナス評価…24パーセント

3 おさんは保護者と決めたメディア時間を守っている。

○プラス評価…55パーセント マイナス評価…45パーセント

4 おさんの1日辺りのメディア時間について

○平日について

1時間以内…35パーセント 2～3時間…57パーセント 4時間以上…6パーセント

○休日について

1時間以内…7パーセント 2～3時間…58パーセント 4時間以上…34パーセント

<実践主題>

「家庭・地域社会・学校の連携のもとに
主体的に考え行動できる心豊かでたくましい子どもを育てよう」

青山小学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

8月には、小中合同の「あいさつ運動」を行った。中学生の元気なあいさつを手本にしながら小学生も一緒になって、小中学生や地域の方々に進んであいさつをしていた。

(2) 読書活動の習慣化

ア 毎朝 10 分間の朝読書を通年で実施した。

イ 図書ボランティア「よみっこ」による読み聞かせ活動と読書活動充実のための環境整備等の取組を推進した。

(3) 情報メディアとの共生

学級担任が、情報モラルやネット依存等の諸問題について、学級活動の時間をとおして指導した。

(4) コミュニティ・スクールの推進に向けた取組

8月に、昨年度の学校評価（家庭での取組）のアンケート結果をもとに、標記会議を開催した。

テーマを、「教育の基本は『家庭だが』・・・今、みんなで何ができるのか？ ～青山小学校区の現状と課題から～」と設定し、下記の5項目について、意見交換をした。



- ア 優しい言葉遣いをする子どもに育てるには
イ 早寝・早起き・朝ご飯の習慣を身に付けさせるためには
ウ 家庭で、お手伝いに取り組む子どもに育てるためには
エ 家庭で挨拶を交わし合うには
オ 進んで家庭学習に取り組む子どもに育てるためには

会議後は、懇親会を行った。

2 成果と課題

- ・ 小中合同のあいさつ運動や奉仕活動を行ったことにより、学校間の交流を深めることができた。
- ・ 図書ボランティアと連携して図書室環境整備等を進めたことにより、児童の読書活動が一層充実したものとなった。
- ・ 教育振興協議会キックオフ会議を開催したことにより、課題に対する各家庭での取組や、悩みについて意見を出し合ったことで、家庭と学校とで果たすべき役割について理解していくためにきっかけにすることができた。
- ・ 情報機器が正しく利用されることにより、児童の安心・安全につながるよう、引き続き保護者との連携を密にしていく。

<実践主題>

「たくましく生きる盛岡の子」を育もう
～ かしこく・あかるく・たくましく ～

北厨川小学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

① 納涼夏祭り

北厨川地区自治福祉協議会主催の北厨川地区「納涼夏祭り」が開催された。北厨小各子ども会による売店や盛附高さんさ部による「さんさ踊り」等々があり、去年の参加者約 300 名を大きく上回る約 460 名が集まり大盛況だった。



② 夏と秋の交通安全運動

全国交通安全運動期間に合わせて、東北農業研究センター正門付近の歩道で交通安全の啓発活動を実施した。児童センター利用の児童を中心に児童約 40 名が地域の方々や交通指導員とともに参加し、行き交う車に小旗を振り交通安全を呼び掛けた。笑顔で手を振り返してくれるドライバーもいて、参加者同士でも笑顔があふれた。



③ あいさつ運動

小中学校連携の実践活動として、毎月 1 日に北厨小児童会と北陵中学生徒会が「朝のあいさつ運動」を実施した。異年齢における「みんなを思いやる子ども」が実践されている。



(2) 読書活動の習慣化（図書ボランティア〈どんぐりズ〉の活動）

① 環境整備作業：毎週水曜日

本の修理や季節に合った掲示物作成により、居心地の良い読書環境の推進が図られている。

② 読み聞かせ活動：各学年の希望月の朝学習 15 分間

時間を忘れるほど本の世界に引き込まれる子どもたちのため、研修会もして継続している。

(3) 情報メディアとの共生

① 情報モラルやネット依存等の諸問題、ネットによる人権問題等の学習を実施した。

② 家庭、地域との情報の共有と「盛岡市 5 か条のスマホルール」の取組を推進している。

2 成果と課題

子どもたちの笑顔を何よりの目標とし実践活動に取り組むことができた。特に今年度は「コミュニティ・スクール」を立ち上げたことにより、今後さらに、子ども・学校・家庭・地域・行政の五者の連携強化を進めていく。それぞれの役割と責任を果たし、地域総ぐるみで「たくましく生きる盛岡の子」を育んでいきたい。

＜実践主題＞

ふれ合いを通して、思いやりの心とたくましく生きる力をもつ子どもを育てよう
～地域ぐるみで育てる取組をめざして～

河北小学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

ア あいさつ運動への参加

- ①児童会による日常のあいさつ運動 ②小中合同あいさつ運動（年3回）
 - ③保護者や地域の皆さんとのふれ合いあいさつ運動（年4回）
- 運動を行う中で、温かい心や感謝の気持ちを育むことができた。

イ 学校行事・PTA行事への参加

年3回の誕生集会、感謝集会、親子清掃等を保護者や地域の方をお招きして開催した。行事を通して、「命の尊さ」、「生きることの幸せ」、「支えてくださる地域の方や保護者への感謝の気持ち」をもつことができた。



【感謝集会】

ウ 校内でのゲストティーチャー、地域の方とのふれ合い（各学習支援活動）

- ① さんさ踊り ②学習支援ボランティアとの水泳学習等
 - ③校外学習ボランティア（まち探検、学区内探検、動物公園見学）
- ゲストティーチャーや地域の方からたくさんのことを教えていただいた。

エ 地域の行事への参加を通したふれ合い

- ① 子ども会行事 ②町内会行事 ③地域の行事

学校以外で行われる子ども会行事や地域行事に進んで参加することで、力を合わせて活動する喜びや良さを感じながら世代間の交流を深めることができた。



【読み聞かせ】

(2) 読書活動の習慣化

ア 読書指導

多様な本との出会い、多読、親子読書、委員会やボランティアとのふれあいの中で、思いやりの心を育みじっくり読書や学習をすることができた。

イ 図書ボランティア「よむよむ」さんによる読み聞かせ・本の修繕・図書館整備

学級や全校、誕生集会など、様々な読み聞かせを通して、本に親しみ、世界を広げ楽しむ中で、読書の素晴らしさを味わわせることができた。

(3) 情報メディアとの共生

ア 「健康ポイントチャレンジ」・情報メディア活用

健康安全教育として、家庭と連携し、生活リズムを整え健康な体づくりに取り組んだ。

イ 情報メディア活用

防犯教室、情報モラル教室等を開催し、情報機器の適切な利用について学習の場を設けた。

2 成果と課題

- ・「『あったかことば』で、心も体も健康」をスローガンとして、地域ぐるみで行事や活動等を行う中で、児童は、あったか言葉に包まれながらプラスサイクルで生活することができた。
- ・学校運営協議会との関係を調整し、児童の成長につながる活動となるようにする必要がある。

<実践主題>

「心豊かな子どもを育てる学校・家庭・地域の連携」

テーマⅠ…みんなでつくろう、子どもの未来

～ 楽しく、できることを探しながら ～

テーマⅡ…読書のよろこびを広めよう

上田小学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

ア 『地下道では自転車を降りよう』キャンペーンと、見守りボランティア紹介式・小中合同あいさつ運動
地下道キャンペーンは、上田交差点地下道の安全な通行を願い平成 11 年から続いている活動です。PTAが中心となり、児童・家庭・地域とが連携して行っている。春には、安全な登下校になるように見守ってくださる交通指導員さんや地域のボランティアさんを紹介する式を行った。小中学校で連携して合同のあいさつ運動も年に3回行っている。

イ 学区安全マップに係る取組

校区における危険箇所を地図にしてPTA会員全戸に配布する活動である。毎年子どもと一緒に見直す活動をしている。活動を通して、子どもに安全意識の向上が見られる。昨今は不審者の出現も多いので、地域の方々による見守りの強化についても取り組みたいと考えている。



【小中合同あいさつ運動の様子】

(2) 読書活動の習慣化

ア 図書委員会(児童会)による活動

児童による絵本の読み聞かせ活動

図書館祭りで来館を勧めるクイズなどの催し

イ 図書ボランティア(えほんの会)による読み聞かせ

月に1回、2学年ずつ朝の読み聞かせを実施

月に2回程度、図書館の蔵書修繕

ウ 冬のおはなし会&読書講演会(家庭教育学級)

今冬、JPIC 読書アドバイザー・絵本専門士としてご活躍されている藤村由美さんを特別講師にお迎えして、1年生対象のおはなし会や、保護者対象の読書講演会を行った。



【読書講演会の様子】

(3) 情報メディアとの共生

情報教育の充実

情報メディアと上手に付き合うことができるよう道徳や社会、総合的な学習をととして、SNS利用や著作権侵害といった情報モラルについて学んだ。また、家庭と連携して情報機器の使い方約束づくりを促している。

2 成果と課題

今年度も保護者や地域、図書ボランティア、関係機関と連携・協働して、活動に取り組むことができた情報モラルの取組は、児童には行ったものの、保護者対象の学習会は実施できなかった。PTA 家庭教育学級では、テーマⅡの読書のよろこびにつながる取り組みができた。

<実践主題>

「ふれあい」を通し、心豊かでたくましい子どもを育てよう

山王小学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

ア 緑の活動

地域と連携を図り学区内のごみ拾いを子ども会単位で行った。

イ 緑を愛でる会

3年生の総合的な学習の時間に、校地内の様々な樹木について理解を深めるために、専門家を招いての学習会を実施した。



【緑の活動の様子】

(2) 読書活動の習慣化

ア 家庭読書の推進

本校の学びフェストに示した「家庭読書の取組（毎日10分～）」について保護者の理解を得るとともに、家庭での声掛け等の協力をいただきながら習慣化につなげている。

イ 図書ボランティアの活動の充実

子供たちが本への興味をもてるよう、定期的に金曜日に読み聞かせを行っている。また、本の修繕や掲示板等の装飾を作成している。さらに、お便りによる啓発活動も行っている。

ウ 「おはなしの風キャラバン」による読み聞かせ

趣向を凝らした読み聞かせにより、子どもたちが読書の世界を存分に味わっている。



【読み聞かせの様子】

(3) 情報メディアとの共生

ア 「スマホ五か条」の取組

親子で話し合い、ルール作りを行った。

イ 情報モラル講習会の開催

A L S O Kより講師を招聘し、高学年児童及び保護者（希望）を対象に「スマホ・ケータイ安全教室」を行い、ネットを介したトラブルや犯罪の未然防止を図った。

(4) コミュニティ・スクールの推進に向けた取組等

今年度4月にスタートした。11月には、「学校」「保護者・PTA活動」「地域」三者の視点から、児童減少の進む本校教育活動の課題と解決方法について熟議を行った。

2 成果と課題

- ・コロナ禍以前の形で、家庭・地域と連携をしながら教育振興運動の推進を図ることができた。
- ・一方で、児童数減や地域の高齢化によって活動の維持が困難となってきたという課題がある。今後の活動の在り方について、見直しや整理を図っていく必要がある。

<実践主題>

「子供たちの健全な育成のために」 ～手をつなごう、家庭・地域・学校～

緑が丘小学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

ア 家庭

子ども会活動（地域の祭り、ボウリング、運動会、ラジオ体操、入学・進級お祝いの会、花植え、資源回収、ごみ拾い、草取り、公園の清掃、映画鑑賞、工作、ゲームなど）

イ 地域

地域活動：一里塚祭り 7月20日(土)、盛岡矯正展 10月6日(日)

クリスマスイベント 12月22日(日)への参加（緑の太鼓参加）

ウ 学校

① 地域人材や地域素材の活用推進

- ・ 総合的な学習の時間や生活科などにおける、子どもの思いや願いをもとにした地域の人と関わる活動
- ・ 生活科のまち探検、総合的な学習の時間の校外学習の活動の充実と安全確保のための活動支援ポーターの活用
- ・ 各学年の計算の技能定着のための学びたいむサポーターの活用

② 挨拶運動推進

- ・ 緑が丘地区振興福祉協議会の挨拶標語の取組の推進
- ・ PTA（挨拶レンジャー）、黒石野中学校生徒会、地区少年補導員、上田交番、老人クラブなどと挨拶運動の実施



(2) 読書活動の習慣化

ア 家庭

- ① 家庭での読書時間の確保：水曜と毎週末の課題に読書活動
- ② 夏冬の親子読書：親と子が一緒に読書と振り返りの交流

イ 地域

- ① 読み聞かせサークル「ふくごろう」
 - ・ 朝の読み聞かせ（各学年10回程度）
 - ・ 業間の読み聞かせ（毎週火曜日）
 - ・ 夏冬2回のお話会の開催（夏のお話会（7月）、冬のお話会（12月））
- ② 図書修理ボランティア（毎週木曜日）
- ③ 図書事務（PCにて在庫管理・図書整理・図書室装飾等）

ウ 学校

- ① 読書目標の設定：各自の目標を設定し、学期ごとに振り返る。
- ② 「うれしたのし大好き読書」（図書カードの配布→家庭での購入→学校での学級文庫）各自購入した本を教室の本棚に置くことで、友達のお勧めの本を読む。



(3) 情報メディアとの共生

ア 家庭：情報機器の利用についてのルールづくり（まなびフェスト）

イ 地域：情報機器の適切な利用についての啓発（生徒指導だより）

ウ 学校：情報機器の利用実態の把握・長期休業前指導・学級活動(2)による指導

2 成果と課題

- ・ 子供の思いや願いをもとに、地域の人と関わったり、地域資源を活用したりする活動を設定したことにより、学習の目標や目的を達成することができた。
- ・ どんな地域の人材がいるか、資源があるかの把握に努めてきた。そのことにより、新たな地域の人の協力を得ることができた。
- ・ 学びたいむサポーターや活動支援サポーターを積極的に活用することにより、子どもの学習活動が充実した。
- ・ 学校で育成を目指す資質・能力を育むために、学校と保護者、地域がつながり、どんなことができるかをさらに考えていきたい。

https://drive.google.com/file/d/1kCdH_MJLwXnkQ8Ix3U6uhkLQn-L2weHY/view?usp=sharing

<実践主題>

ふるさとに誇りをもち、心豊かな太田の子どもを育てよう
～子どもと家庭・地域・学校がつながる活動を通して～

太田小学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

ア 百周年記念桜愛護活動

開校百周年を記念して植樹された、桜並木の下草刈りや枝払いなどの活動を5・6年生の児童、PTA並びに地域の方々と共に行っている。地域の方々と桜愛護活動を共に行うことを通して、環境学習やボランティア活動に対する意識の向上につながっている。



【百周年記念桜】

イ 150周年記念事業「太田 繋 ウォークラリー」

本校は、繋小学校と統合し、3年目になる。それぞれの地域のよさを更に知ることができるように、「太田 繋 ウォークラリー」を実施した。地域の方々にも参加いただき、児童、保護者、教職員、地域の4者が地域の良さを再確認できた。



【太田 繋
ウォークラリー】

(2) 読書活動の習慣化

ア 読み聞かせ

読書ボランティア「虹の本屋 あっぷるさん」の活動は月2回、朝の活動時間に読み聞かせを行っている。子どもたちの興味や関心に合わせた本の選定や季節感を意識した内容を吟味しての読み聞かせを行っている。今年度は、夏休みに「おはなしかい」とミニ工作を図書室で行った。21名の児童が参加した。

イ 図書室の環境整備

今年度も、季節に合わせた図書室の飾りつけを行った。児童の読書意欲を高める環境整備に努めた。



【ふるさと学習 発表の様子】

(3) 情報メディアとの共生

全校児童一人1台のタブレットによる学習は、学年に応じ様々な学習に活用している。週末の持ち帰りについては、盛岡市教育委員会からのアンケートを基に学校と家庭が共通理解を図り進めることができた。持ち帰りにより、インターネットを活用した学びのスタイルに親子で向き合うことができ、使い方やルールの確認をすることができた。

2 成果と課題

今年度は、150周年記念事業を通して、地域の協力のもと、太田と繋地区を知る行事を実施することができた。また、学習発表会での発表内容を「ふるさと学習」の実践としたことにより、より地域の方々と繋がりを持ちながら年間を通して様々な活動を行うことができた。

今後は、「学校運営協議会」の立ち上げと、教育振興協議会の在り方を探っていきたい。

＜実践主題＞

「健全育成」「学力向上」「健康安全」への取組を通して

太田東小学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

本校の総合的な学習では、太田の自然や歴史、伝統芸能、文化について体験的に学んでいる。3年生は「まち探検」で米やりんご、トマト等、地域の農家さんから具体的に学び、学習発表会・教振実践発表会で発信。4年生は福祉について学び、高齢者福祉施設との交流の機会を得ている。5年生は川に生息している生き物から水質を判断する調査を行い、林間学校での学びと総合してSDGsの観点から自分の意見をまとめた。そして、5年生の秋からは伝統芸能「ハツロ神楽」の引継ぎが行われる。6年生から5年生へ舞いを丁寧に引き継ぎ、お師匠様の御指導もいただきながら「運動会」「6年生を送る会(ハツロ神楽引継ぎ式)」で雄姿を披露した。



(2) 読書活動の習慣化



図書ボランティア「ラコントフォント」は、今年度11名で構成され、「読み聞かせ」と「図書修繕」の2グループで活動を行っている。読み聞かせは、低学年を対象に毎週木曜日の朝、広いジャンルで選定した絵本の読み聞かせをしている。本の修繕は、概ね月に2回、木曜日に図書室で活動している。秋には、図書委員会主催の「読書まつり」にあわせて全校児童対象の読み聞かせ会を行った。そのほか、季節に合わせて図書室の装飾も行い、児童の読書意識を高めている。

(3) 情報メディアとの共生

6月に児童対象の情報モラル教室を開催した。昨年度に引き続き。講師先生とZOOMでつないだオンライン研修とした。クイズ形式で活用上のマナーを確認したり、SNS情報機器にはらむ危険について考えたりと有意義な活動が展開された。また「スマートフォン等の利用状況実態調査」を行い、所持率やネット利用の時間等具体的な数値が明らかになった。課題について家庭・学校・地域で考える、良いきっかけとなった。



(4) コミュニティ・スクールの推進に向けた取組

令和6年6月6日に6名の委員と事務局で第1回学校運営協議会を開催し、会の目的と機能、役割について確認した。校長より今年度の経営方針(まなびフェスト)を示し、教育振興協議会と協働しながら学校・家庭・地域の連携のあり方について考える場となった。

2 成果と課題

地域に豊かな自然や伝統文化があり、それを守ろうとしている人々がいることを学びながら、児童に地域の一員としての自覚が生まれ、元気な挨拶や地域行事参加を育む一助となっている。

上太田地区の児童数の減少、中太田・下太田地区の宅地開発による新たな世帯の増加や環境の変化を鑑みながら地域連携の在り方を考えた上で、教育振興運動を推進していく必要がある。

＜実践主題＞

「あかるく、かしこく、たくましい城北っ子の育成」

「教養」と「共感」と「共有」

城北小学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

ア 城北小学校区あいさつロード

地区子ども会や自治会・町内会の協力のもと、交通安全指導を兼ねた「あいさつ運動」を学期初めに実施した。また、月初めには、本校の児童会と北陵中学校生徒会が協力して「あいさつ運動」を展開した。校種間連携と学校、家庭、地域による「あいさつ運動」は、人と人とのつながりを広げ、安心・安全な環境づくりを進める上で大切な活動となった。

イ PTA主催「城北まつり」

今年度も11月16日（土）に、学校PTA役員と学校が中心となって、城北小学校を会場に「城北まつり」を開催した。昔遊び、読み聞かせ、バザーなど、PTAの方々が11コーナーを企画・運営してくださり、児童はもちろん、多くの保護者や地域の方々、卒業生が一緒になって楽しむことができた。また、「城北まつり」の最後には、体育館でからまつ吹奏楽団による「ありがとうコンサート」が開催され、みんなで感動を味わうことができた。今後も学校、家庭、地域が思い出を共有する機会を大切にしていきたい。



【ありがとうコンサート】

(2) 読書活動の習慣化

学校司書と図書ボランティアによる読書活動の推進

学校司書の支援のもと、卒業生の保護者を含むPTAで組織している図書ボランティア（まっぼづくり）の皆さんから、図書の貸し出し、定期的な読み聞かせ、図書室の装飾などの環境整備を精力的に進めていただいた。また、定期的な読み聞かせは、児童が本を好きになったり他のジャンルの本を手にとったりするきっかけとなるなど、本が身近に感じる環境をつくっていただいた。

(3) 情報メディアとの共生

家庭学習推進運動

今年度も北陵中学校区で「家庭学習強化作戦習慣（テレビ視聴・メディア利用時間の削減）」への取組を行った。本校はタブレット端末を用いた家庭学習も実施しており、情報機器の適切な利用の仕方を、児童、保護者と確認した。落ち着いた環境の中で家庭学習を行う大切さを再確認する機会となった。

(4) コミュニティ・スクールの推進に向けた取組

学校運営協議会の開催

今年度は学校運営協議会を3回開催するとともに、授業参観をはじめ様々な学校行事をみていただき、本校の教育活動や子どもたちの様子について関係者で共有する機会とした。よりよい学校経営に向けて、子どもたちの姿をもとに学校運営上必要な事項に関して、ご意見や感想をいただくことができた。

2 成果と課題

今年度は、家庭や地域と共にある学校づくりに向け、学校運営協議会を中心とし、教育振興運動の充実に努めた。上記の活動により、学校・家庭・地域が一体となって、本校がめざす子ども像『活力のある城北の子』（心豊かな子、よく考える子、たくましい子）の具現化を進めることができた。来年度は「学校支援ボランティア（城北っ子応援隊）」のしくみを整備し、より家庭や地域との連携を進め、目指す子ども像の実現に努めていきたい。

「ワンチーム大新」をめざして
よく考える子・ねばり強い子・じょうぶな子・仲良くできる子を育てよう

大新小学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

- ア 家庭 子供会活動の参加：入学生歓迎会、進級祝い、資源回収、公園等の草取・清掃、ラジオ体操、ゲーム大会等と子供会独自の行事をとoshi協同と役割の大事さをわかり合えた。
- イ 地域 夏祭り、地域スポーツ大会、神社の催物への参加、公民館行事、さんさ太鼓と踊り、近隣保育園への一日体験、新年行事と餅つき大会、みづき団子づくり、土器づくりと野焼き、子ども消防隊等の活動を通し地域の文化と地域の一員としての自覚を育てることが出来た。
- ウ 学校 教育課程の中で学年に応じた地域の施設、地域めぐり等でそれぞれの施設の持つ役目を実際に体験することが出来た。
- 「いいねの木」「あいさつの木」等のことばから行動の大事さを自覚し行動に移そうとする態度が育てられた。

(2) 読書活動の習慣化

- ア 家庭 親子での「ふれあい読書」がその成果が表れてきているが、家庭での読書の時間等の確保については、長期休業と日常との取り方については努力する面が考えられる。
- イ 地域 地域により図書を準備する所は少なく読書環境整備について工夫することが求められる。移動図書館車等の各地域での利用等も必要であろう。
- ウ 学校 読書に対する目標設定による指導、PTA ボランティア「くるりんぱ」による図書館の環境整備、読み聞かせの活動を通して読書の習慣化、拡大化が図られてきている。

(3) 情報メディアとの共生

- ア 家庭 親子で「大新小学校ケータイ・スマホルール」をもとに、テレビ、パソコン等の使い方について話し合い、実践されている。
- イ 地域 高齢者・地区住民等を対象に西警察署生活安全課の講師を招き詐欺の問題を中心に電話、スマホ、情報機器の取り扱いについて啓蒙を図っている。
- ウ 学校
- ・「盛岡市5カ条のスマホルール」を基本に「大新小のルール」を設定し児童・家庭に情報モラルの向上を図っている
 - ・「岩手県本部生活安全課サイバー犯罪対策課」・「盛岡大学学友会ボランティア委員会」から SNS 等の課題について指導を受けた。

(4) コミュニティスクールの推進に向けた取り組み

- ア 学校
- ・町内会長、歴代 PTA 会長、学校関係者等による発起人会議を開催した。
 - ・委員構成と今後の「教育振興運動」を含む具体的活動等について日程及び内容を協議した。
- イ 地域 委員会構成に沿って具体的に地区等からの候補者の選出を進める。

2 成果と課題

- ・「大新小学校 50 周年」事業を区切りに、2024 年の出発にあたり「ワンチーム大新」を旗印に開始した各種活動が学校、児童、保護者の成果として表れてきた
- ・歩調が違ふ地域と学校の連携が従前の形や「ワンチーム大新」の形になれないで見られるが、これらの課題を早急に払拭する努力が必要であると考ええる。

＜実践主題＞

地域総ぐるみで「たくましく生きる松小の子」を育もう
～すすんで交流、じっくり学習、しっかり生活～

松園小学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

ア 創立 50 周年に係る取組・・・学習発表会では、本校の歴史をたどる内容を発表したり、記念式典では、保護者や地域の皆様と一緒に創立 50 周年をお祝いしたりした。

イ あいさつ運動・・・年に 2 回、松園中学校と「小中連携あいさつ運動」を行っている。また、児童会を中心にあいさつ運動を定期的に行い、全校へあいさつの輪を広げている。

ウ 性教育講演会・・・10 月には、教養委員会主催の性教育講演会を開催した。保護者の他、5・6 年生も参加し、いのちの大切さと心と身体の守り方について勉強した。

エ 松小縁日・・・今年も父母と教師の会の主催で「松小縁日」を行った。地域の方々にもお店を開いていただき、ボッチャの体験や昔遊びコーナー等で子ども達にやり方を教えていただいた。



【松小縁日（ボッチャ）】



【創立 50 周年記念式典】

(2) 読書活動の習慣化

朝活動では読書を取り入れ、落ち着いた 1 日のスタートを切ることができている。また、長期休みには「親子読書」を行い、親子で読書を楽しんでいる。

読書ボランティア「ばたぼん」の皆さんは、給食時間に放送で読み聞かせをしてくれたり、教室で大型紙芝居等を活用して本の楽しさを紹介してくれたりしている。

(3) 情報メディアとの共生

「松園小学校スマホ・ゲームルール」の内容を子ども達自身が決めて、全校で取り組んでいる。今年の内容は、「SNS、ゲーム、インターネット等の利用は、低学年 7 時、中学年 7 時半、高学年 8 時までとする。」「個人情報を書き込まない。」等となっている。

(4) コミュニティ・スクールの取組

今年度から松園中学校区の 3 校合同でコミュニティ・スクールをスタートさせている。今年度は、学校運営協議会のメンバーで松園中学校、松園小学校、東松園小学校それぞれの子ども達の様子を参観し、学校の様子を交流するところから始めている。

2 成果と課題

- ・ 創立 50 周年やコミュニティ・スクールの取組など五者が一体となって取り組むことができた。
- ・ 情報メディアとの共生に係る取組においては、もう少し工夫したものが必要である。

＜実践主題＞

学校・家庭・地域が一体となって
心豊かでたくましく生きる子どもを育てよう

月が丘小学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

ア 家庭

家庭で作成した万灯を持ち寄り、全校児童と保護者がポラン農園の野菜の成長に感謝する万灯祭を開催した。PTAとOBを中心に実行委員会を編成し、地域の方と共に、郷土愛を深めた。

イ 地域

西青山地区の家庭から出る生ごみをリサイクルする「大型生ごみ処理機」を4年生が見学した。環境に関する町ぐるみの取り組みを学んだ。

ウ 学校

西青山地区からいただく堆肥を利用し、全校児童がポラン農園での栽培活動をした。4・5年生は、コンポストを利用して来年度用の堆肥を作った。収穫したサツマイモで全校焼き芋大会を開催し、縦割り班ごとに準備・会食し栽培から収穫まで体験した。



(2) 読書活動の習慣化

ア 家庭

長期休業中に家族で同じ本を読んだり、読んだ本の感想を話し合ったりする「親子読書」を実施した。

イ 地域

図書ボランティア「書庫楽」による読書推進活動を行った。
(読み聞かせ・本の修繕・図書室の環境整備・季節毎の掲示)

ウ 学校

読書目標の設定と毎学期の振り返りをした。
図書委員会による読書推進への取組をした。

(3) 情報メディアとの共生

ア 家庭

家庭学習強化週間を北陵中学区と統一して取り組んだ。

イ 地域

民生委員懇談会で、学校や家庭での生活のきまりを共有した。

ウ 学校

メディア視聴についての家庭のルールについて「まなびフェスト」で確認し振り返りをした。



2 成果と課題

- ・ 地域の特徴や、保護者の願いを取り入れて、児童や関わる方の負担が大きくならないように、継続できている。
- ・ それぞれの活動を、学校運営協議会を軸としたものに位置付けることが課題である。

<実践主題>

家庭・地域・学校のふれあいで心豊かなたくましい子どもを育てよう

高松小学校区教育振興協議会

1 活動の重点

- (1) 家庭・地域・学校の連携を深め、子ども一人一人の自主的取り組みを促し、実践する。
- (2) 家庭教育の充実を図るために、親子読書・あいさつ運動の推進を図る。
- (3) 情報機器を適切に利用する態度を身に着け、健康で安全な生活を送る。



【春の登校風景】

2 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

地域で見守り活動を推進していただいている方に春に名札を渡してつけていただき、児童が名前を覚えたり名前を呼んで挨拶をしたりした。また、見守り活動をしている方々へ子ども達と保護者からの感謝メッセージカードを渡し児童・家庭・地域の交流が深まった。

昨年に引き続き「あすなる祭り」を開催(7月27日実施)することができた。イベント委員会の方々に前日遅くまで準備等で苦勞をかけたが、当日は、地域、保護者等のボランティアの協力の下、盛大に行うことができた。



【「あすなる祭り」の様子】

(2) 読書活動の習慣化

読書の時間を親子で共有することで本に親しむと共に親子の絆を深めることを目的に親子読書活動を展開した。冬季休業中に行った親子読書の様子を写真やイラストで紹介するカードを作成した。学校司書と図書ボランティアが集会室に掲示し親子読書活動の啓発を図った。



【親子読書カード】

(4) 情報メディアとの共生

8月26日に5年生と保護者を対象として情報メディア「出前」講座を開催した。子ども達のネットトラブルの概要と家庭での対策について理解を深めることが出来た。子ども達だけでなく、PTA・地域の方々・教職員も「情報メディアとの上手なつきあい方」や「スマホ・ゲームが身体に与える影響」等に関する講演会に参加し、理解を深め、参加者自身のスマホ利用に関して振り返る機会になった。



【「情報モラル教室」の様子】

3 成果と課題

- ・ 地域の見守り隊の方々にご協力いただき、互いに顔の分かる関係でのあいさつができています。
- ・ 「あすなる祭り」は、子ども達をはじめや保護者も楽しむことができた。今後もPTAの協力を得ながら取り組んでいきたい。
- ・ 情報モラル講演会は、PCやスマートフォンは全員が持っているという前提で、内容を検討していく必要がある。
- ・ 親子読書については、日常の親の意識をより高めていく必要がある。

<実践主題>

地域総ぐるみで「たくましく生きる東松園小の子」を育もう
～すすんで体験、じっくり学習、しっかり生活～

東松園小学校校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

ア あいさつ運動

- ① 松園中学校や松園地区地域安全協会の皆さんと連携し、朝のあいさつ運動を行っている。
- ② 毎朝、児童会執行部を中心に、「心のこもったあいさつ」を目指し、あいさつ運動を行っている。執行部以外の児童も参加するようになり、主体的な活動になってきている。

イ 学社融合事業「復興教育講演会」

佐賀敏子先生による講演会「命を守り輝かせよう」では、PTAと6年生が参加し、命の大切さを学ぶことができた。今ある命を輝かせるために、自分も周りの人も大切にしようという気持ちを育むことができ、貴重な体験となった。

ウ 東小まつり

今年度もPTA主催で東小まつりを行った。体験コーナー「スライム作り」や「玉入れ」では、児童ボランティアを募り、担当の父母に仕事を教えてもらいながら活動した。誰かのために働くことの喜びや異年齢集団での交流を楽しむことができた。

(2) 読書活動の習慣化

ア 親子読書

長期休みに、親子で読書の時間をつくり、楽しむことができた。

イ 読書ボランティア

朝読書の時間に読書ボランティアさんからブックトークや読み聞かせをしてもらい、本に親しみ、楽しさを知ることができた。



【ブックトークの様子】

(3) 情報メディアとの共生

盛岡市5か条のスマホールの確認や学習端末を効果的に活用することができた。

(4) コミュニティ・スクールの推進に向けた取組

今年度からスタートし、各校の児童生徒の様子を参観し、交流をしている。

2 成果と課題

- ・「あいさつ運動」「復興教育講演会」の取り組みを通して、相手を思いやる心、温かい声のかけ方等、児童に相手意識の高まりがみられた。また、「東小まつり」では、人との関わりや人とのつながりを深めることができた。
- ・地域や保護者と情報モラル等の課題を共有し、さらに連携を図りながら取り組みたい。

＜実践主題＞

地域の宝である子どもを 地域みんなの目で見守り育てよう

見前小学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

各子ども会では、ラジオ体操や資源回収、夏祭りなどの活動への参加促進を図ることができた。さらに、神社への奉納行事、虫追い祭り、みずき団子づくりなどの伝統行事に参加したところもあり、地域との交流を図る目的を達成することができた。運動会では、「三本柳さんさ踊り」を踊ったり、学習発表会では「都南太鼓」を披露したりするなど、保存会の方から指導支援をいただいていたことができた。MFC（見前ふれあい合唱団）は、「キャラホール合唱祭」に向けて様々な世代が集まり、合唱を発表することができた。



【運動会での三本柳さんさ披露】



【学習発表会での都南太鼓演奏】



【合唱祭後の MFC メンバー】

(2) 読書活動の習慣化

ア 校内では、夏・冬休みに「親子で読書」に取り組む活動を推進した。たくさんの児童が読書に親しむことができた。

イ ボランティア「おはなしおなべ」によるおはなし会を4、6、7、11月と夏・冬休みに実施することができた。また、毎週火曜日には「図書ボランティア」が図書修繕や図書室の環境整備を行い、子ども達の読書活動の習慣化につながる活動を行うことができた。



【読み聞かせの様子】

(3) 情報メディアとの共生

保護者アンケートをもとに作成した「見前小情報機器のきまり」を、1年生と転入生の家庭に配付し、ルール of 周知徹底を図った。9月には、5・6年生を対象に「KDDI スマホ・ケータイ安全教室」を実施し、安全な利用を開催し学習することができた。

(4) コミュニティ・スクールの導入に向けた取組

4、9、2月の授業参観日に合わせて学校運営協議会を開催した。あいさつが盛んに交わされるようになったこと、落ち着いて授業を受けていることなど、子ども達の様子について語られた。次年度、盛岡市教育振興VIブロック実践発表を控えていることもあり、地域の人材や様子について情報共有された。

2 成果と課題

- ・ 地域ボランティアの方々を総合的な学習の時間のゲストティーチャーとしてお招きしたり、子ども会行事で伝統行事に触れたりするなど、自分たちの地域を知る体験的な活動を推進することができた。
- ・ 学校運営協議会と教育振興協議会の役割分担を明らかにし、効果的に進めていきたい。

＜実践主題＞

地域総ぐるみで、「たくましく生きる飯岡の子」を育もう

—進んで体験しよう、じっくり学習しよう、しっかり生活しよう—

◎体験活動への参加促進 ◎読書活動の習慣化 ◎情報メディアとの共生

【健全育成】

【学力向上】

【健康安全】

飯岡小学校区教育振興協議会

1 活動の実際

（１）体験活動への参加促進

各地区とも子ども会を中心に積極的に活動した。具体的には資源回収やごみ拾い活動、農園の草取り、用水路での生き物調査、スケートなどのレクリエーション、地区の祭典参加など工夫を凝らした参集型の体験活動を行った。



（２）読書活動の習慣化

地域の読書ボランティア「かたつむり」による読み聞かせと図書館環境の整備充実、PTA教養部による親子読書、学校の図書委員会による「読書ビンゴ」等の取組を実施し、子どもたちが色々な本にふれるように工夫した。

（３）情報メディアとの共生

「飯小できたらいいね、5カ条！」の取組を今年度も継続して実施した。各家庭では、長期休業前の12月に1週間程度「飯小できたらいいね、5カ条！」をもとに「わが家のルール」（終了時刻、時間・回数を平日・休日別に家族で話し合い決定）を決め、我が家のルールを守るよう取組を行った。また、この取組結果をもとに冬休み中のルール作りを行い、取組を継続させた。

2 成果と課題

- ・（体験）各地区ともに参集型での体験活動に取り組むことができた。
- ・（読書）上記取組を通じて、児童の読書活動をより充実させることができた。
- ・（情報機器）各家庭では「我が家のスマホ・ゲームルール」の見直しを図ることで、インターネット環境における家庭内のルールの再確認や使い過ぎの抑止意識につなげることができた。
- ・（体験）児童数が多い地区は参集が難しかったり、地区行事への参加意識が希薄だったりするため、子ども会担当者が内容に苦慮している。
- ・（読書）読破目標を達成しているにもかかわらず、児童の読書に親しんでいるという意識が低いため、今後も継続して本を読むことの楽しさを味わう活動を充実させていきたい。
- ・（情報機器）情報機器利用に関して、子どもに使用させる際のきまりの内容に家庭差が大きい。期末懇談会や学級懇談会で話題にしたり、啓発資料を配付したりして、個々の家庭の意識を高める取組を維持・充実させていきたい。

＜実践主題＞

学校・家庭・地域社会が連携を深め、
思いやりのある子ども（心豊かな羽場っ子）を育もう

羽場小学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

つどいの森の遠足（２年生）	稲作体験活動（５年生）	プログラミング学習（５年生）
 生活科の校外学習として、森林ガイドによるつどいの森の遠足を行った。樹木や昆虫の自然観察等、森の中での充実した体験活動を推進することができた。	 学校脇の水田をお借りして、田植えや稲刈りについての指導をいただいた。ドローンによる薬品散布の見学やコンバインへの試乗等、充実した学びの機会を得ることができた。	 毎年、村田製作所の皆さんによるプログラミング学習を行っている。プログラミングの工程について分かりやすく説明いただき、児童も意欲的に取り組むことができています。

(2) 読書活動の習慣化

週末や長期休業において家庭との連携を図りながら読書の習慣化を図った。図書修繕ボランティアの活動により、図書室の環境を整備することができた。



【図書の修繕の様子】

(3) 情報メディアとの共生

保護者向けアンケート等で家庭での実態把握に努めるとともに、長期休業中の端末の持ち帰りについての周知等により、メディア使用のルール等について啓蒙を図った。

2 成果と課題

- ・地域の皆さんの支援で、多様な体験活動を継続して実施することができている。
- ・各学年の活動に位置づいており、地域の特色やよさを学ぶ貴重な機会となっている。
- ・学校運営協議会を立ち上げにあたり、教育振興運動における既存の組織や体制、人材等の活用の在り方をさぐりながら、体制の整備を図る必要がある。

<実践主題>

「永井のまちの未来を担う人づくり」
～ふるさとを愛し、ふるさに誇りをもち、ふるさを支え、
よりよい町にしていこうとする志を育む～

永井小学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

P T Aを主体として「永小フェスティバル」を開催し、「永井さんさ」、ユネスコ無形文化遺産の「永井の大念仏剣舞」、盛岡市指定無形民俗文化財の「下永井獅子踊り」に児童が触れる機会を設けた。また、「永井まちづくりの会」をはじめ、地域の方々のご指導とご協力のもと、5・6年生による「永小さんさ」を運動会で披露することができた。



(2) 読書活動の習慣化

図書ボランティアや「うれし野子ども図書室」の方々による読み聞かせ、朝の5分間読書、図書委員会による「図書祭り」、P T A教養部による「親子読書」等、読書活動の習慣化を目指し、取組の推進を図ることができた。

(3) 情報メディアとの共生

4年生を対象に、N T Tドコモによる「スマホ・ケータイ安全教室」をオンラインで実施した。また、3・5・6年生に対しても、企業や地域から講師を招いて、情報モラル講座を実施した。いずれも、情報メディアの使い方や上手な付き合い方などを児童に伝えるよい機会となった。



(4) コミュニティ・スクールの導入に向けた取組

昨年度までの準備期間を経て、今年度から学校運営協議会を正式に立ち上げた。教育振興協議会を母体とした組織とすることで、委員任命をスムーズに進めることができた。会議は日中の開催として、児童の様子を実際に見ていただき、児童の様子について忌憚のないご意見をいただくことができた。また、地域学校協働活動推進員の在り方などについて熟議を行い、よりよい学校運営について議論を深めることができた。

2 成果と課題

- ・地域の伝統芸能を体験する機会を多く設け、それらを受け継いでいきたいという児童の思いを育むことができた。次年度以降も少しずつ変化をつけながら、活動が継続できるようにしたい。
- ・読書活動の習慣化を目指した継続的な取組、情報モラル指導により、児童の意識を高めることができた。今後は、保護者の意識をさらに高める機会を設けていく必要がある。
- ・コミュニティ・スクールの仕組みを導入することができた。今後も適切に機能するよう、より効果的な学校運営協議会の進め方を模索したい。

<実践主題>

体験活動や読書を通して、礼節を重んじ思いやりのある子どもを育てよう

手代森小学校区教育振興協議会

1 活動の重点

盛岡市の教育振興運動の共通目標を受けて、児童・家庭・地域社会・学校・行政の五者がそれぞれの役割を果たしながら、手代森小学校区の児童の学力向上（じっくり読書）、健全育成（たっぷり体験）、健康安全（しっかり生活）の推進を図る。

2 活動の実際

(1)体験活動への参加促進

- ア 地域の伝承活動の推進（黒川さんさ等）（学校・地域）
- イ 体験活動への協力（稲作・りんご栽培・支援学校との交流・福祉施設訪問等）（学校・地域）
- ウ 地域の人・もの・自然とふれあう「わくわくチャレンジふれあいの日」の開催（学校・家庭・地域）
- エ 地区子ども会への支援（学校・家庭・地域）

(2)読書活動の習慣化

- ア 朝読書、読書月間の取組（学校）
- イ 読み聞かせボランティアの協力（地域）
- ウ 図書だよりの発行及び読書活動推進に向けた環境整備（学校）
- エ 夏休み、冬休みの親子読書の取組（学校・家庭）

(3)情報メディアとの共生

- ア 基本的生活習慣の定着（学校・家庭）
- イ 「3つの「あ」の日」の推進（学校・家庭・地域）＊3つの「あ」＝あいさつ・安全・後始末
- ウ テレビ視聴時間等減量等、情報メディアとの上手なつきあい方の取組（学校・家庭）
- エ 情報モラル講演会の実施（学校・家庭）

3 成果と課題

学校・家庭・地域社会が一体となって、「礼節を重んじ思いやりのある子どもの育成」を目指して取組を進めることができた。今後も児童が地域の一員として成長することができるように実践を積み上げたい。



【わくわくチャレンジふれあいの日】



【読み聞かせボランティア】



【「3つの「あ」の日」】

＜実践主題＞

人々との関わりを大切にする 心豊かな 津志田の子を育てよう

— すすんで体験、じっくり学習、しっかり生活 —

津志田小学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加推進

- ア 見前中との合同あいさつ運動
(ほっこりプロジェクト)
- イ 津志田芋の子の栽培活動と学習会
(3年生の総合的な学習の時間)
- ウ 津志田伝統さんさの伝承活動
(3・4年による運動会での演技披露と学習会)
- エ 「もりおかさんさパレード」への参加
(郷土芸能団体「がんばれ津志田っ子」)



【見前中学校との合同あいさつ運動
(ほっこりプロジェクト)の様子】

(2) 読書活動の習慣化

- ア 読書まっりの開催等による意欲喚起
図書利用の促進及び蔵書の充実
- イ 読み聞かせボランティア「どんどこどん」との
連携 (読み聞かせ会、放送劇等の実施)



【「どんどこどん」による読み聞かせ】

(3) 情報メディアとの共生

- ア 児童会による「ゲーム・動画・インターネット
使用のきまり」の意識化
- イ 「盛岡市5ヶ条のスマホルール」等文書による
保護者への啓発の強化
- ウ メディア利用に関わる情報モラル指導 (6月の授業参観日)

2 成果と課題

- ・参観日をオープンスクールデーとし、教育振興評議員および地域に公開することができた。
- ・学校運営協議会の令和7年度からの運用を目指し、令和6年度内に準備委員会を実施する。

＜実践主題＞

育てよう 自立の心と思いやりの心

○自分でできることは、自分でする力を身につける

○自らを律しつつ、他人と協調し、思いやりの心を身につける

見前南小学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進（地域とのふれあい）

ア 稲作体験（ふれあい農園ボランティアと5年生）田植え、稲刈り

イ 地域行事（地区子ども会育成会・町内会）ふれあい夏祭り、虫追い祭り、七夕祭り等

ウ バザー2024（PTA・チーム南小）

エ 感謝の会（学校）各ボランティアや地域でお世話になっている方へ感謝の気持ちを表す

オ 見前南中学校との交流（小中合同あいさつ運動、合唱交流等）

(2) 体験活動への参加促進（子どもの安全や生活を見守り、導く活動）

ア PTAあいさつ運動（全PTA会員）6月～3月 登校時週1回

イ 児童会（縦割り班や小中合同のあいさつ運動）

ウ 登校時の見守り（スクールガード）4月～3月（PTA）登校時週1回

エ 地域安全マップの作成 3年生による学区探検を行い、安全マップを作成し危険箇所を把握することにより、事故防止に役立てる

(3) 読書活動の習慣化

ア 図書館ボランティア「にこにこパラダイス」

読み聞かせ、本の修繕、環境整備

イ 朝読書（学校）月・金曜日朝活動の時間、
親子読書（家庭）長期休業中

ウ 校内読書月間（学校） 6月・11月読書の木掲示、
6月・11月読書月間多読学級表彰、年間多読者表彰「読書マスター」

(4) 情報メディアとの共生

ア 情報モラルに係る学習「盛岡市5か条のスマホルール」（盛岡市）
周知・活用・家庭のルール作り

イ 家庭教育学級講演会（見前南地区公民館主催事業、PTA共催）
情報メディア講座 4年生、全PTA会員

ウ 児童による主体的な情報機器利用のルール作り（児童会）（7月・12月）

2 成果と課題

- ・今年度もスクールガードやふれあい農園ボランティア、図書ボランティア等の協力で例年通り活動を行うことができた。
- ・あいさつ運動の「気づきノート」から、登下校時の児童の様子を知ることができた。今年度は当番の保護者から、進んで挨拶する児童が少しずつ増えてきたという嬉しい報告が増えた。
- ・今年度はPTA役員やPTAボランティア、地域活動指導員等の協力を得て、「バザー2024」を実施することができた。来年度も今年度のノウハウを活かし実施の見通しである。



【稲作体験「稲刈り」】



【本の修繕活動】

＜実践主題＞

学校・家庭・地域が一体となって

心豊かで たくましく かがやく 都南東の子を育成しよう

都南東小学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

地域が一体となって行う「ふれあい教振まつり」は、5年ぶりに開催することができた。地域の方を講師に招いての「大ケ生地区の歴史」の講話コーナーやクラフト体験、昔遊びコーナーなど、地域の方とのふれ合いを大切にするとともに、親子で一緒に体験活動を行うことができ、子どもたちには好評であった。

ア 学習サポート

- ・3年 りんご栽培体験、
- ・4年 乙部老人福祉センターでの交流
- ・5年 乙部川についての講話
- ・6年 「ふれあい教振まつり」についての調べ学習
- ・さんさ踊りの着付け指導と踊り指導

イ 子ども会活動

- ・少年消防クラブ支援、自治会行事への参加

ウ 環境整備活動

- ・校庭・花壇・輝光園の除草、校庭側溝の清掃、乙部川堤防の草刈り、親子ガラス清掃



(2) 読書活動の習慣化

ア 学校での取組：学年読書目標を掲げての取組、朝読書の充実、読書月間（11月）の取組、読書まつり

イ 家庭での取組：夏・冬季休業中の親子読書の推進

ウ 図書ボランティアによる読み聞かせ

(3) 情報メディアとの共生

ア 盛岡市5か条のスマホルールの取組

イ 情報メディア利用のルールづくりへの啓発



2 成果と課題

総合的な学習の時間において、地域の方がゲストティーチャーとなってご協力いただいたことにより、課題作りや調査活動に意欲的に取り組むことができ、6年生は教振まつりで学習のまとめを発表することができた。地域・家庭・学校・子どもとの関わりが昨年度よりも増えた。

5年ぶりに「ふれあい教振まつり」を開催することができたが、以前と内容や開催時間を変更したことについて、地域の方々からも多々ご意見をいただいた。「ふれあい」を主とした活動であることを再確認し、さらに地域の方々に参加しやすいよう工夫していく必要がある。

＜実践主題＞

家庭・地域・学校が一体となり、
人間性豊かにたくましく生きる「北っ子」を育てよう

北松園小学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

ア あいさつ運動の推進

- ・「まなびフェスト」による家庭への啓発と取組の評価の依頼
- ・小・中の各推進委員、小学校児童会、中学校生徒会、保護者、スクールガードによる合同あいさつ運動の実施（9月）
- ・毎月、月初めの登校日を「北っ子あいさつ運動の日」とし、保護者や地域とともに、自宅周辺でのあいさつ運動を実施。

イ 地域安全運動の推進

- ・地域安全協力者の紹介（4月）
地域安全協力者紹介式（13名参加）校内掲示
- ・地域安全協力者会議（4月、11月）
子どもたちの登下校や地域での生活について情報交換
- ・感謝の会（11月）

(2) 読書運動の習慣化

ア 読書月間の取組（6月・11月）

- ・読書ビンゴ
- ・図書委員による読み聞かせ

イ 「家族ふれあい読書」の取組（夏休み・冬休み）

- ・家族ふれあい読書取組カードの実施と掲示

ウ 北松園中学生による読み聞かせ

- ・8名の中学生が来校し、朝学習の時間に、4～6年4学級で実施（11月）

エ 図書ボランティアによる読書活動の推進

- ・2週間に1度2～4名のボランティアさんが来校し、掲示物の作成や本の修理を実施
- ・コスモスルームでの読み聞かせの実施（11月）

(3) 情報メディアとの共生

ア 長期休業前に、盛岡市5か条のスマホルールの確認（各家庭で決めたルール）と強化取組週間の実施

イ 長期休業明け、メディアチェックの取組

ウ 学習端末の効果的な利用（家庭学習、調べ学習、自分の考えを表すツールとしての利用等）

2 成果と課題

- ・小中合同のあいさつ運動に小・中の各推進委員、スクールガードだけでなく、毎月初登校日を「北っ子あいさつ運動の日」として、保護者にもあいさつ運動を呼びかけたことにより、地域全体でのあいさつ運動の輪が広がった。
- ・地域安全協力者会議での情報交換やスクールガードリーダーからの定期的な児童の実態を踏まえた安全な登下校についての助言をもとに、地域安全について児童に指導するとともに、校報により保護者、地域にも伝えることができた。
- ・まなびフェストの取組やボランティアの協力、中学生との交流により、情報メディアとの共生や読書活動の推進を図ることができた。
- ・地域の方の中には、もっと学校に協力したい、学校と連携を図りたいと思っている方がいることが分かった。学校運営協議会と教育振興協議会の連携や、教育振興協議会と学校の教育活動との具体的連携を推進していきたい。

＜実践主題＞

家庭・地域・学校が一体となり「笑顔の花咲く玉山の子」を育てよう

玉山小学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

ア 川柳創作活動

「いわて子ども川柳を育てる会」の課題に対し、3年生以上の児童が毎月応募した。

イ グラウンドゴルフ交流会

年2回、地域のグラウンドゴルフ団体の方々と一緒にグラウンドゴルフに親しんだ。2回目は、親子行事として開催した。

ウ 玉山地区公民館講座への参加（玉山小5・6年、玉山中1・2年）

8月、玉山地区公民館主催の夏休み自主学習講座「未来につながるクリーンエネルギー」に5・6年児童が参加し、姫神ウインドパークを見学、風力発電について学んだ。

(2) 読書活動の習慣化

ア 家庭読書の取組

家庭でも読書する時間をつくるため、家庭学習の中に読書も位置付けて取り組んだ。

イ 親子読書の取組

長期休業において「親子読書カード」を活用しての親子読書に取り組んでいる。

ウ 児童会の取組

児童会による読み聞かせ会や図書祭り、おすすめの本紹介等を実施した。

(3) 情報メディアとの共生

ア 情報メディア利用についての家庭内のルールづくり

「盛岡市5か条のスマホルール」をふまえた「我が家のルール」を全家庭で作成した。

イ 情報メディア教室の実施

盛岡市子ども未来部から講師を招き、全児童、保護者を対象に情報メディア教室を実施した。ネット上での様々な危険性、トラブルについて学んだ。

ウ 「メディアコントロール」の取組

年4回、家庭学習強化週間と併せて、自分に合ったメディア時間の減らし方に取り組んだ。

(4) コミュニティ・スクールの推進に向けた取組

5月に第1回学校運営協議会を開催。玉山小・玉山中の経営方針について共有を図った。

2 成果と課題

親子での学習会やメディアコントロールの取組等で、情報メディアの適切な利用について見直す機会を増やすことができた。共通理解を図ることができた。1日の生活時間の中での適切なメディア時間や有効活用の方法について、親子で考えを深めていくことが課題である。

<実践主題>

「家庭・地域社会・学校が一体となって地域の宝を育てよう」

渋民小学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

地域の方々と連携し、5年生による稲作体験活動（田植え）、5、6年生による啄木祭での鼓笛演奏、3年生による下田田植え踊りや愛宕火防太鼓の体験、発表等を行うことができた。

また、今年度は特に防災教育についてまなびフェストにも位置付けながら重点項目として取り上げ、取り組んだ。夏休み中に地域の危険箇所について、親子で実際に調べ、調べた内容と場所をシートや防災マップにまとめ、学校全体で危険箇所を共有することができた。

また、釜石市の震災の様子講演会、下田地区水害被害のゲストティーチャーによる授業、火山被害を想定した引き渡し訓練の実施等、学校、保護者、地域が協力し、児童の安全安心を守る防災教育推進のため、積極的に取り組んだ。



【田植え踊り】



【水害の学習】



【防災教育の推進

（親子で防災さんぽ）】

(2) 読書活動の習慣化

学校司書による図書室の掲示や、本の整理、読書だよりの作成とともに、図書委員会が呼びかけ、読書活動の習慣化を図ることができた。

また、図書ボランティア「ぽっぽの会」が、今年度より活動を再開し、図書の整理や各学級での読み聞かせ等、積極的に活動を行った。新規の会員も入り、今後より活動の幅を広げていくことができればと考えている。



【読み聞かせの様子】

(3) 情報メディアとの共生

低学年から高学年まで、全校児童でそれぞれの発達段階に応じた情報モラル教室を実施し、情報メディアの危険性や上手な付き合い方について、教えていただいた。具体例を示していただくことで、自分にも起こりうる問題として考えることができた。また、タブレット持ち帰りの際にも改めて確認していくことで、適切な利用について理解を深めることができた。



【情報モラル教室】

2 成果と課題

- ・ 今年度は特に防災に関わる内容について、地域全体が、協力して子どもたちを見守り、育てるという意識が共有され、防災教育への意識を高めることができた。
- ・ 学校全体で情報モラルへの意識を高めることができた。また、図書館司書、読書ボランティア、図書委員会の連携、協力のもと、読書の習慣化に関わる取組を推進していくことができた。
- ・ 今後も情報機器の適切で安全な利用について、学校全体で理解を共有し、学校と家庭で連携をより密にしながら、効果的な情報メディアとの関わり方について理解を深めていく必要がある。
- ・ 「まなびフェスト」の防災教育に関わる項目を評価し、家庭や地域に周知するとともに、よりよい防災教育の進め方について協議し、保護者や地域の方との連携を図っていく。

<実践主題>

地域・家庭・学校の協働で 心身ともに豊かでたくましい 「生出っ子」を育てよう

生出小学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

ア 地域合同運動会

閉校にあたり「地域皆で思い出に残る運動会にしたい」と、五者連携により多くの参加を得て、昼食をはさんでの全日開催の合同運動会が開催できた。25年間携わっている地域保存会の方々の指導や、保護者と地域の有志での夜練習をへて、大勢が集結し生出さんさ踊りを披露した。各競技においても、子ども達の活躍や地域の団結の場を作ることができ、意義深いものとなった。

イ 生出フェスティバル

「子ども達に夏の楽しい思い出を」と、各地区からの出店、生出さんさ踊りの披露、大抽選会等の催し物が行われた。当日は雨天のため、会場を体育館に変更し開催となったが、校庭からの打ち上げ花火がフィナーレを飾った。地域・PTAの結束力により開催されたフェスティバルは、活気あふれる体験の機会となった。

ウ 生活・総合発表会

地域探検や調査・体験活動等を通して、地域学習支援者や各見学施設の方々から、地域の魅力や先人の功績を学び、自分が地域のためにできることを発表した。保護者や岩手大学関係者、地域学習支援者との意見交流を通じて、地域への愛着を深めることができた。

(2) 読書活動の習慣化

夏休みと冬休み中に、読書習慣の形成と親子のふれあいをねらいに全家庭で親子読書に取り組んだ。親子で同じ本を読む、お勧めの本を紹介し合う、読み聞かせをする等、回を重ねるごとに各家庭の取組に工夫が見られるようになった。

(3) 情報メディアとの共生

情報メディアと関わる時間の増加傾向が顕著なため、長期休業中に各家庭でめあてや約束を決め、ノーメディアデーに取り組んだ。家族でふれ合う時間や生活時間を見直すことにも繋がり、メディアと関わる際の約束を家庭内で共有し実践することの大事さを知る機会となった。

2 成果と課題

親子読書やノーメディアデーを、長期休みに全家庭での取組としたことで、個々の意識が高まり日常への実践へつなげることができた。また、行事や地域学習を通じた関わり合いの中で、地域全体で子ども達の学びや成長を支えていく体制づくりができた。

渋民小との統合となるが、これまでの「連携・協働」の体制を維持し、今後も地域の子どもを見守り育てる取組を継続したい。



＜実践主題＞

地域の人・もの・歴史・自然とのふれ合いと読書活動をととして、
心豊かでたくましい子どもたちを育てよう

巻堀小学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

ア 米作り活動

地域の方や稲作協同組合の協力を得て、5月に育苗センターの見学、10月に機械を操作しての稲刈りを体験した。収穫したもち米を用いて、地域の方と収穫祭を行ったり、情報発信活動で販売活動をしたりすることができた。

イ 情報発信活動

「巻堀の良さを発信し、地域の活性化を図る」というねらいで、全校によるふるさと学習を行った。学習の成果を発信する目的で、盛岡駅渚の広場において全校で情報発信活動を行い、地域の伝承会の方に教えていただいた巻堀神楽を披露するとともに、自分たちで作成した姫神小桜ストラップや、米作り活動において収穫したもち米を販売した。県内外の人が足を止め、児童の神楽を見たり、姫神小桜ストラップの説明に耳を傾けたりしていた。

(2) 読書活動の習慣化

ア 図書ボランティアによる読み聞かせ

地域の2名の図書ボランティアに來校してもらい、月1回、読み聞かせを行うことができた。子どもたちは毎回とても楽しみにしており、読書への関心を高めることができた。

イ 親子読書の取組

長期休業中には親子読書に取り組み、読書に親しむ機会となっている。親子で本について語り合うことは、子どもたちの読書への関心を高める成果を上げている。

(3) 情報メディアとの共生

巻堀中学校区の小中一貫教育の一つとして、「すずらんウィーク」を設定し、家庭と協力してインターネットの適切な利用、家庭学習の充実を目指す取組を行っている。これにより、メディアとの付き合い方について、児童だけでなく家庭への意識付けを図ることができてきている。

(4) コミュニティ・スクールの推進に向けた取組

今年度より巻堀中学校区学校運営協議会がスタートし、各学校の成果と課題を確認し、熟議によりめざす方向性を共有した。

2 成果と課題

地域・家庭・学校が連携して児童を育成しているという意識が高く、良い伝統となっている。情報メディアとの共生については、地域や家庭にその弊害や実態、対処法について知らせ、連携して、基本的な生活習慣の確立について、啓発を図っていきたい。

＜実践主題＞

学校・家庭・地域が共に歩み、かしこく、やさしく、たくましい子どもを育てよう
～子どもとのふれあいを通して～

好摩小学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

ア 地域行事への参加

地区清掃活動や、中学生を交えての勉強会、親子で工作体験など、各地区がアイディアを出し合いながら、特色のある地域活動を行うことができた。

イ 「見守り活動」における連携

多くのスクールガードの方々から、登下校における安全の確保や見守り活動を積極的に推進していただくとともに、地域でのあいさつ運動に取り組むことができた。特に、今年はスクールガードのみなさんと積極的にあいさつを交わすことができた。

(2) 読書活動の習慣化

ア 児童生徒の取組

ボランティア委員会が中心となり、空き缶やダンボール回収を行っている。PTA三役の皆様方を中心に、保護者の方にもバックアップしていただき継続的に取り組んでいる。

イ 年2回の親子奉仕作業の実施

本校PTAのすずらん環境部が母体となり、夏場は外の草刈りやプール清掃、秋には校舎内の窓拭きなどを行い、校内美化に努めた。

(3) 情報メディアとの共生

ア 「すずらん Week」による取組

年2回家庭学習強化週間と合わせて、情報モラルの強化週間「すずらん Week」を設定して、我が家のスマホルールへの取組を推進することができた。

イ 家庭教育学級の実施

「情報メディアとの上手な付き合い方」と題して、親子で一緒に聞くことができる家庭教育学級を実施し、スマホやゲーム依存のリスク、親子でのルール設定の在り方について学んだ。

2 成果と課題

- ・ 好摩地区で行っている、一地区一特色の地区活動に継続して取り組むことで子どもたちの満足感にもつながった。ふれあいバザーを開催し、家庭教育学級やバザー等、PTAの自立的な活動を推進することができた。
- ・ 役員を中心に工夫のある地区活動やPTA活動を推進しているが、行事などの参加率が少ない状況が散見される。参加率が高まるような開催時期設定や、更なる内容の精選を図っていきたい。

＜実践主題＞

家庭・地域社会・学校が一体となって、

宝積の心をもった笑顔あふれる向中野の子を育てよう

向中野小学校区教育振興協議会

本校では開校時より、教育活動を充実させ、地域と学校と家庭が連携を図り、向中野小学校の子どもを笑顔にする会「スマイル・プロジェクト」を設置し、教育振興運動を展開している。

1 活動の実際

3つのねらい（1開かれた学校 2地域・家庭の教育力 3子どもの安全・安心）のもと「スマイル1（まもる）安心・安全」「スマイル2（ささえる）学校支援」「スマイル3（みんなで考える）地域連携」「スマイル4（学び、共に歩む）人づくり」の4つの具体の活動をしている。

(1) 体験活動への参加促進

【スマイル2（ささえる）学校支援】の活動として、総合的な学習、校外学習、伝統芸能、スケート教室等において、保護者や地域の方々が各種活動のボランティアをしてくださったり、クラブ活動の講師をしてくださったりしたことで、充実した体験活動ができた。

また、【スマイル4（学び、共に歩む）人づくり】の活動として、コロナ後初めて学年PTAレクが開催され、学年全体の保護者と子どもたちが校庭いっぱい駆け回りながら交流する機会となった。



(2) 読書活動の習慣化

【スマイル2（ささえる）学校支援】の活動として、「図書ボランティア」の活動が行われている。①読み聞かせ（学期に2学年ずつ実施）②貸出補助・本棚整理（月1回の活動）③環境整備・本の修繕（月1回ずつの活動）と、保護者や地域の方々が3つのグループを組織し教育活動を支援している。こわい話、クリスマス等、時期に合わせたテーマで昼の読み聞かせ会を開催したり、昼の放送を活用したりと、子どもたちの読書意欲の向上につながっている。

(3) 情報メディアとの共生

【スマイル3（みんなで考える）地域連携】の活動として、「まなびフェスト」を学校・家庭・地域で連携して推進している。「まなびフェスト」と同様に、情報メディア等の正しい利用の在り方について、中学校区で「メディア視聴・利用のルール」を定め、取り組んでいる。情報モラル教育について、PTA三役会において貴重なご意見を多数いただき、子どもが実感を伴ってルールを考え実行できるよう、準備を進めている。

(4) コミュニティ・スクールの推進に向けた取組

準備委員会を開催し、来年度からの設置に備えている。

2 成果と課題

- ・地域や保護者と連携しながら、継続して活動を推進することができた。
- ・コロナ後再び行われるようになった子ども見守り会紹介式、学年PTAレクによって、子どもたちが地域の方々を知り、今後もつながりを感じることができるような機会となった。
- ・PTA専門部のボランティア制への移行、学校運営協議会の設置に伴い、体験活動の協力体制、募集の在り方を考えていく。
- ・挨拶・役割・情報モラル等、課題を共有し、さらに連携を図りながら取り組んでいく。

＜実践主題＞

地域とのふれあいを通して、健全な生徒を育てよう

下橋中学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

ア 「下中生を支える会」 (6/20)

毎年、地域連携の基盤づくりとして開催し、今年も学校の教職員、保護者、町内会長や民生委員、少年指導員、保育園の職員など 68 名が参加した。学校と地域がどのように連携していくかなど、具体的な話題について意見交換がなされた。

イ 地区合同清掃 (7/29)

盛岡さんさ踊りの開催前に学区内小学校と連携し、防災や安全に対する意識を高め、地域に誇りを持つ児童生徒を育成することを目的に地域清掃を行った。のべ約 400 名が参加した。

ウ さわやか下中広場 (11/9)

中学生、教員そして地域の方々合計約 90 名が参加し、盛岡城跡公園の落ち葉掃きや鶴ヶ池の中の落ち葉すくい、賜松園の落ち葉掃きなど、公園の清掃活動に取り組んだ。



【さわやか下中広場】

(2) 読書活動の習慣化

通年で 10 分間の全校朝読書を実施している。また、今年度からタブレット端末で岩手日報の紙面の閲覧ができる岩手日報デジタル版の利用を正式に開始し、タブレット画面上で新聞記事を切り抜いてスクラップブックを作成し、生徒が相互に意見交換を行っている。

(3) 情報メディアとの共生

「下橋中教育振興委員会」や「下中生を支える会」で地域と意見交換を行っている。また、3 学期に情報モラル講演会を行い、メディアとの付き合い方について生徒に考えさせる場を設けている。

(4) コミュニティ・スクールの導入に向けた取組

ア 広報や行事等のお知らせを地域の方々に生徒が直接会話をしながら手渡す「繋ぎ隊」を組織し、生徒の手による地域連携を進めている。

イ 「下橋中教育振興委員会」を年 3 回開催し、学校と地域の代表者（学識経験者・民生児童委員・老人クラブ代表・保護者代表等）により、本校教育活動に対する意見交換、諸行事への協力依頼を行っている。

2 成果と課題

- ・ 地域との交流を重ねることによる学校（生徒）と地域との信頼関係の強化
- ・ 地域が必要としている事柄に生徒自らが気付き、すすんで実行に移す姿勢の育成

<実践主題>

「盛岡らしさ」を生かして、下小路中の子を育む
～地域・家庭との協働による誇りある下中生の育成～

下小路中学校校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

ア 夏季休業・冬季休業を活用した各地区でのボランティア活動

- ① 夏季の活動が行われた地区は、29 地区中 23 地区であった。
- ② 冬季の活動前の地区集会に、民生児童委員を 5 年ぶりにお呼びし、地区集会を開催した。

イ 地区行事への参加

- ① 「中津川ロードレース大会」が行われ、参加生徒は 143 名
- ② 「城南地区青少年健全育成ボランティア活動実践会」へ参加生徒は 30 名

ウ 「下小路ものしり検定」 ※一般公開用 二次元コード→

本年度も内容等を変更して実施することができた。地域にいきる
防災や避難行動を考える防災問題を付け加えた。



(2) 読書活動の習慣化

ア 図書ボランティアによる図書室環境整備や図書室開放日の設定

イ 図書ボランティアと図書委員会の連携による読書推進活動

(3) 情報メディアとの共生

ア 「盛岡市 5 か条のスマホルール」の取組の徹底

イ 長期休業前に利用についての各学級での指導

ウ 利用実態に即した生徒への指導や地域や家庭への啓発活動

エ サイバーセキュリティチャレンジモデル校として県警と連携した研修会の実施

(4) コミュニティ・スクールの推進に向けた取組

運営委員の選出と依頼

2 成果と課題

- ・地区集会や学校行事へ町内会長や民生児童委員をお呼びし、学校と地域をつなぐ活動や機会を増やすことができた。
- ・図書ボランティアの活動から福祉ボランティアの活動がスタートした。
- ・持続可能な活動として地域や保護者がどのように関わっていくのかを吟味しながら、様々な活動を考えていく必要がある。

<実践主題>

関係五者が一体となって「くりやがわ」の子を育もう

厨川中学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

ア アルミ缶募金活動

1991年（平成3年）にフィリピンで起きた火山災害に端を発した被災地支援のための募金活動は、その後マニラの里子支援でもあるスカラシップ募金へと発展した。これまでボランティア委員会が中心となって継続してきたこの取組は今年度末をもって終了となるが、新生徒会が次なるボランティア活動について全校生徒に対してアンケートを実施して意見を求めている。

イ 復興教育のシンボルとして作られた北梅太鼓

厨中ブルーの衣装に身を包み、文武両道で活躍する生徒の姿をイメージした「青嵐」。震災から立ち上がり着実に前進する学校生活をイメージした「天真」。新生厨中の文化と伝統の定着、更なる発展をイメージした「創流」。陸前高田市氷上共鳴会の方々をお招きして今年もご指導をいただいた。



ウ 地域行事への参加



令和6年7月、地域のお祭りに北梅太鼓が出演した。生徒たちは、地域の皆様に喜んでいただけることに、大きなやりがいを感じている。活躍の場をいただけるということは非常にありがたいことだと改めて感じている。

(2) 読書活動の習慣化 「図書ボランティアさん（「YOUNG UME文庫」）による読み聞かせ」

平成29年3月にスタートした、図書ボランティアさんによる「読み書きせ」が今年度も行われた。7月には1年生、10月には3年生、11月には2年生で実施した。生徒たちはこの「読み聞かせ」を楽しみに待っている。

(3) 情報メディアとの共生 「ルールづくり、講話からの学び」

生徒用GIGAタブレットの使用ルール「2022年12月1日から運用（作成：75期生徒会）」、ゲストティーチャーによる講話などから情報モラル等について考える機会を設けている。

2 成果と課題

- ・コロナ禍明けの活動が少しずつ再開されていく中で、校外における生徒の活躍の場をいただくことは、まさに関係五者が生徒を育むことにつながっている。
- ・図書ボランティアの活動が継続されていることにより、読書意識の向上が図られている。
- ・こどもファーストの観点から行事の精選などを図りながら改善を進めていく。

＜実践主題＞

親子の対話を深め、地域での交流を図り、社会参加活動を進めよう

上田中学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

5月・8月・10月に設定している「地域奉仕推奨日」への参加等については、地域の実情に合わせながら可能な限り実施できた。地域行事については、お祭り、資源回収等も含めて、生徒たちが各地域の中で積極的に活動に参加する姿があり、地域の皆様にも喜んでいた。

他の主な活動としては、小学校との合同あいさつ運動、12月には県立中央病院へクリスマス訪問を企画して、「中央病院のスタッフ・患者の皆様が頑張るきっかけになるように！」と、全校から有志のメンバーが集まり、3つのプロジェクトに取り組んだ。完成したクリスマスツリーとプレゼントを、病院1階ホールに展示させていただいた。また、合唱プロジェクトで制作したCDを、病院スタッフの皆様や各階の患者さんにも視聴してもらうことができた。

2月には黒石野中学校との「地域と中学生の対話集会」に参加し、実践発表を行う予定である。

(2) 読書活動の習慣化

学校司書と地域の図書ボランティアの協力（延べ69名：12月時点）により、月2回活動している。

ア 図書室の棚や掲示等を整備し、生徒が利用したくなるような環境づくり、読書推進に取り組んだ。また、季節にあわせて図書室内外を装飾している。

イ 新刊図書は、生徒から興味のある本の要望を年数回ほど受け入れながら購入した。

ウ いつでも返却できるように返却ボックスを設置している。

(3) 情報メディアとの共生

スマートフォン等の適切な利用についてアンケート調査を実施して、実態把握を行った。全校でのスマートフォン所持率が60%を超え、改めて利用を含めた情報モラルへの意識を高めることや、家庭での「利用ルール」等について課題が明らかとなった。調査結果を各家庭に周知しながら改善に向けて取り組んでいく。

校内では1人1台端末の家庭への持ち帰りによる家庭学習の充実を図ることや、生徒会行事での端末利用による資料のデータ化（ペーパーレス）等の取組が定着している。

2 成果と課題

今年度、学校運営協議会を立ち上げ、2学期に第1回を開催した。授業参観の後に協議会をもち、参観の感想をきっかけに、これからの上田中学校区の教育活動を盛り上げていくための課題を議論できた。協議会での意見を踏まえ、各地区において活動内容や参加者が限定されないよう創意工夫しながら、より積極的な地域貢献への気持ちの醸成とアクションを中学生からも企画できるように、地域と学校の連携・協働の体制を一体的に推進していきたい。

＜実践主題＞

家庭・地域社会・学校の連携を深め知力・体力・品性に満ちたたくましい生徒の育成

河南中学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

ア 地域ボランティア

- ・ 赤い羽根共同募金や盛岡シティマラソン大会の沿道応援など、地域に出向いてボランティア活動を行った。
- ・ ごみゼロ運動、落ち葉拾いボランティアを行った。
羅漢公園や校地内の落ち葉掃き、側溝の泥上げを行った。
- ・ 地域行事として「夏祭り」「秋祭り」に参加し、地域の方々と運営を行い、お祭りを盛り上げることができた。

イ 世代間交流ボランティア活動

- ・ 川目老人福祉センターで行われる卓球大会に参加した。



【町内会の方々と一緒に運営】

(2) 読書活動の習慣化

ア 朝読書

- ・ 朝の短学活前の 10 分間を朝読書の時間とし、継続して行った。

イ ボランティアによる読み聞かせ

- ・ 読み聞かせボランティアの方に来校いただき、1 学年 4 クラス、校内教育支援センターなどで読み聞かせを行った。



【一緒に卓球を行い、親睦を深めた】

(3) 地域防災活動の推進

防災学習を通して、地域を知り、地域とかかわり
そして、地域の人たちや小学生と一緒に、持続的な
安全教育に取り組むことができた。



【地域の方と一緒に HUG】



【小学生と一緒に
段ボールベッド作成】

(4) 情報メディアとの共生

ア 情報モラル教室の開催

- ・ スマホ使用の規範や友達とかかわりなどを考え、犯罪につながる恐れのある行為などを指導し、適切な使用について呼びかけた。

イ 「SNS 減量作戦」

- ・ 生活委員会により、定期テスト前に「夜 8 時まで利用を終えることができたか」を調査し、スマホの利用を制限する運動を生徒が主体的に取り組んだ。

2 成果と課題

- ・ 新たな取り組みとして「地域防災学習」において、地域を知り、地域とかかわり、地域から学び、地域に発信するという系統的な学習が展開できた。
- ・ 情報機器の利用について、子どもたちの主体的な取り組みによる自浄作用の向上とそれを支える家庭・地域の連携力の向上を目指す。

＜実践主題＞

たくましく生きる仙北中生を育む

仙北中学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

- ア 町内会・自治会で実施する行事へ、生徒は積極的に参加していた。
- イ 地区の文化祭や公民館行事へは、合唱部、吹奏楽部が演奏依頼に応えた他、文芸部や美術部も文化祭へ参加し、地域の行事を盛り上げた。

(2) 読書活動の習慣化

- ア 読書や新聞スクラップを朝活動時間に計画的に実施し、新聞や本へ慣れ親しむ機会を設定した。
- イ 各学年国語の授業で、並行読書教材として文庫本を活用した読書を実施。読書後は、感想等をまとめたものを保護者と共有し感想を書いてもらい、家庭でも読書について話題となる活動を実施した。
- ウ 夏休みの課題のひとつとして「いっしょに読もう新聞コンクール」に出品を呼びかけた。読書だけでなく、新聞を読むことを子どもと取り組む家庭が多かった。

(3) 情報メディアとの共生

- ア 外部講師を依頼し、情報モラルに関する生徒・保護者向けの講演会を2回実施した。
- イ 県教育委員会学校教育室より発信されている情報モラル教育指導資料「わんこ情報室」を活用し、電子連絡網で全家庭へ配信した。生徒への指導に活用するだけでなく、情報モラルについて家庭への情報提供を行い、常に家庭でも話題とするよう呼びかけた。
- ウ 仙北中学校区の小学校児童会と本校生徒会で、メディア視聴ルールを見直し、保護者や地域の方々への協力を依頼した。「仙北中 SNS マナーアップ宣言」を作成し、来年度に向け、「仙北中学校区 SNS マナーアップ宣言」の作成を進めた。

2 成果と課題

- ・地区行事・公民館行事等に積極的に参加し、地域に貢献することができた。
- ・国語科を中心に、家庭を巻き込んだ読書活動や新聞を読む活動を展開することができた。
- ・情報モラルに関する講演会や情報モラル教育指導通信の配信等により、情報メディアとの共生の在り方を、生徒・保護者が共に考える機会を設定することができた。
- ・地域の会合でも、メディア視聴ルールについての取組を紹介し、学校・家庭・地域と協力して取り組むことを依頼することができた。
- ・図書室の利用を促進する工夫や、朝読書で読む学級文庫の充実を図る。
- ・各活動が充実するために、コミュニティースクール発足を推進する。

<実践主題>

地域との関わりを深め、心身ともに健康な子どもを育てよう
～共に汗を流し、共に触れ合いを深める活動を通して～

大宮中学校校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

ア 本校校区教育振興協議会の2大行事である「地区一斉清掃」と「大宮地区教振スポレク」を開催した。地区一斉清掃では、各地区の美化活動や資源回収、草取りなどに取り組み、1,491名が参加した。大宮地区教振スポレクでは、様々なスポーツを通して生徒・PTA・地域住民が触れ合う貴重な機会となり、計474名が参加した。



イ 6～10月までPTAあいさつ運動を行った。保護者、教員だけでなく、生徒も一緒に並び、みんなで気持ちのいいあいさつを交わした。約4か月間で延べ401名のPTA会員の皆様にご協力いただいた。親子の交流の機会にもなり、非常に有意義であった。

ウ 「ゆいっこセンター祭り」をはじめ、各種祭事等において、吹奏楽や大中太鼓等を披露した。

「いわて盛岡シティマラソン」では、応援団&有志計98名で、ランナーに熱いエールを送った。

(2) 読書活動の習慣化

全校で毎日の朝読書に取り組んでいる。学校で実施する朝読書をきっかけとして昼休みの図書室利用、帰宅してからの家庭での読書習慣につなげることもねらいのひとつである。

図書ボランティアは、複数の保護者の協力を得て今年度で7年目を迎えた。図書・書籍の修繕や、読書意欲を喚起させる掲示、季節に合わせた装飾など、素敵な図書室で読書ができる環境をつくっていただいている。

図書委員会の活動として、図書室より抽出した図書の学級内での利用など、企画や実践にも努めている。



(3) 情報メディアとの共生

全校生徒を対象に「盛岡市5か条のスマホルール」などを活用し、情報端末機器の所持率や利用時間等に関わる調査を行い実態把握に努めている。そして、三者面談を利用して「我が家のルール」を確認するなどの取組も行っている。また「わんこ情報室」を活用したSNSの使い方やスマホルールを用いた学習、新入生説明会や小学校訪問での保護者・児童への啓発等も行った。

2 成果と課題

生徒たちが地域の活動に積極的に参加することにより、地域の絆を感じ、助け合って暮らしているという実感をおぼろげながらも感じてくれるようになったことは一番の成果と言える。また、学校の様子や生徒たちががんばっている様子を大中太鼓や吹奏楽演奏、合唱演奏などで地域に発信することもでき、地域からの協力を得やすい環境が整ってきたことも成果である。一方、世帯数・生徒数の減少、地区の統合等により、諸行事の精選が課題となりつつある。

＜実践主題＞

地域と中学生の交流を深め、心の豊かな黒中生を育てよう

黒石野中学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 地域活動への参加促進

ア 全校生徒による地区奉仕活動

1・2学期終業式後に地区生徒会を中心に、各地区において路上清掃や公民館の清掃などのボランティア活動を行った。地区ごとに町内会長さんと連絡を取り、地域の実情に合わせた活動を行うよう努めた。

イ 町内会の運動会、奉仕活動、地域のお祭り、町内文化祭等への参加

地域のお祭り等にボランティア、出演者（太鼓発表）として積極的に参加していた。

ウ 地域にとともに歩むPTA行事

以前の「バザー祭」を昨年からリニューアルし、黒中FunfaDayとして実施した。生徒の発表、物販、バザー、キャンプファイヤーなどを実施。地元企業の協賛協力もあった。

(2) 読書活動の習慣化

ア 読書ボランティア（PTAサークル活動）による読み聞かせ等の活動

2学期末にボランティアの皆さんによる読み聞かせの活動を企画した。学年ごとに日程を決め、朝読書の時間に実施した。生徒の感想は、「ボランティアの方々の表現力、本の面白さに感動し、読書への興味がさらに高まった」という内容が多かった。

イ 生徒会情報委員会による読書推進活動

情報委員会の活動として、学級文庫の選定と各教室への配置、朝読書の呼びかけを行った。

(3) 情報メディアとの共生

ア 家庭内での情報機器使用の約束を確認する活動

リーフレットを利用し、市内小中学校のルールを確認するとともに、家庭での使用状況を把握してもらいながら、スマホ等利用のルールを話し合う機会を設けた。

イ 情報モラル学習会の実施（12月）

株式会社GREEが提供する情報モラル教材を用い、動画視聴を学級ごとに行う形で実施した。

2 成果と課題

- ・本校は1学年の総合的な学習の時間（街道の時間）において地域との「ふれあい体験学習」を行っている。各町内会の方々と生徒たちとが地域の「良さ」や「誇り」について交流活動しながら学んでおり、今年度も貴重な体験ができた。
- ・情報モラルの学習を実施しているが、端末所有の割合の増加もあり、入学当初から積極的に情報の取り扱いについて学ばせる機会を増やす必要性を感じる。

＜実践主題＞

学校・家庭・地域の連携を深め、体験活動など、
子どもの健全育成のための環境づくりを推進しよう

城西中学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

ア 地区活動…夏季休業・冬季休業を中心に、学区内 14 地区でのボランティア活動の実施

活動内容…公民館清掃，ゴミ拾い，資源回収，草取りなど

イ 町内会行事…学区内 16 町内会で開催される夏祭り・町内会行事への参加

ウ 吹奏楽部による校外での演奏

① 地域のお祭りでの演奏

② 大新小学校 P T A 事業での演奏

エ『社会を明るく

する運動』広報

活動への参加



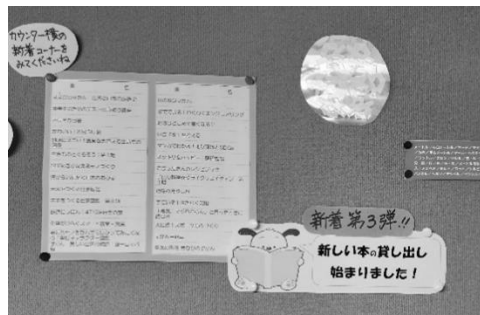
(2) 読書活動の習慣化

ア 1 年を通しての『全校朝読書』への取り組み

イ 図書委員会による学級文庫の設置など、読書推進に向けた活動

ウ 図書室利用の向上に向けた環境づくりと整備

エ 新刊やお勧めの本の紹介など、本に親しむ機会の提供と読書量の向上



(3) 情報メディアとの共生

日頃から SNS 及びインターネットの使い方を指導するとともに、長期休業前には、本校生徒の実態（ネット平均利用時間や携帯・スマホ所持率等）をとらえさせながら、利用の仕方について確認している。各家庭に『盛岡市 5 か条のスマホルール』を配布し保護者への理解、協力を進めた。また、まなびフェスタアンケートに「ゲームやスマホなどの使用のルールを家族で話し合い、守ることができた」かを質問項目に加え、状況の把握と指導につなげている。

2 成果と課題

- ・ 参集しての活動をこれまで以上に行うことができた。
- ・ 校外での活動に積極的に参加することで、地域と関わる機会が増え、地域の一員であることや社会の一員であることの自覚や誇りを感じさせることができた。
- ・ 情報機器の利用の仕方を含め、学習習慣と規律ある生活リズムを自ら意識して行動する生徒の育成を進めていく。
- ・ 学校司書の配置による効果を、読書活動の推進につなげていきたい。

＜実践主題＞

「生徒・保護者・教職員一人一人が地域社会の一員としての自覚を深め、
地域行事やボランティア活動に参加しよう」

城東中学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

① 岩山巣箱かけ（4/12）

昭和37年の学校創立以来、盛岡市野鳥の会の協力を得ながら巣箱架設活動を行っている。
今年度で62回目となる。

② 地区清掃活動 夏冬年2回実施（7/24 12/24）

例年取り組んでいるが、昨年度に続き、夏は酷暑のためごみ拾いを十分行うことができなかった。冬は雪が少ないことを想定してスノーバスター以外の作業も設定した。

③ 老人スポーツ大会運営ボランティア（10/14）

昨年度に続き第2回目の活動。城南小学校体育館で種目用具の出し入れや模範演技を行った。選手の介助をしながら楽しい時間を過ごした。



④ スノーバスターズ（12/24 出陣式）

学区内の除雪車が入りにくい道を中心に1・2年生のほぼ全員が除雪活動を行う。

⑤ 三世代交流餅つき大会（1/7）

中学生が城南地区福祉推進会から「ジュニアリーダー」に任命され、前日の準備から当日まで会の運営の仕事や小学生・幼児の世話をを行う。



写真は昨年度の様子

(2) 読書活動の習慣化

毎日8:20～8:30に朝読書の時間を設定している。
また夏休み・冬休みに読書を推奨している。休み後に
読んだ本を紹介する「家読カード」の掲示も行っている。

(3) 情報メディアとの共生

① 家庭での情報メディア利用のルールづくりをすすめた。

② 城東中、城南小、山王小の3校が連携し、中学校の期末テスト前に合わせてテレビやネット視聴、ゲームをしないで勉強や読書に取り組むメディアコントロール運動を行った。

(4) コミュニティ・スクール（CS）の推進に向けた取組等

来年度（R7年度）中のCS導入に向けて学校運営協議会の構成人員の検討中である。現在の学校評議員会のメンバーを中心に地域、学校、PTAからバランスよく構成したい。

2 成果と課題

様々な活動を通してボランティアが根付いている。参加者も多く、地域から感謝されている。一方で、諸調査の結果からは自分の住む地域の良さを感じている生徒の割合が低いことが読み取れる。生徒一人一人が主体的に地域と関わり、地域に生きる自覚を高めることが課題である。

＜実践主題＞

「小・中学校、地域、家庭が連携し、心豊かでたくましい み・た・け・の・こを育てよう」
～未来に向かって たくましく 健康で 望み輝く 子どもたちへ～

北陵中学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

ア 地区一斉奉仕活動

1・2学期の終業式の午後に、22地区に分かれ、通学路や公園などの清掃を行った。昨年度に引き続き、地域児童生徒交流行事の進行や運営に参画した地区もあった。また、生徒会による清掃活動も企画され、個人や部単位で地域の清掃活動に取り組んだ。



イ 職業体験

2年生を対象に、職場体験を行った。実際の体験や、働く人の姿を目の当たりにすることで、職業観の深まりや、日々の生活での勤労意識の高まりが見られた。



(2) 読書活動の習慣化

年間を通して、毎朝10分間の朝読書に取り組んだ。運営は生徒会の活動（委員会活動）で行っている。また、図書館司書の協力を得て、昼の放送で新刊本の紹介などを行い、意欲を喚起した。生徒の本に親しむ気持ちと読書習慣の醸成に寄与することができた。

(3) 情報メディアとの共生

ア 情報モラル教室

学年ごとに情報モラル教室を計画し、実施した。学年の実態に応じた内容を学びながら、適切な情報機器の利用について考える機会とした。



イ 家庭との連携

盛岡市から配付されている「5か条のスマホルール」を利用し、生徒と保護者が各家庭のルールを考える機会を設けた。また、学期末面談等で「5か条のスマホルール」や各家庭のルールをもとに、学校と家庭が連携して情報機器の使い方について指導した。

2 成果と課題

「地区一斉奉仕活動」では、町内会や自治会との連携した活動を行ったり、活動中に地域の方から励ましの声をいただいたりする中で、地域の一員として貢献することの大切さを実感するとともに、今後も積極的に活動していこうという意欲の高まりが感じられた。

情報モラル教室等で情報機器の適切な利用について考えた結果、SNS等でのトラブルは減少傾向にあるものの、長時間利用の解消には至っていない。今後も継続した啓発活動に努めていきたい。

<実践主題>

諸活動を通して、学校と地域の連携を深め、子どもの健全育成を図る

松園中学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

ア 小中合同あいさつ運動

松園小学校と東松園小学校に出向いて、生徒会役員が小学生と一緒にあいさつ運動を実施した。

イ 地域行事への参加

松園芸術祭への作品出品や文化祭の学級合唱で金賞を受賞した3年生による学級合唱発表、松園夏祭りでの吹奏楽部の演奏等、地区等の行事を盛り上げた。

ウ アルミ缶回収

生徒会奉仕委員会主催のアルミ缶回収に全校で取り組み、その収益をユニセフや赤い羽根に募金した。

エ 少年センター合同あいさつ運動

11月12日（火）7時30分から少年センターのみなさんと後期生徒会役員と一緒に生徒昇降口前であいさつ運動を行った。



【少年センター合同あいさつ運動】

(2) 読書活動の習慣化

ア 学校司書や図書ボランティアによる図書室の環境整備や蔵書整理、新刊図書の登録と紹介ポスターの作成等の啓発活動と図書委員による図書館の開館と読書の呼びかけ。

イ 朝読書の実施

ウ 安心・安全・心の日は朝読書の時間に復興副読本を読んでいる。

(3) 情報メディアとの共生

ア リーフレット「盛岡市5か条のスマイルルール」を活用し家庭内におけるルール作りの推奨

イ 外部講師による全校生徒を対象に情報モラル講演会の実施

ウ スマホ利用アンケートの実施と安全な利用についての学習会開催

2 成果と課題

- ・地区の夏祭りや芸術祭への参加を通して地域との関りを持つことができた。
- ・校報「松風爽やかに」により保護者や地域の方へ学校の様子を発信できた。
- ・町内会長と生徒の顔合わせ等を実施して、コロナ禍で弱まってしまった地区での関係を深めていく。
- ・スマホ等の適切な利用について、今後も指導を継続していく。

＜実践主題＞

学び合い 支え合い 鍛え合う地域をつくる！

見前中学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

- ア ほっこりプロジェクト（見前小、津志田小との連携によるあいさつ運動）
- イ 地区ごとによる各町内会・自治会主催事業の取組（廃品回収や夏祭りの運営の手伝い等）
- ウ 地域活動ボランティア学習会（見前地区公民館主催事業）
- エ 地域に発信（盛岡花火の祭典や都南公民館祭りでのソーラン演舞、地区公民館の敬老会やショッピングセンターでの吹奏楽部の演奏）
- オ 毎金プロジェクトの取り組み（毎週金曜日にアルミ缶回収を実施）

(2) 読書活動の習慣化

- ア 自己啓発やスキルアップ、集中力を高めるための活動の一つとして、朝読書の習慣化を図る。
- イ 「盛岡の先人」を活用した先人教育を朝読書の時間に実施
図書委員が放送委員にはたらきかけて、朝の放送で全校呼びかける。
- ウ 授業や学活での図書館利用



【ほっこりプロジェクト】

(3) 情報機器の適切な利用

- ア リーフレット「盛岡市5か条のスマホルール」を活用
（家庭内におけるルール作りの推奨）
- イ 情報モラル教室の実施
- ウ 教育振興協議会主催の親子スマホ・携帯標語コンクールを開催
親の部・生徒の部のそれぞれの部門に、教育振興協議会長賞・学校長賞・PTA会長賞を贈り入賞作品をポスターにした。ポスターは各地区に掲示をさせてもらった。

2 成果と課題

- ・ 見中ソーランや吹奏楽部の演奏を地域のイベントで披露することができたことは、日頃の練習の成果を地域に発信する良い機会となった。
- ・ 読書活動については、朝読書の時間を設けているが、1か月で1冊を読む切ることができない生徒が多い。学校での読書の時間を設けることで本読む機会はあるが、家に帰ると本に触れる機会は減っている。
- ・ 今回で2回目の教育振興協議会主催の標語コンクールとなったが、昨年度より保護者の応募数が増え、地域と親子でスマホ・携帯の使用について考える機会ができた。

〈実践主題〉

地域総ぐるみで「心豊かでたくましい生徒」を育てよう

飯岡中学校校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

- ア 生徒会執行部や学年生徒会執行部、各委員会委員長によるあいさつ運動の実践
- イ 小中連携によるボランティア活動
各校で回収し、プルタブは飯岡小、トレーは羽場小、アルミ缶は飯岡中が担当した。
- ウ 学校、飯岡地区防犯協会の方々によるあいさつ運動（毎月最終週金曜日）
- エ 飯岡地区体育祭へ選手、協力員の参加（9月8日実施）
選手としてはもちろん、係協力員としても本校から約20名の生徒が参加し、盛り上げた。
- オ 「飯岡地域エスペロの会20周年記念コンサート」3年生の合唱披露及び運営補助
本校を会場とし、飯岡地域エスペロの会周年事業を行った。飯岡地域の幼保小中高支援学校（幼…飯岡こども園、みどりこども園、みなみ幼稚園、小…羽場小、飯岡小、中…本校、高…盛岡工業高等学校、盛岡峰南高等支援学校）の音楽、ダンス等様々な発表を互いに交流し、地域の方々にも披露した。

(2) 読書活動の習慣化

- 1年生への読書ボランティアによる読み聞かせ
毎週水曜日に、地域の読書ボランティア「にこにこひろば」の方々による読み聞かせ活動を行っている。2年生はボランティアの方々と「この子たちの夏」を朗読する会（原爆の詩がきこえる）、戦争について考える活動を行った。

(3) 情報メディアとの共生

- 「サイバーセキュリティチャレンジ教室」の開催
盛岡東警察署の方を講師にお招きし、全校で情報社会の仕組み、情報社会でメディアと共存するために必要なことを学んだ。「サイバーセキュリティチャレンジモデル校」の指定を受け、生徒会活動の中で、ネット使用について意識を高める取組を行った。

(4) コミュニティ・スクールの推進に向けた取組等

- ア 学校運営協議会の開催（年2回）
- イ 飯岡地域「エスペロの会」（中学校区内の幼保小中高支援学校や町内会、関係機関で作る教育振興運動組織）との連携

2 成果と課題

- ・コロナ禍で延期していた飯岡地域「エスペロの会」20周年記念コンサートを実施できた。開催に伴い、様々な立場から生徒の健全育成のために持続可能な取組を考える機会となった。今後も意見交流を大切にする。
- ・タブレットの持ち帰り等、情報機器へ触れる機会が増え、ルールについて確認する場を設定できた。継続して情報機器活用を推進するための啓発活動を行っていきたい。

＜実践主題＞

学校、家庭、地域が連携・協力し、
地域総ぐるみで心豊かな乙中生を育てよう

乙部中学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

ア 郷土芸能伝承活動

地域の郷土芸能保存会の協力得て、全校生徒が7つの郷土芸能伝承活動に取り組み、7月にその成果を郷土芸能発表会において保護者や地域の方々に披露した。今年度で44回目を数える発表会に向けた取組をとおして、地域の良さや伝統芸能を継承する意義について考えなど、生徒の自己肯定感や主体性の向上につながっている。

イ 地区スポーツ協会主催「乙部地区総合スポーツ大会」への協力

卓球部員による競技審判等、生徒が大会の運営に携わった。地域に貢献する姿勢を養うことができた。

(2) 読書活動の習慣化

朝読書の充実

各クラスの文化委員が呼びかけを行う等、本に集中できる静謐な教室環境づくりを行った。また、生徒が、各自のおすすめの本についてポップを作成し掲示するなど、読書推進の環境を整えた。

(3) 情報メディアとの共生

ア 「盛岡市5か条のスマホルール」の活用

市のルールを周知するとともに、各家庭におけるルール作りを促した。

イ 親子メディア学習会の開催

夏季休業前に、PTAと連携し、県警のスクールサポーターを講師に迎え、SNSの危険性について学習会を実施した。

(4) コミュニティ・スクールの導入に向けた取組

乙部中学校における学校運営協議会の在り方の検討

郷土芸能実行員会や周年行事の実行委員会の組織を生かしながら、協議会の在り方について、検討を行った。

2 成果と課題

郷土芸能伝承活動の取組をとおして、改めて中学生を核として地域ぐるみで文化を継承することの意義や、地域、家庭それぞれの関わり方等を見つめ直すことができた。

今後も、地域総ぐるみで、地域を担う一員としての自覚と誇りの醸成を図りたい。

＜実践主題＞

学校・家庭・地域が一体になって、たくましい「みるなんの子」を育もう

- ・学習習慣の形成、家庭学習の充実、読書活動の展開
- ・あいさつの励行、地域での積極的な奉仕活動
- ・基本的生活習慣の徹底、登下校時の安全、日常的なスポーツ活動

見前南中学校校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 学習習慣の形成、家庭学習の充実、読書活動の展開

- ア 小中連携を通して、学習規律、家庭学習への取組を行っている。
- イ 朝読書、図書室の利用を通して、読書活動の充実に努めている。

(2) あいさつの励行、地域での積極的な奉仕活動

- ア 月1回の小中連携の活動や生徒会リーダーによる期間を決めて活動等、挨拶運動を展開している。
- イ 小中連携に取り組み、あいさつ運動とともに、合唱交流やスポーツ交流を行っている。
- ウ 地区生徒会の活動を主体として、地域清掃や廃品回収、防災訓練の参加を行っている。その際、自治会との連携も積極的に行っている。

(3) 基本的生活習慣の徹底、登下校時の安全、日常的なスポーツの取組

- ア 生徒会の「見前南中ネット（SNS）利用5か条」の設定、スマホ・携帯教室等を通して、情報機器の使い方に関わるルールやマナーとともに、「いじめ」とSNS機器の使用についての関連付け等を通して、意識の向上を図った。
- イ 日常的に登下校の安全について確認するとともに、PTA活動として毎月1日に登校指導に取り組んでいる。
- ウ コロナ禍が明け、各学年レクなどを通して、運動的な活動に取り組んだ。

(4) コミュニティ・スクールの導入に向けた取組

- ア 見前南中学校運営協議会を開催した。
- イ 学校評価委員や職員、保護者や地域に対して、コミュニティ・スクールに理解を図るとともに、活動についての理解と実践の再構築について検討を進めている。

2 成果と課題

- ・生徒達が地域で活動する機会が増えている。
- ・地域の方と触れ合う中で、地域の方も中学生を応援する姿勢が高まっている。また、生徒自身もそれに応えようと活動に意欲的な姿が見られた。
- ・活動について、盛岡市教育振興運動実践発表会第VIブロック発表会で発表できた。
- ・コロナ明けの活動について、精選を行いながら、活動の充実を図っていく。

<実践主題>

地域・家庭・生徒・学校が一体となり、明るい
まちづくりに貢献しようとする態度の育成

北松園中学校校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

ア 小中合同あいさつ運動の実施

小中学校区の教育振興協議会役員の皆様、小学校児童会、中学校生徒会、スクールガード、交通安全指導員による合同あいさつ運動を実施しました。登校時間の早い時間ではあったが、地域の方々、教振協議会役員の皆様と共に、明るいあいさつ運動ができた。そのほかに、小学校、中学校ではそれぞれ月一回程度のあいさつ運動を実施した。

イ 地域奉仕活動の推進

地区町内会役員の方々と一緒に、地域貢献の一つとして地区にある公園（通称：太陽公園）や、公園周辺の通学路の落ち葉清掃や、北松園夏祭り後の会場清掃活動を行った。

ウ 地域行事への積極的参加

① 北松園夏まつりへの参加

吹奏楽部の出演とPTA出店の協力をした。猛暑の中でしたが、吹奏楽部が出演し、演奏を披露した。PTA専門部の企画した出店には、準備段階から多くの協力をいただきました。当日は地域の小中学生が出店企画を楽しみ、成功することができた。

② 地域防災訓練への1年生の全員の参加

地震や火災を想定し毎年行っているこの訓練は、盛岡中央消防署の指導の下、松園町内会の方が企画・運営していただいた。今年も、地区住民の方々と一緒に、1年生全員が参加し、AED操作や消火訓練など真剣に取り組んだ。

(2) 読書活動の習慣化

ア 朝読書の習慣化

毎朝短学活前の10分間を朝読書の時間に設定し、読書活動の定着を図っている。

イ 生徒会専門委員会と図書ボランティア（隔週金曜日2名）による図書室環境整備

図書ボランティアの方々には、図書室の本を生徒が手に取りやすいような図書室の整理と、季節感や話題性のある図書室の環境づくりにご協力をいただいている。また、図書ボランティアのご協力に感謝しながら、生徒会専門委員会は、図書室清掃、図書の貸出し、本の紹介カードの作成、読書強化月間の呼びかけなどの活動を行っている。

(3) 情報メディアとの共生

ア ICTを効果的に活用した授業実践

1人1台の学習端末を効果的に活用した授業実践を目指して取り組んでいる。ICTを活用し、生徒相互の考えを効果的に交流しながら、新たな発想や思考の視点をもつような学び合いの充実を目指し、実践を進めている。

イ 情報メディアに関する防犯講話

今年度は岩手県警察音楽隊による「北松園中学校防犯ふれあいコンサート」を開催し、情報メディアに関する防犯講話をいただきながら、音楽隊の演奏を楽しんだ。

ウ スマホルールの確認

学期末の三者面談時に使用時間やルールについて5か条を基にしながら確認している。

2 成果と課題

今年度も小中学校区の両教育振興協議会のご理解とご支援のもと連携した活動を推進することができた。活動の中には、さらに発展的に充実させることが可能な活動もあり、来年度の課題として検討していく。また、今後のCS推進には、地域や教育振興協議会役員の皆様のご協力とご理解をいただけるように、現在準備を進めている。

＜実践主題＞

基本的生活習慣の徹底 あいさつの励行 地域の奉仕活動を通して
「玉山の子」を育もう

玉山中学校区教育振興協議会

1 活動の実際

（１）体験活動への参加促進

ア 資源回収の実施（全校生徒・保護者）

7月27日、地域と保護者の協力を得て資源回収を行うことができた。

イ 敬老会、ケアホームとの交流（全校生徒）

希望する地区、施設に敬老の手紙と折り紙の羽ばたき鶴を作成してプレゼントした。羽ばたき鶴は、夏休み中に全校生徒で作成したものである。

10月18日には、ケアホームやすみを訪問し、ソーラン節や合唱を披露した。

ウ 玉山地区公民館講座への参加（玉山中1・2年生、玉山小）

8月6日、玉山地区公民館主催の夏休み自主学習講座「未来につながるクリーンエネルギー」に1・2年生の全生徒が参加し姫神ウィンドパークを見学、風力発電について学んだ。

エ 玉山地区青少年健全育成会議、公民館、PTAの共催事業（保護者、地域）

11月19日、「自分からできる子を育てる親の魔法の言葉」と題した講演会に参加した。

（２）読書活動の習慣化

ア 朝読書＝学校の取組

月、水、木、金の朝10分間。金曜日の朝は、人権、N I E、復興、先人の順で配付された資料を読み、感想を書くこと等を行っている。

イ 図書館活動の充実＝学校の取組

委員が中心となり、本の紹介を行ったり、昼休み等に入りやすい図書館の雰囲気づくりを行ったりしている。

（３）情報メディアとの共生

ア 盛岡市5か条のスマホルール（生徒＝全校集会、地区懇談会＝保護者）

7月4日の地区懇談会で内容を紹介し、各家庭でのルールづくり等、共通理解を図った。

イ 情報モラル教室の開催（全校生徒）＝学校の取組

3学期に予定している。

（４）コミュニティ・スクールの推進に向けた取組

昨年度から発足。今年度は5月27日に第1回学校運営協議会を開催。玉山小・玉山中の経営方針の公表と承認を行った。

2 成果と課題

玉山中学校区では玉山地区青少年健全育成会議、玉山地区公民館による「学校と地域が連携した活動」が行われている。玉山地区青少年健全育成会主催の子育て講演会は、保護者・地域の方々が考えたり、相談したりする場面があり、好評であった。R7年度末の閉校に向けて、玉山の教育を考える会・閉校記念事業実行委員会が今年度5回開催されている。

<実践主題>

地域・家庭・学校の連携により、

賢く心豊かでたくましい子どもを育てよう

渋民中学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

ア 郷土芸能伝承活動

渋中芸術祭、3周年目にあたり、地域の郷土芸能「下田田植踊り」を保存会と渋民中学生・保護者で発表した。

イ 文化・芸術活動

①渋中芸術祭にて、本校の群読劇「風の吹くところ」「アテルイ」を地域・保護者の協力を得て発表した。

②和太鼓朗読劇「啄木日記～君に与ふウタ～」の公演や、愛宕火防太鼓を鑑賞した。

ウ 啄木祭・啄木マラソンの参加

①地域行事ある啄木祭、啄木マラソンに参加し、啄木祭では群読劇「風の吹くところ」を発表し、啄木マラソンでは、雨天のため有志で参加し、3km走った。

②地域ボランティア活動として、「啄木マラソン」会場の清掃（草取り・ゴミ拾い）作業を全校で行った。

(2) 読書活動の習慣化

ア 朝読書の取組 ・全校で実施

イ NIE（新聞を教材として活用する活動）の実践

①各学級に新聞を一部配付し、オンライン新聞の併用とで、朝読書の時間に活動した。

②授業での活用

新聞各紙のちがいについて（国語）や社会事象への関心（社会）で取り組んだ。

(3) 情報メディアとの共生

ア 家庭での情報機器利用のルールづくり

イ 情報モラル講座の開催

①講 師：岩手県警察 生活安全課

②参加者：全校生徒・保護者（渋民中体育館）

③情報モラルの醸成と、トラブルの未然防止に向けた取組ができた。

2 成果と課題

地域・PTA・芸術団体・学校が連携した、渋中芸術祭を実施した。渋中芸術祭は生徒たちと地域の方々とのふれ合いや、貴重な芸術鑑賞の場となった。また、地域行事「啄木祭」「啄木マラソン」に参加し、地域や行政、各家庭と学校とが、より良い関係を築くことができた。



【芸術祭ポスター】



【下田田植踊り】

＜実践主題＞

地域との関わりを深め、生徒の健全育成を推進しよう

巻堀中学校区教育振興協議会

1 活動の実際

(1) 体験活動への参加促進

- ア 生徒会が中心となって、夏休みに地域のごみ拾いボランティアを実施した。
- イ 地域の方から盆踊りの太鼓の叩き方や踊り方をご指導いただき、親子盆踊り大会にて交流した。
- ウ 地域企業等の訪問による職業体験活動を実施した。
- エ 今年度は感染症予防等のため、下記の活動を中止とした。
 - ①地域企業や施設等の協力による職場体験活動。
 - ②寿大学と連携した地区公民館付近の草取り。
 - ③地元の老人福祉施設の訪問や招待による、交流活動。

(2) 読書活動の習慣化

- ア 朝読書を日課に、読書習慣の定着を図った。
- イ 報道・図書委員会が、新刊図書のリクエストにより実際に書籍を購入し、読書意欲の喚起を行った。

(3) 情報メディアとの共生

- ア 巻堀中学校区の3校（巻堀中、巻堀小、好摩小）が連携し、定期テスト前の1週間、「すずらんウィーク」と称して、家庭学習の充実、インターネット等の適切な利用の確立・徹底を目指した取組を実施した。
- イ インターネットやSNS等の安全な使い方について学ぶ機会として、「情報モラル教室」を、長期休業に入る前の7月と12月、全校生徒を対象として実施した。

(4) コミュニティ・スクールの導入に向けた取組

- 本年度から巻堀中学校区3校（巻堀小・好摩小・巻堀中）合同で学校運営協議会を設立した。第2回学校運営協議会では熟議を行い、学校や地域の課題を共有し、目指す方向性を確認した。

2 成果と課題

- ・親子盆踊りの取り組みをととして、中学生を中心として地域ぐるみで文化を継承することの意義を確認し、地域や家庭の関わりを深めることができた。
- ・生徒、保護者、教職員、地域が繋がる機会が減少し、その影響が人間関係の希薄化、ネットやゲーム依存の増加等に影響を及ぼしているように感じる。地域や保護者がどのように関わっていくのかを吟味しながら、様々な活動を考えていく必要がある。
- ・今後も地域との関わりを深めながら、地域を担う一員としての意識の醸成を図りたい。